

平成27年度
英語教育改善のための
英語力調査事業(高等学校)
報告書



文部科学省

平成28年3月

平成 27 年度「英語教育改善のための英語力調査事業（高等学校）」報告書 目次

1 章 調査の概要	3
1. 調査の目的	
2. 調査事項及び方法	
3. 調査期間、調査対象	
4. 調査結果の解釈などに関する留意事項	
5. 調査問題の構成	
6. 出題内容	
7. 「書くこと」及び「話すこと」の採点基準	
8. CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）を参照した分析方法	
2 章 調査結果の概要	17
3 章 技能ごとの調査結果の分析	51
（1）読むこと ～Reading～	52
（2）聞くこと ～Listening～	62
（3）書くこと ～Writing～	73
（4）話すこと ～Speaking～	82
4 章 質問紙調査結果の分析	93
5 章 学校の実践紹介	133
6 章 終章（松本主査）	177
<関連資料>	185
（1）「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する 検討委員会」の設置	186
説明（趣旨、取扱事項、実施方法、実施期間、その他）、執筆者協力者	
（2）本調査の背景に関する参考資料	188
（第 2 期教育振興基本計画、グローバル化に対応した英語教育改革実施計画など）	

<参考資料>

資料1：質問紙調査結果の分析（公立学校）	195
（1）生徒質問紙	196
（2）学校質問紙	209
（3）教員質問紙	212
資料2：質問紙調査結果と各技能のクロス集計（公立学校）	225
（1）生徒質問紙とリーディングのクロス集計結果	226
（2）生徒質問紙とリスニングのクロス集計結果	262
（3）生徒質問紙とライティングのクロス集計結果	298
（4）生徒質問紙とスピーキングのクロス集計結果	334
資料3：質問紙調査結果の分析（国立学校）	371
（1）生徒質問紙	372
（2）学校質問紙	385
（3）教員質問紙	388
資料4：質問紙調査結果と各技能のクロス集計（国立学校）	401
（1）生徒質問紙とリーディングのクロス集計結果	402
（2）生徒質問紙とリスニングのクロス集計結果	438
（3）生徒質問紙とライティングのクロス集計結果	474
（4）生徒質問紙とスピーキングのクロス集計結果	510

1章 調査の概要

1. 調査の目的

- 教育基本法に基づき策定された「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月閣議決定)において、グローバル人材の育成に向けた取組として、外部検定試験を活用した生徒の英語力の把握検証などによる戦略的な英語教育改善の取組の支援を行うとともに、高等学校卒業段階における英語力の目標が成果指標として掲げられた¹。
- 同年12月、文部科学省が公表した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」(平成25年12月)において、小・中・高の各学校段階を通じて英語教育を充実し、生徒の英語力を向上²することなどが提言されたことを踏まえ、フィージビリティ調査として本事業を実施した。
- 全国の無作為抽出による高等学校第3学年約8.1万人(約500校)を対象に、英語に関する4技能(読むこと、聞くこと、書くこと、話すこと)がバランスよく育成されているかという観点から本調査を実施し、生徒の英語力や英語の学習状況の把握・分析を通じて、学校における生徒への指導の充実や学習状況の改善に活用する。
- 平成26年度の旧学習指導要領で学んだ生徒に対する調査と、平成27年度の現行学習指導要領で学んだ生徒に対する調査について経年比較を行い、その分析結果を次期学習指導要領改訂の検討において参考にするを含め、今後の英語教育の充実・改善に生かすこととしている。
- なお、本調査は、高校生の英語教育の多様性を踏まえ、世界標準に基づいて日本の高校生全体の英語力を測定するため、CEFR(Common European Framework of Reference for Languages: ヨーロッパ言語共通参照枠)を参照して測定することとした。

¹ 第2期教育振興基本計画(平成25年～29年度)においては、グローバル人材育成に関する成果指標として、次の目標が掲げられた。

国際共通語としての英語力の向上

- ・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上、高等学校卒業段階:英検準2級程度～2級程度以上)を達成した中高校生の割合50%

² 同実施計画においては、将来目指す生徒の英語力として、高等学校卒業時に英検2級～準1級、TOEFL iBT 57点程度以上が示された。その後、「英語教育の在り方に関する有識者会議」報告(平成26年9月)において、生徒の英語力を把握し、きめ細かな指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげるため、従来設定されている英語力の目標(学習指導要領に沿って設定される目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上、高等学校卒業段階:英検準2級程度から2級程度以上)を達成した中高校生の割合50%)だけでなく、高等学校段階の生徒の特性・進路などに応じた英語力、例えば、高等学校卒業段階で、英検2級～準1級、TOEFL iBT 60点前後以上などを設定し、生徒の英語力の把握・分析・改善を行うことが必要であるとの指摘がなされた。

2. 調査事項及び方法

ア. 英語力調査

- ・学習指導要領に基づき、3技能（読むこと、聞くこと、書くこと）を対象とした試験を2単位時間（約100分）の中で実施した。
- ・「話すこと」については1校あたり1クラス程度を対象とし、1受験者あたり10分程度実施した。
- ・筆記テストの試験監督及びスピーキングテストの試験官は、調査実施校の英語担当教員等が担当し、スピーキングテストについては英語担当教員等が研修（送付された研修資料を使った事前研修）を受けた上で実施した。

イ. 質問紙調査（生徒、英語担当教員、学校）

- ・受験した生徒に対し、英語学習に関する関心・意欲や学習状況
 - ・調査実施校の英語担当教員に対し、指導や研修の参加状況
 - ・調査実施校に対し、指導計画の作成や研修の実施状況
- などについて質問紙調査を実施した。

ウ. 学校の取組事例

- ・調査実施校のうち、調査結果において特徴があった学校の取組について調査した。

3. 調査期間、調査対象

調査期間：平成27年6月末～7月末

※上記期間内において調査実施校が希望する日程で実施。なお、筆記テストの実施日とスピーキングテストの実施日を分けることも可能とした。

調査対象：全国の高等学校及び中等教育学校後期課程の第3学年約8.1万人を対象に実施。スピーキングテストについては約1.8万人（1校あたり1クラス程度）を対象に実施。

学校種別の参加生徒数は、以下のとおり。

- ① 公立学校：全国で無作為抽出した 475 校（約 7 万 9 千人）
- ② 国立学校：すべての国立大学法人附属高等学校及び中等教育学校（後期課程）
18 校（約 3 千人）

（受験した学校数、生徒数及び回答した教員数）

	校数	教員数	生徒数	
			リーディング リスニング ライティング	スピーキング
公立学校	475	2,826	78,827	16,985
国立学校	18	115	2,667	695
合計	493	2,941	81,494	17,680

4. 調査結果の解釈などに関する留意事項

本調査結果の解釈については、以下の点に留意されたい。

- ・本調査は、生徒に求められる英語力や学習状況について把握・分析を行うとともに、それらの結果を指導の改善に生かすことを目的としている。また、民間事業者により提供された試験を活用するものであり、調査の結果は、生徒に求められる英語力の一部、又は学校における教育活動の一側面に関するものである。したがって、学校が日常的に行う評価に加え、英語によるコミュニケーション能力の一つの指標として本調査結果をとらえるべきであることに留意した上で、効果的な指導改善に活用されたい。
- ・本調査において用いられた試験問題は、今後経年比較を行う際にも用いられることが考えられるため、原則非公開としている。ただし、指導改善のために活用できるよう、一部の問題については本報告書の中で公開して取り上げることとした。
- ・本報告書は、「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」（P. 186 参照）の委員各位の協力を得て作成した。

5. 調査問題の構成

- 「読むこと」：多肢選択式・3パート構成・43問（45分）
- 「聞くこと」：多肢選択式・2パート構成・36問（23分）
- 「書くこと」：自由記述式・2パート構成・2問（27分）
- 「話すこと」：音読、即興での質疑応答、ある程度準備した上での意見陳述についてそれぞれ評価基準を設け、英語教員等が面接を実施・6問（約10分）

〈問題構成の全体概要〉

	Reading 読むこと	Listening 聞くこと	Writing 書くこと	Speaking 話すこと
測定する力	実際の言語使用場面を前提とした英語コミュニケーション能力 (「知識・技能」の習得だけでなく、それらを活用して思考・判断・表現する総合的な力)			
問題構成	語い・語法問題 14問 (短文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力) ※A2～B1相当	課題解決問題 18問 (日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報(イラスト)と音声情報から、その場で求められている課題(タスク)を解決する力) ※A2～B1相当	意見展開問題 1問 (与えられたテーマに対して個人の経験や他の事例を元に意見と理由を述べる力) ※A2～B1相当	音読問題 1問 (適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話す力) ※A1相当
	概要把握問題 6問 (与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力) ※A2～B1相当	要点理解問題 18問 (英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする力) ※A2～B2相当	情報要約問題 1問 (英文音声で聞いた情報を理解し、指定語彙で要約して書く力) ※B1～B2相当	質疑応答問題4問 (試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力) ※A1～B1相当
	情報検索問題 8問 (与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力) ※A2～B1相当			意見陳述問題 1問 (与えられた話題について、事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する力) ※A2～B1相当
	要点理解問題 15問 (まとまった量の英文について、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力) ※B1～B2相当			

〈受験した生徒・調査実施校の英語担当教員・調査実施校に対する質問紙調査の構成〉

項目	内容
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○英語に関する意識(英語学習への関心、英語をどの程度身に付けたかなど) ○英語の授業における言語活動の状況 ○英語の学習情報・内容や学習時間 ○英語使用に関する経験(スピーチ・ディベート大会、イングリッシュキャンプ、留学など) ○高校入学後の英語の資格・検定試験の受験経験 など
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○授業における言語活動の指導状況(スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなど) ○授業における英語の使用状況 ○校内外の研修への参加状況 ○自己学習の状況 など
教員質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修の状況(模擬授業、授業相互参観など) ○校外研修への参加・活用状況 など

6. 出題内容

■読むこと

出題形式：多肢選択式・3パート構成・43問

実施時間：45分

読むこと	分野	測定する力	CEFRレベル
Part A	語彙・語法問題	短文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力	A2～B1レベル相当
Part B	概要把握問題	与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力	A2～B1レベル相当
	情報検索問題	与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力	A2～B1レベル相当
Part C	要点理解問題	まとまった量の英文について、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力	B1～B2レベル相当

■聞くこと

出題形式：多肢選択式・2パート構成・36問

実施時間：23分

聞くこと	分野	測定する力	CEFRレベル
Part A	課題解決問題	日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報から、その場で求められている課題（タスク）を解決する力	A2～B1レベル相当
Part B	要点理解問題	英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする力	A2～B2レベル相当

■書くこと

出題形式：自由記述式・2パート構成・2問

実施時間：27分

書くこと	分野	測定する力	CEFRレベル
1	意見展開問題	与えられたテーマについて、限られた時間の中で自分の意見とその理由を表現する力	A2～B1レベル相当
2	情報要約問題	ある事柄についての説明文を音声で聞き、聞いた情報を指定語数で要約する力	B1～B2レベル相当

■話すこと

出題形式：音読・1問

即興を前提とする質疑応答・4問

ある程度準備をした上での意見陳述・1問

※調査実施校の英語担当教員等が試験方法及び採点の事前研修をした上で面接を実施

実施時間：約10分

話すこと	分野	測定する力	CEFRレベル
Part A	音読問題	問題冊子に印刷された英文（69語）を音読する力	A1レベル相当
Part B	質疑応答問題	試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力	A1～B1レベル相当
Part C	意見陳述問題	事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する力	A2～B1レベル相当

■質問紙

<p>生徒への質問</p>	<p>○英語に関する意識 ・英語学習への関心 ・英語をどの程度身に付けたいか [国際社会で活躍、大学で専門的に学ぶ、海外留学、日常会話、大学入試など] ○英語の授業における言語活動の状況 ・生徒同士での話し合いや意見交換など ○英語の学習方法・内容や学習時間 ・英語の予習や復習以外の英語学習の状況 ・PCやタブレットなどの機器を活用した学習の状況 ○高校生になってからの英語使用に関する経験 [スピーチ・ディベート大会、イングリッシュキャンプ、ホームステイ、留学など] ○高校生になってからの英語の資格・検定試験の受験経験 など</p>
<p>教員への質問</p>	<p>○授業における言語活動の指導状況 ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなど ○授業における英語の使用状況 ○授業において生徒が英語で言語活動を行っている割合 ○校内外の研修会への参加状況 ○自分の英語力を向上させるための取組 ・英字新聞、テレビの英語講座、語学学校など ○英語の資格・検定試験の受験状況 など</p>
<p>学校への質問</p>	<p>○校内研修の実施状況 ・模擬授業、授業相互参観、事例研究など ○校外研修への参加・活用状況 ○言語活動に重点を置いた指導計画の作成状況 など</p>

7. 「書くこと」及び「話すこと」の採点基準

■書くこと

意見展開問題		内容・意見	表現・語彙	0点	1点	2点	3点	4点
				表現・文法	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかったり、使い方に誤りが見られたりするため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかったり、使い方に誤りが見られたりするため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	さまざまな語彙を文脈に合わせて適切に選ぶことができている。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができている。
内容・理由		自分の意見や立場をサポートする理由や具体例などを伝えることができている。	構成	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いたりしている。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られるため、伝えたい内容を理解できないところがある。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られることがあるため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	さまざまな文のパターンを用いることができている。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができている。	豊富で多様な文のパターンを用いることができている。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができている。
				英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いたりしている。	文と文とのつながりが悪かったり、言いたいことがうまくまとまっていなかったりするため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところが多くある。	文と文とのつながりがよくなかったり、言いたいことがうまくまとまっていなかったりするため、読み手が混乱して考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れもほぼ自然で、十分に考えを伝えることができている。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れが自然で一貫しており、考えを明確に伝えることができている。
情報要約問題		要点1	表現	0点	1点	2点	3点	4点
		要点2		英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いたりしている。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られるため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところが多くある。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られることがあるため、要約が十分に伝わらないところが部分的にある。	文法上の誤りがほぼ見られず、要約を伝えることができている。	文章全体の構成がよく、文法上の誤りがない。十分に要約を伝えることができている。

■話すこと

		配点	0点	1点	2点	3点
Part A 音読	音読の評価		適切に発音できる内容は限定的で、聞き手が理解するのに困難が伴う	母語アクセントが残っていたり、発音ミスも時にあったりするが、ほぼ適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話している	明確で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話している	
	内容の評価		相手の発言に対応した適切な内容で応答できているのは、Q1～Q4のうちの1つのみか1つも無い	相手の発言に対応した適切な内容で応答できているのは、Q1～Q4のうち半分程度である	相手の発言に対応した適切な内容で、Q1～Q4のほぼすべてに応答できている	相手の発言に対応した適切な内容で、Q1～Q4のすべてに応答できている
Part B 質疑応答	文法、表現の評価		使える文法や表現は限定的である。あるいは、Q1～Q4のうち1つ以下しか適切に活用できていない	Q1～Q4のうち2つ以上に適切に活用できているが、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返して出てくるが、平易な表現は正しく使えていて、伝えたい内容はほぼわかる	Q1～Q4のうち2つ以上に適切に活用できているが、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる	Q1～Q4のうち2つ以上に適切に活用できている。適切な文法や表現を用いている。誤りがあるが理解には影響しない
	内容、構成の評価		与えられた問いに対応した内容になっていない。あるいは内容が量的にほとんどないか断片的である	与えられた問いに対応した内容となっているが、単純な要素を列挙して平易な英文を並べている	与えられた問いに対応した内容となっているが、単純な要素を直接的につなぎ合わせて述べている	与えられた問いに対応した内容となっているが、論理展開がわかりやすい構成となっている
Part C 意見陳述	文法、表現の評価		使える文法や表現は限定的である。あるいは自分の言葉で話せた内容が十数語に満たない	自分の言葉で十数語程度以上は話して、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返して出てくるが、平易な表現は正しく使えていて、伝えたい内容はほぼわかる	自分の言葉で十数語程度以上は話して、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる	自分の言葉で十数語程度以上は話して、適切な文法や表現を用いている。誤りがあるが理解には影響しない

8. CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）を参照した分析方法

本調査における CEFR レベルの算出は、昨年度調査と同様、「生徒質問紙」に掲載の「英語 CAN-DO アンケート」への回答結果をもとに分析した。「英語 CAN-DO アンケート」の各アンケート項目は、文部科学省・科学研究費助成事業の CEFR-J 研究開発チーム（代表：投野由紀夫）の研究成果を用いた。CEFR の読むこと、聞くこと、書くこと、話すこと（発表）、話すこと（やりとり）の各 A1～B2 レベルに対応した CAN-DO 記述をベースにしつつ、更に A1 レベルを 3 段階に、また A2～B2 レベルを各 2 段階に細分化した。

○「英語 CAN-DO アンケート」で用いた CEFR レベル段階数：

B2 レベル→ B2.1、B2.2 の 2 段階（B2.1 よりも B2.2 が高いレベル）

B1 レベル→ B1.1、B1.2 の 2 段階（B1.1 よりも B1.2 が高いレベル）

A2 レベル→ A2.1、A2.2 の 2 段階（A2.1 よりも A2.2 が高いレベル）

A1 レベル→ A1.1、A1.2、A1.3 の 3 段階（A1.1 よりも A1.2 が、A1.2 よりも A1.3 が高いレベル）

※P. 14～15 参照

また、各アンケート項目への回答は、以下の例のような 4 つの選択肢の中から当てはまるものを 1 つ回答する形式とした。

○アンケート質問例：

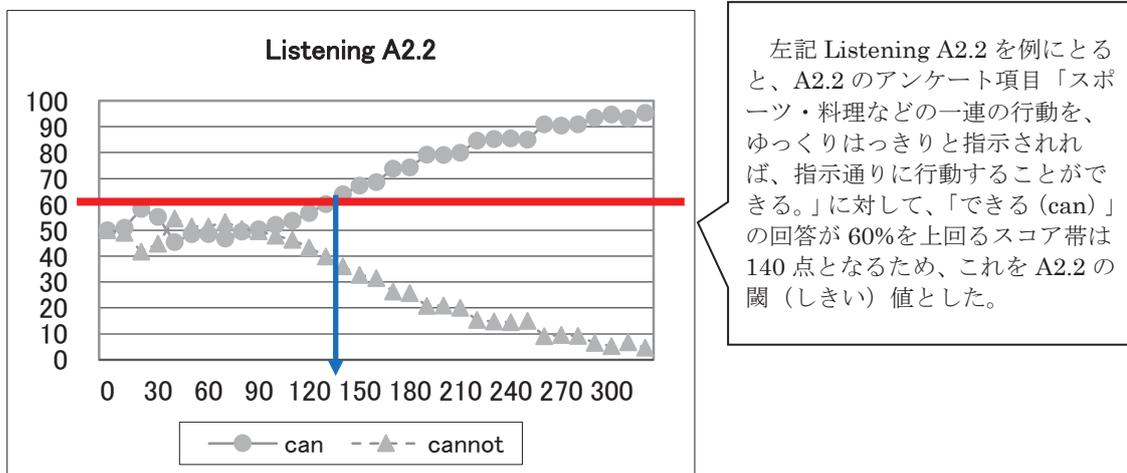
簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探することができる。

- ① 経験したことがあり、できる
- ② 経験したことはあるが、できない
- ③ 経験したことはないが、できると思う
- ④ 経験したことがなく、できないと思う

集計に当たっては、各アンケート項目で記述している言語活動が「できる (can)」と判定する方法を以下の基準に従って求め、「できる (can)」と判定された回答者 (=受験者) の英語テストのスコアと CEFR レベルとの閾 (しきい) 値を設定した。

○ 閾値の設定方法：

- ・「英語 CAN-DO アンケート」への各回答のうち、「経験したことがあり、できる」と「経験したことはないが、できると思う」の二つを当該言語活動が「できる (can)」の回答とみなし、「経験したことはあるが、できない」と「経験したことがなく、できないと思う」の二つを当該言語活動が「できない (cannot)」の回答とみなした。
- ・アンケート回答者のスコアが高まるにつれて「できない (cannot)」の回答割合が減少していき、一方で「できる (can)」の回答割合が増加する。そこで、アンケート回答の「できる (can)」の割合が 60%³を上回っている CEFR レベルを抽出して、英語テストの技能別スコア帯に対応した CEFR レベルとした。
- ・英語テストの技能別スコア帯に対応した CEFR レベルを決定する際、A1 レベルを細分化した 3 段階のうちの 2 段階目、また A2～B2 レベルを細分化した各 2 段階のうちより高い 2 段階目のアンケート項目において「できる (can)」の割合が 60%を上回っている CEFR レベルを、英語テストの技能別スコア帯に対応した CEFR レベルとした。
- ・平成 27 年度調査については、上記の計算の結果、平成 26 年度調査時の閾値とほぼ同じ結果になったため、経年比較がしやすいように平成 26 年と同じ閾値を採用した。



³ 本調査における 60%という cut point の設定については、これまでの様々な調査結果から「日本人学習者は自分の能力を過小評価する傾向にあること」、「より確実な CAN-DO 項目とするためには、50%よりも高い位置に cut point を設定した方がよいこと」がわかっており (ベネッセコーポレーション、「『GTEC for STUDENTS 推奨スコアガイドライン』作成調査報告」、2011 年)、60%を選択した。なお、これよりももっと高いところに cut point を設定すれば更に確実性は高まるが、一方で学習者が「できる」と言えることが減少していくことを想定した。

【参考】CEFR-J ディスクリプター (A1.1~B2.2 のみ抜粋)

○読むこと

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
「駐車禁止」・「飲食禁止」等の日常生活で使われる非常に短い簡単な指示を読み、理解することができる。	簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われる非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの、説明文を理解することができる。	簡単な英語で表現されている、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を採ることができる。	学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の要点を理解することができる。	インターネットや参考図書などを調べて、文章の構成を意識しながら、学業や仕事に関係ある情報を手に入れることができる。必要であれば時に辞書を用いて、図表と関連づけながら理解することができる。	現代の問題など一般の関心の高いトピックを扱った文章を、辞書を使わずに読み、複数の視点の相違点や共通点を比較しながら読むことができる。	記事やレポートなどのやや複雑な文章を一読し、文章の重要度を判断することができる。精密な読みが必要と判断した場合は、読む速さや読み方を変えて、正確に読むことができる。

○聞くこと

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
当人に向かって、ゆっくりはっきりと話されれば、「立て」「座れ」「止まれ」といった短い簡単な指示を理解することができる。	趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。	ゆっくりはっきりと放送されれば、公共の乗り物や駅や空港の短い簡潔なアナウンスを理解することができる。	スポーツ・料理などの一連の行動を、ゆっくりはっきりと指示されれば、指示通りに行動することができる。	外国の行事や習慣などに関する説明の概要を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	自然な速さの録音や放送（天気予報や空港のアナウンスなど）を聞いて、自分に興味のある、具体的な情報の大部分を聞き取ることができる。	自然な速さの標準的な英語で話されている、テレビ番組や映画の母語話者同士の会話の要点を理解できる。	非母語話者への配慮としての言語的調整がなされていなくても、母語話者同士の多様な会話の流れ（テレビ、映画など）についていくことができる。

○書くこと

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
住所・氏名・職業などの項目がある表を埋めることができる。	簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと（好き嫌い、家族、学校生活など）について短い文章を書くことができる。	自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。	日常的・個人的な内容であれば、招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。	身の回りの出来事や趣味、場所、仕事などについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。	自分に直接関わりのある環境（学校、職場、地域など）での出来事を、身近な状況で使われる語彙・文法を、身近な程度まとまりのあるかたちで、描写することができる。	新聞記事や映画などについて、専門的でない語彙や複雑でない文法構造を用いて、自分の意見を含めて、あらすじをまとめたり、基本的な内容を報告したりすることができる。	自分の専門分野であれば、メールやファックス、ビジネス・レターなどのビジネス文書を、感情の度合いをある程度含め、かつ用途に合った適切な文体で、書くことができる。	自分の専門分野や興味のある事柄であれば、複雑な内容を含む報告書や論文などを、原因や結果、仮定的な状況も考慮しつつ、明確かつ詳細な文章で書くことができる。

○話すこと（発表）

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報（家族や趣味など）を伝えることができる。	前もって発話することを意識した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単な意見を言うことができる。	前もって発話することを意識した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で意見を言うことができる。	一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。	写真や絵、地図などの視覚的補助を利用して、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関連のあるトピック（自分のこと、学校のこと、地域のことなど）について、短いスピーチをすることができる。	使える語句や表現を覚えて、自分の経験や夢、希望を順序だてて、話しを広げながら、ある程度詳しく語るることができる。	短い読み物か短い新聞記事であれば、ある程度の流暢さをもって、自分の感想や考えを加えながら、あらすじや要点を順序だてて伝えることができる。	ある視点に賛成または反対の理由や代替案などをあげて、事前に用意されたプレゼンテーションを聴衆の前で流暢に行うことができ、一連の質問にもある程度流暢に対応ができる。	要点とそれに関連する詳細の両方に焦点を当てながら、流暢にプレゼンテーションができ、また、あらかじめ用意されたテキストから自然にはなれて、聴衆が興味のある点に対応してプレゼンテーションの内容を調整し、そこでもかなり流暢に容易に表現できる。

○話すこと（やりとり）

A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。	基本的な語や言い回しを使って日常のやりとり(何ができるかできないかや色についてのやりとりなど)において単純に回答することができる。	趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。	順序を表す表現であるfirst, then, nextなどのつなぎ言葉や「右に曲がって」や「まっすぐ行って」などの基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。	簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を較べたりすることができる。	身近なトピック(学校・趣味・将来の希望)について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。	病院や市役所といった場所において、詳細にまた自信を持って、問題を説明することができる。関連する詳細な情報を提供して、その結果として正しい処置を受けることができる。	ある程度なじみのあるトピックならば、新聞・インターネットで読んだり、テレビで見たニュースの要点について議論することができる。	一般的な分野から、文化、学術などの、専門的な分野まで、幅広いトピックの会話に積極的に参加し、自分の考えを正確かつ流暢に表現することができる。

【参考】CEFR (Common European Framework of Reference for Languages : ヨーロッパ言語共通参照枠)

- ・CEFR は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001年に欧州評議会 (Council of Europe) が発表した。現在、欧州域内外で使われている。
- ・欧州域内では、国により、CEFR の「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施する際に用いられたりしている。

熟練した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができる。住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

【参考】各試験団体のデータによる CEFR との対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400		7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945** S&W 360**
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785** S&W 310**
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550** S&W 240**
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225** S&W 160**
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	-564 L&R&W -484	2.0				200-380 L&R 120** S&W 80**

※各試験団体の公表資料より文部科学省において作成

▼出典

■ Cambridge English : ケンブリッジ大学英語検定機構 http://www.cambridgeenglish.org/jp/images/183107-page2_4_scale-scores.pdf

■ 英検 : 日本英語検定協会

<http://www.eiken.or.jp/eiken/group/result/>

■ GTEC : ベネッセコーポレーションによる資料より

「L&R&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

■ IELTS : プリティッシュ・カウンシル (および日本英語検定協会) 資料より

■ TEAP : 第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

■ TOEFL : 米国ETSPDF

<http://www.eiken.or.jp/eiken/group/result/>

■ TOEIC : IIBC 「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

<http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html>

2章 調査結果の概要

1. 国立・公立学校全体の技能別調査結果

- 全技能において課題はあるものの、平成 26 年度と比べ、「読むこと」、「聞くこと」及び「書くこと」において、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）¹ A1 レベルの割合が減少するとともに A2 レベル以上では増加しており、確実な英語力の向上が見られる。

※平成 26 年度調査と比較した A2 レベル以上の増加

読むこと：6.3 ポイント 聞くこと：3.9 ポイント 書くこと：6.0 ポイント

- 「書くこと」の得点者は全体の約 82%（無回答者及び 0 点：17.6%）と平成 26 年度に比べ約 12 ポイント以上増加し、改善が見られる。一方、「話すこと」では平均点はわずかに上昇したものの、平成 26 年度調査と同様、依然として課題が大きい。

【国立・公立学校全体のスコア分布】

＜読むこと＞					＜聞くこと＞									
Reading		平成26年度			平成27年度			Listening		平成26年度			平成27年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	人数	割合			
B2	320	77	0.2%	66	0.2%	B2	320	175	0.3%	255	0.3%			
	310	18		30			88							
	300	27		63			97							
B1	290	37	2.0%	90	2.6%	B1	290	68	2.0%	121	2.7%			
	280	69		98			138							
	270	82		116			240							
	260	107		180			234							
	250	157		234			330							
	240	195		336			423							
	230	317		445			526							
	220	420		630			731							
A2	210	561	25.1%	883	30.8%	A2	220	454	21.8%	877	25.0%			
	200	778		1158			1191							
	190	1124		1536			1528							
	180	1477		2144			1910							
	170	1956		2776			2406							
	160	2610		3854			2994							
	150	3545		5278			3854							
A1	140	5245	72.7%	7360	66.4%	A1	140	4034	75.9%	4851	71.9%			
	130	8192		10159			6256							
	120	11240		12925			7863							
	110	12504		12915			9368							
	100	1796		5543			9108							
	90	4698		4907			8630							
	80	1823		2043			6839							
	70	604		700			4311							
	60	208		240			2602							
	50	76		106			1308							
	40	51		35			646							
	30	19		38			332							
	20	2		2			146							
10	0	0	149											
0	285	337	537											
平均	129.4		133.6		平均	120.3		122.9						
調査対象	68,854		81,227		調査対象	68,854		81,227						

¹ CEFR は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001 年に欧州評議会（Council of Europe）が発表した。現在、欧州域内外で使われている。欧州域内では、国により、CEFR の「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施する際に用いられたりしている。本調査ではテスト設計上、CEFR の A1～B2 までのレベルを「読むこと」及び「聞くこと」は 10 点刻み、「書くこと」は 5 点刻み、「話すこと」は 1 点刻みで設定し、スコア分布の状況を見ることとした。

※第 2 期教育振興基本計画においては、生徒の英語力の目標を、中学校卒業段階：英検 3 級程度（CEFR の A1 レベル）以上、高等学校卒業段階：英検準 2 級程度～2 級程度（同 A2～B1 レベル）以上を達成した中高校生の割合が 50%としている。

<書くこと>

Writing		平成26年度		平成27年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
B2	140	2	0.0%	3	0.0%
	135	0		1	
	130	3		2	
B1	125	7	0.7%	5	1.0%
	120	33		38	
	115	45		75	
	110	175		290	
	105	222		441	
A2	100	578	12.8%	923	18.5%
	95	608		901	
	90	1,183		1,629	
	85	946		1,783	
	80	1,804		2,329	
	75	1,746		3,766	
	70	1,971		3,750	
A1	65	1,816	86.5%	4,690	80.4%
	60	2,347		3,806	
	55	1,978		4,249	
	50	2,516		3,732	
	45	2,111		2,491	
	40	2,417		3,261	
	35	1,988		2,269	
	30	2,497		2,697	
	25	2,080		2,890	
	20	2,258		3,583	
	15	2,167		4,655	
	10	2,562		12,879	
	5	2,913		0	
	0	3,088		14,356	
	平均	27.2			
調査対象	69,062		81,494		
0点	20,139	29.2%	14,356	17.6%	

<話すこと>

Speaking		平成26年度		平成27年度		
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合	
B1	14	274	1.7%	315	1.8%	
	13	272		305		
A2	12	415	11.1%	448	11.0%	
	11	501		505		
	10	657		686		
	9	691		813		
A1	8	770	87.2%	952	87.2%	
	7	946		1,082		
	6	1,185		1,218		
	5	1,632		1,610		
	4	1,105		1,049		
	3	1,648		1,611		
	2	1,450		0		
	1	2,827		3,933		
	0	2,210		3,153		
	平均	4.5				4.6
	調査対象	16,583				17,680
0点	2,210	13.3%	3,153	17.8%		

2. 公立学校の技能別調査結果及び課題と指導改善のポイント

- 平成 26 年度と比べ、すべての技能において、公立学校では CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）A1 レベルの割合が減少するとともに A2 レベル以上では増加しており、確実な英語力の向上が見られる。

※平成 26 年度調査と比較した A2 レベル以上の増加

読むこと：7.3 ポイント 聞くこと：4.9 ポイント

書くこと：6.9 ポイント 話すこと：0.5 ポイント

- 「書くこと」の得点者は全体の約 82%（無回答者及び 0 点：18.1%）と平成 26 年度に比べ 10 ポイント以上増加し、改善が見られる。一方、「話すこと」では平均点は上昇したものの、平成 26 年度調査と同様、依然として課題が大きい。

【公立学校のスコア分布】

＜読むこと＞						＜聞くこと＞					
Reading		平成26年度		平成27年度		Listening		平成26年度		平成27年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
B2	320	14	0.0%	30	0.1%	B2	320	55	0.1%	123	0.2%
	310	3		14			18				
	300	7		35			56				
B1	290	11	1.2%	41	2.0%	B1	300	30	1.2%	62	2.1%
	280	34		51			77				
	270	36		73			90				
	260	47		122			176				
	250	82		175			238				
	240	108		250			342				
	230	188		347			414				
	220	272		503			607				
A2	210	404	23.5%	730	29.9%	A2	210	444	20.3%	751	24.2%
	200	556		1007			1046				
	190	854		1365			1377				
	180	1204		1957			1770				
	170	1707		2580			2241				
	160	2367		3648			2835				
	150	3324		5063			3683				
A1	140	5031	75.3%	7144	68.0%	A1	140	3857	78.4%	4700	73.6%
	130	7989		9663			6111				
	120	11631		12791			7728				
	110	12398		12821			6283				
	100	7740		4486			4326				
	90	4663		4891			4511				
	80	1813		2038			1794				
	70	595		696			4280				
	60	206		240			2594				
	50	75		105			1299				
	40	50		35			842				
	30	18		35			331				
	20	1		1			144				
	10	0		0			147				
0	282	332	529								
平均		126.7		131.9		平均		117.1		120.7	
調査対象		65,711		78,569		調査対象		65,711		78,569	

<書くこと>

<話すこと>

Writing		平成26年度		平成27年度		Speaking		平成26年度		平成27年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
B2	140	0	0.0%	0	0.0%	B1	14	166	1.0%	211	1.2%
	135	0		1			239				
	130	0		0		A2	12	330	9.5%	390	9.8%
	125	2		2			418				
120	6	18	559	611							
115	10	46	621	748							
B1	110	59	0.3%	179	0.7%	A1	8	718	89.5%	905	89.0%
	105	101		288			898	1026			
	100	306		679			1143	1168			
	95	420		726			1602	1569			
A2	90	829	10.7%	1,370	17.2%		6	1085		1028	
	85	737		1,577			3	1629		1601	
	80	1,465		2,130			2	1444		0	
	75	1,525		3,515			1	2816		3,918	
	70	1,752		3,563			0	2,210		3,149	
	65	1,668		4,518			42	43			
A1	60	2,169	89.1%	3,709	82.1%	平均	4.2	37.5			
	55	1,876		4,130		調査対象	15,832	16,985			
	50	2,400		3,651		0点	2,210	3,149			
	45	2,039		2,435							
	40	2,346		3,208							
	35	1,940		2,234							
	30	2,441		2,668							
	25	2,045		2,861							
	20	2,226		3,551							
	15	2,151		4,621							
	10	2,529		12,844							
	5	2,889		0							
	0	20,078		14,303							
	平均			24.9			37.5				
調査対象		65,904		78,827							
0点		20,059	30.4%	14,303	18.1%						

課題と指導改善のポイント

1. 総論（平成 26・27 年度の経年比較）

- ・すべての技能において、依然として課題がある。CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）A1 レベルの割合が減少（「読むこと」75.3%→68.0%）するとともに A2 レベル以上が増加（「読むこと」24.7%→32.0%）し、英語力の向上がみられる。
- ・「書くこと」の得点者は全体の約 82%（無回答者及び 0 点の割合が減少：30.4%→18.1%）と 10 ポイント以上増加し、改善がみられる。「話すこと」では平均点はわずかに上昇したが、依然として課題が大きい。

2. 生徒の英語学習に対する意識

- 「英語の学習は好きですか。」
 - ・「英語の学習が好きだ」と回答した生徒は 44.5%（昨年度比 2.9 ポイント増加）と、昨年度より改善した。一方「英語の学習が好きではない」と回答した生徒は依然として半数を超えている。
 - ・「話すこと」のテストスコアが高いほど、また、「読むこと」のテストスコアが高いほど、「英語の学習が好きだ」と回答した生徒の割合が高い。
- 「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。」
 - ・「①国際社会で活躍できるようになりたい」、「②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい」という回答が、昨年度より増加（①：2.3 ポイント増加、②：1.4 ポイント増加）した。
 - ・昨年度と同様、テストスコアが高いほど、「①国際社会で活躍できるようになりたい」、「②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい」といった将来の英語使用のイメージが明確な生徒の割合が高い。

〈2. の改善の方向性〉

- ⇒ 生徒が「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、主体的に学ぶ意欲・態度の育成を含めた具体的な教育目標（指標形式の目標を含む）を設定し、生徒の学ぶ意欲の向上を図るようにする。

併せて、主体的・協働的な学びにつながる学習・指導方法（アクティブ・ラーニングの視点を含む）、及び評価方法の在り方を検討・改善する。

3. 生徒の4技能の言語活動に対する意識

◆話すこと◆

○「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。」

・「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていた」と回答した生徒は**30.7%**と少ないが、改善は見られる（昨年度比**7.8**ポイント増加）。

・「話すこと」、「書くこと」のテストスコアが高いほど、スピーチやプレゼンテーションを経験した生徒の割合が高い。

○「英語でディベートやディスカッションをしていたと思いますか。」

・「英語でディベートやディスカッションをしていた」と回答した生徒は**23.6%**と少ないが、改善はみられる（昨年度比**6.3**ポイント増加）。

・「話すこと」、「書くこと」のテストスコアが高いほど、ディベートやディスカッションを経験した生徒の割合が高い。

○「与えられた課題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていたと思いますか。」（平成27年度新設項目）

・「与えられた課題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていた」と回答した生徒は**30.4%**と少ない。

・「話すこと」、「読むこと」のテストスコアが高いほど、即興で話す活動を経験した生徒の割合が高い。

◆聞くこと・読むこと◆

○「英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていたと思いますか。」

・「英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていた」と回答した生徒は**57.6%**と半数を上回る。

・「聞くこと」・「読むこと」ともに、**A2**レベル以上では、同割合が**60%**を超える。

◆聞くこと◆

○「英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。」

・「英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていた」と回答した生徒は**59.5%**（昨年度比**1.3**ポイント増加）であった。

・「聞くこと」のテストスコアが高いほど、「英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」と回答した生徒の割合が高い。

◆読むこと◆

○「英語を読んで、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。」

・「英語を読んで、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていた」と回答した生徒は **67.6%** (昨年度同様)。

・「読むこと」のテストスコアが高いほど、「英語を読んで、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」と回答した生徒の割合が高い。

○「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていたと思いますか。」

・「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていた」と回答した生徒(選択肢①②合計)は **54.7%**と半数を上回る。特に **B1 レベル以上では、70%を超える。**

◆技能統合型の活動◆

○「英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。」

・「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていた」と回答した生徒は **41.8%** (昨年度比 **6.6** ポイント増加)。

・「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思う」と回答した生徒の割合が高い。

○「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。」

・「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた」と回答した生徒は **42.5%** (昨年度比 **3.8** ポイント増加)。

・「書くこと」のテストスコアが高いほど、「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思う」と回答した生徒の割合が高い。

〈3. の改善の方向性〉

- ◇ 基礎的な知識・技術を活用し、生徒の興味・関心が高い話題や時事問題、社会的な話題など幅広い話題について「発表、討論・議論、交渉」などの言語活動を豊富に経験させ、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする総合的なコミュニケーション能力を高める必要がある。
- ◇ 併せて、「聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする」など複数の技能を統合した言語活動を通して、自らが課題を発見し、主体的・協働的に課題を探求し、考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習・指導方法（アクティブ・ラーニングの視点を含む）や評価を行うことが必要。

4. 教員の授業における言語活動の指導に対する意識

- 「スピーチやプレゼンテーションを行っていますか。」
- 「ディベートやディスカッションを行っていますか。」
 - ・ 「スピーチやプレゼンテーションを行っている」と回答した教員は 34.8%（昨年度比 6.8 ポイント増加）。
 - ・ 「ディベートやディスカッションを行っている」と回答した教員は昨年度より 3.7 ポイント増加したものの、依然として 10.6%と非常に少ない。
- 「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか。」
- 「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか。」
 - ・ 「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話合いや意見交換の活動を行っている」と回答した教員は 39.7%、「書く活動を行っている」と回答した教員は 46.7%。いずれの活動も昨年度より増加（意見交換：6.7 ポイント増加、書く活動：7.0 ポイント増加）している。

〈4. の改善の方向性〉

- ◇ 教員養成・研修において、2. 3. の改善の方向性に沿った実践的な内容の改善が必要。
 - ペア・ワーク、グループ・ワークなどを含めた学習・指導方法、時事問題や社会的な話題などについて「発表、討論・議論、交渉」などを行う模擬授業、「話す」「書く」の能力を適切に測るパフォーマンステストなどの改善を図ることが必要。

3. 公立学校の質問紙調査結果

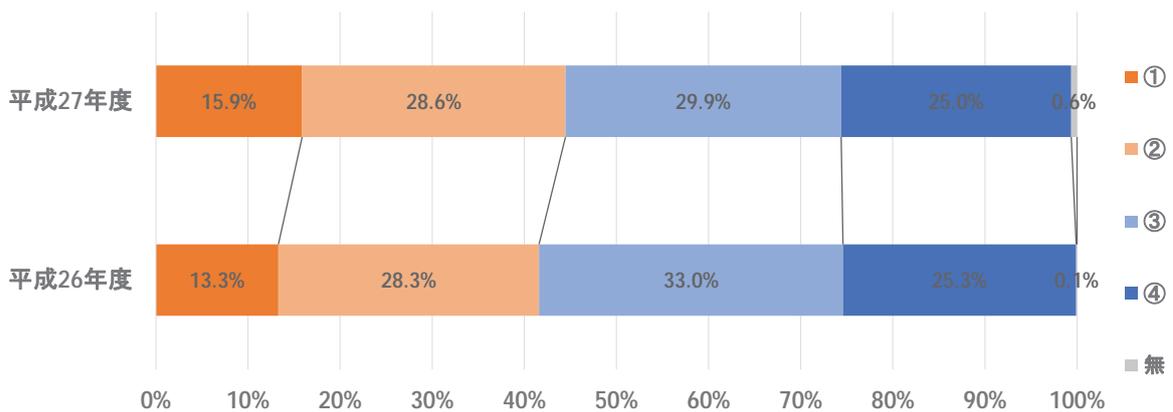
①生徒質問紙調査結果の主な特徴

【英語学習に対する意識】

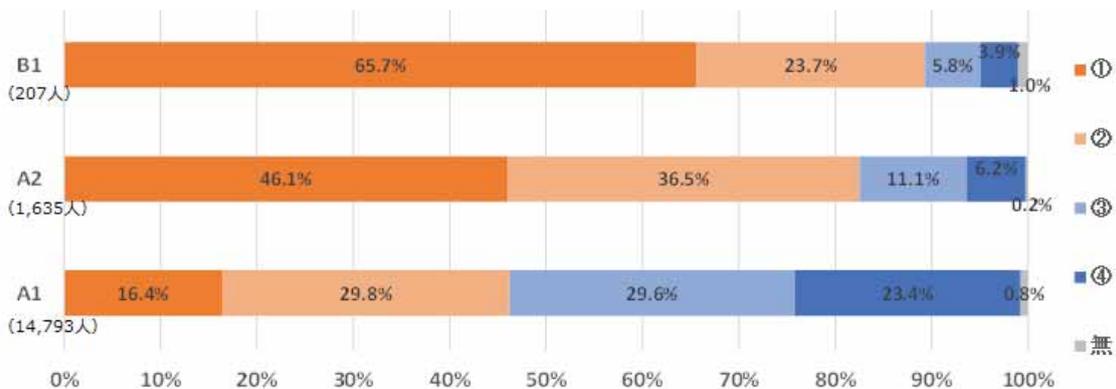
- 「英語の学習が好きだ」と回答した生徒（選択肢①②合計）は44.5%。平成26年度より2.9ポイント増加したものの、「英語の学習が好きではない」と回答した生徒（選択肢③④合計）が半数を超えている。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語の学習が好きだ」と回答した生徒（選択肢①②合計）の割合が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 英語の学習は好きですか。最も当てはまるものを1つ選んでください。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■「話すこと」のテスト結果とのクロス

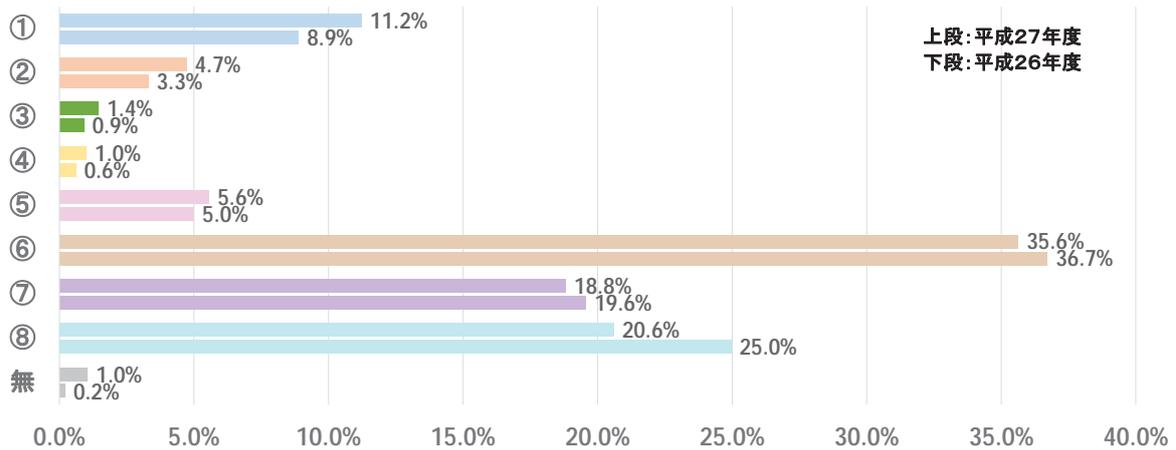


【将来の英語使用のイメージ】

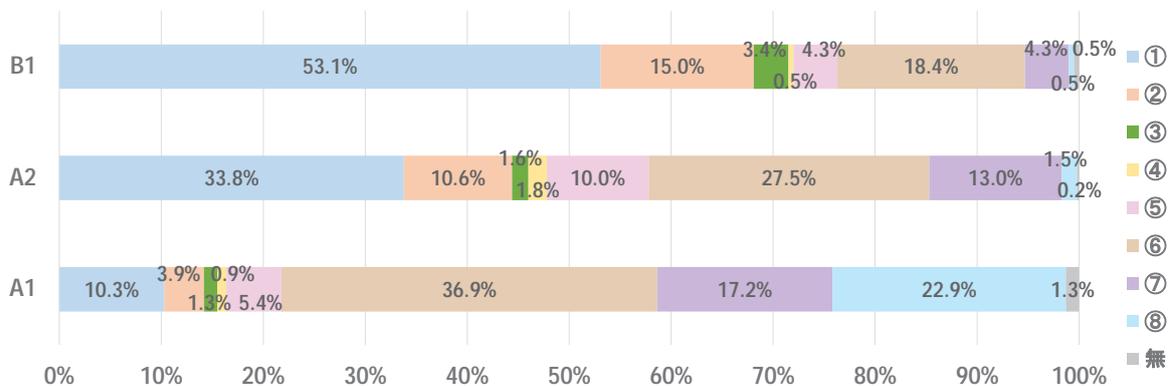
- 「①国際社会で活躍できるようになりたい」、「②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになるになりたい」という回答が、平成26年度より増加（①：2.3ポイント増加、②：1.4ポイント増加）した。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、「①国際社会で活躍できるようになりたい」と回答した生徒の割合が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい
- ②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになるになりたい
- ③高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい
- ④高校在学中に留学して、海外の高校の授業に参加できるようになりたい
- ⑤海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになるになりたい
- ⑥海外旅行などをするときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになるになりたい
- ⑦大学入試に対応できる力をつけたい
- ⑧特に学校の授業以外での利用を考えていない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



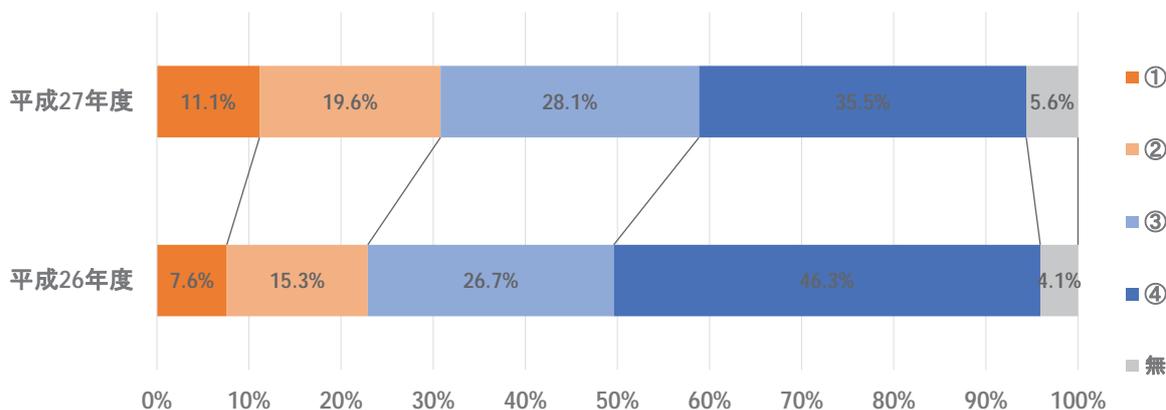
【授業（第2学年）における言語活動の経験】

<生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「話すこと」>

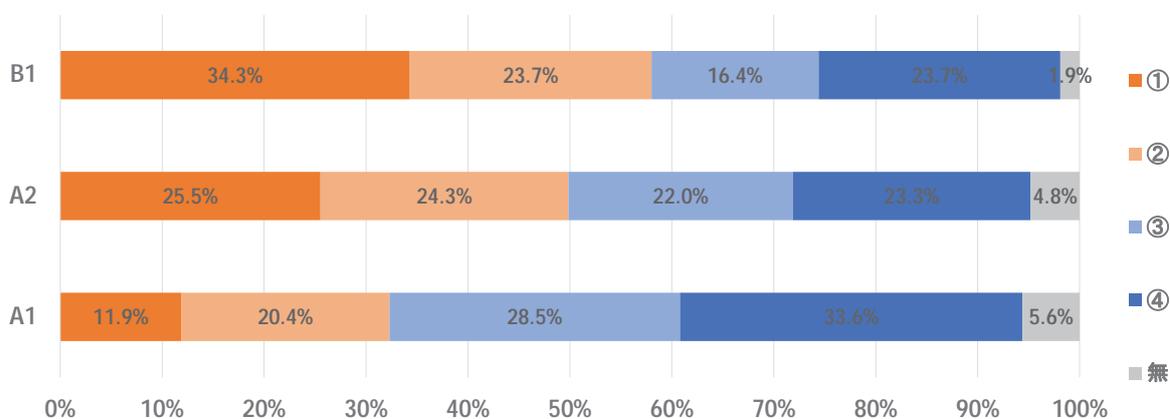
- 「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）は30.7%で、平成26年度より7.8ポイント増加し、改善が見られる。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）の割合が高い。（「書くこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

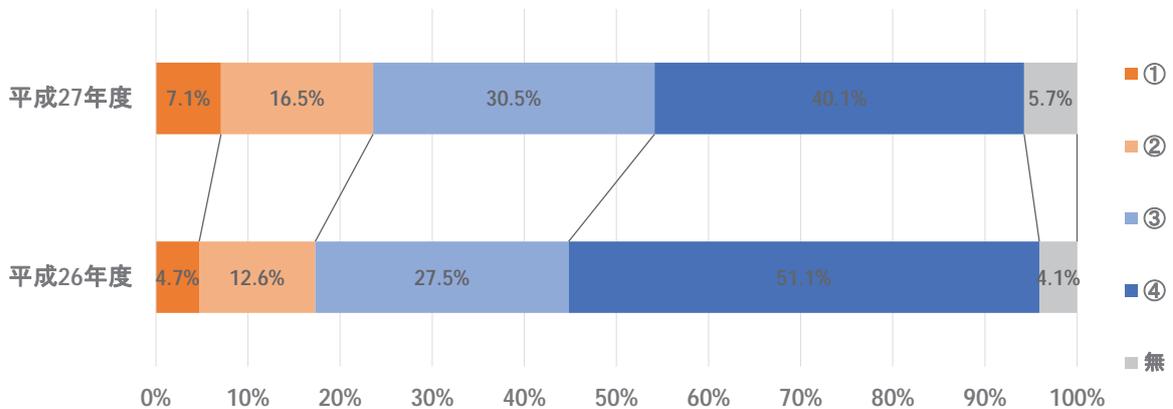


<生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「話すこと」>

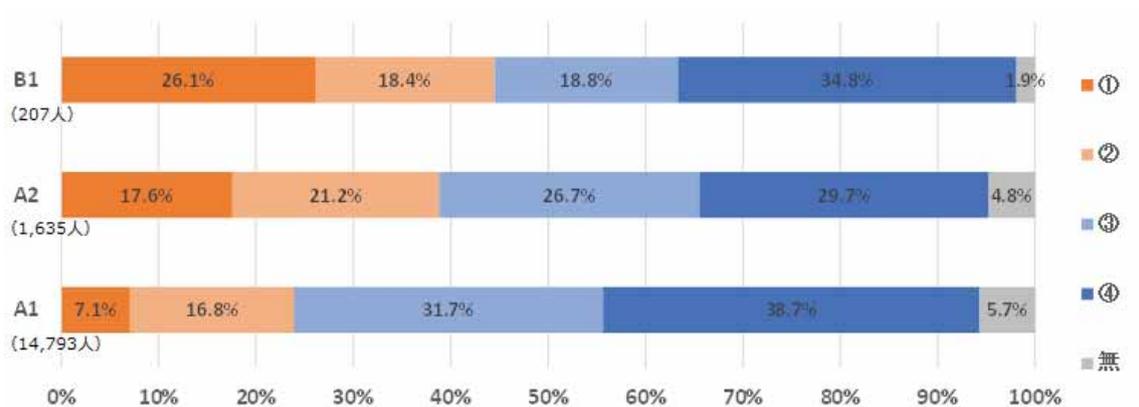
- 「英語でディベートやディスカッションをしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）は23.6%で、平成26年度より6.3ポイント増加し、改善が見られる。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でディベートやディスカッションをしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）の割合が高い。（「書くこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、英語でディベートやディスカッションをしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

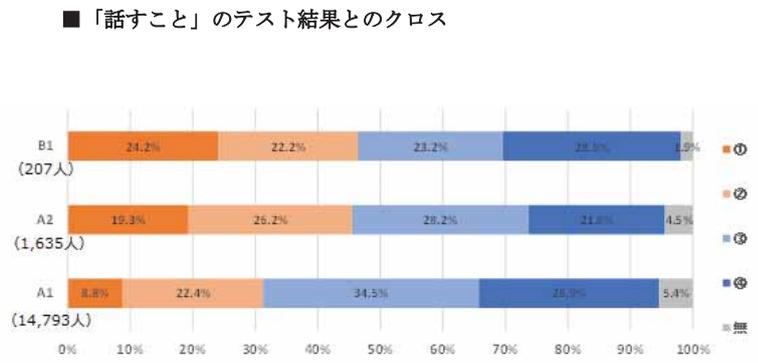
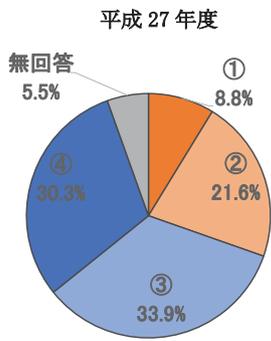


<生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「話すこと」>

- 「与えられた課題について、(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしてい
た」と回答した生徒(選択肢①②合計)の割合は30.4%であった。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「与えられた課題について、
(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていた」と回答した生徒(選択肢①
②合計)の割合が高い。(「読むこと」についても同様の傾向)

問 第2学年での英語の授業では、与えられた課題について、(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていた
と思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



＜生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「聞くこと」「読むこと」＞

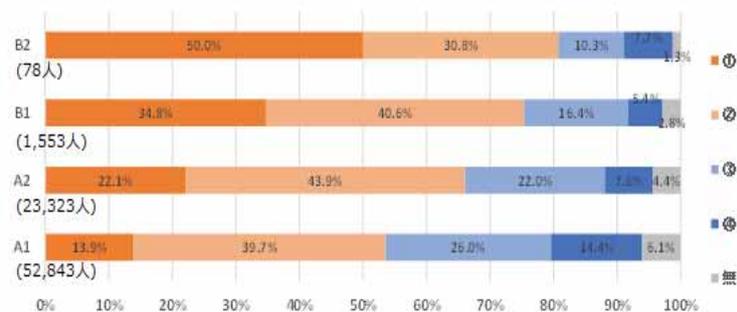
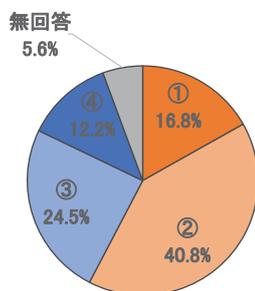
- 「英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）は、57.6%と半数を上回る。
- 「聞くこと」「読むこと」いずれにおいても A2 レベル以上では、選択肢①②合計の回答割合が、60%を超える。
- 「読むこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていた」と回答した（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。（「聞くこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていたと思いますか。

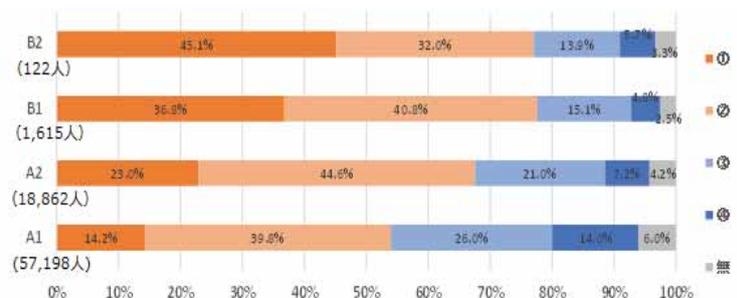
① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

平成27年度

■ 「読むこと」のテスト結果とのクロス



■ 「聞くこと」のテスト結果とのクロス

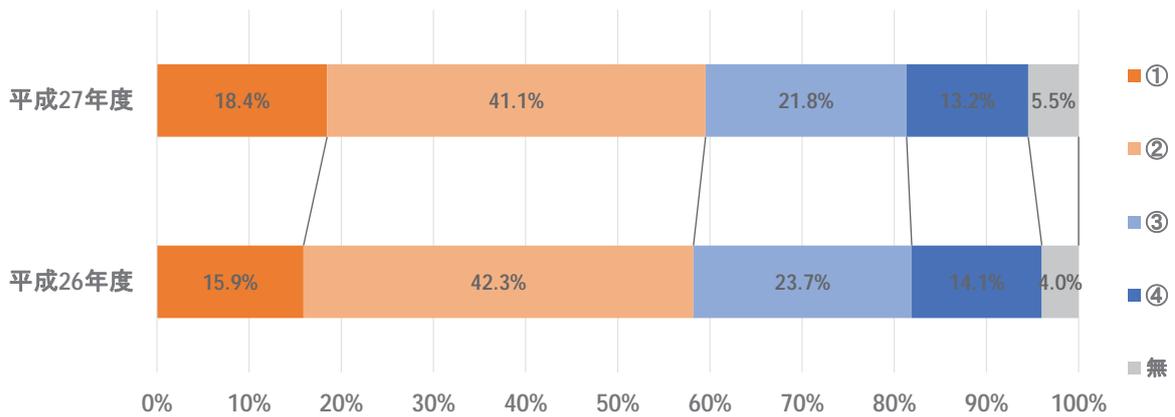


<生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「聞くこと」>

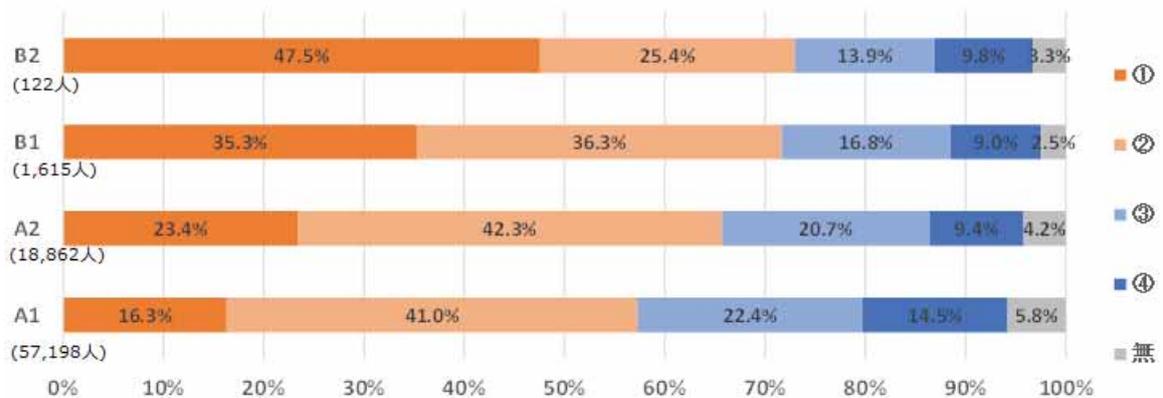
- 「英語を聞いて、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしてきた」と回答した生徒(選択肢①②合計)は59.5%で、平成26年度より1.3ポイント増加した。
- 「聞くこと」のテストスコアが高いほど、「英語を聞いて、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていた」と回答した生徒(選択肢①②合計)の割合が高い。(「読むこと」についても同様の傾向)

問 第2学年での英語の授業では、英語を聞いて、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■「聞くこと」のテスト結果とのクロス

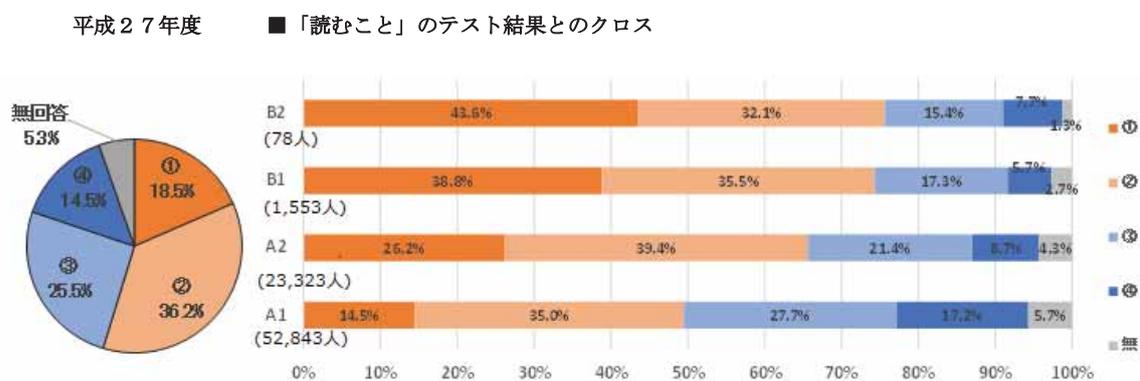


<生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「読むこと」>

- 「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）は54.7%と半数を上回る。
- 「読むこと」のテストスコアが高いほど、授業において「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

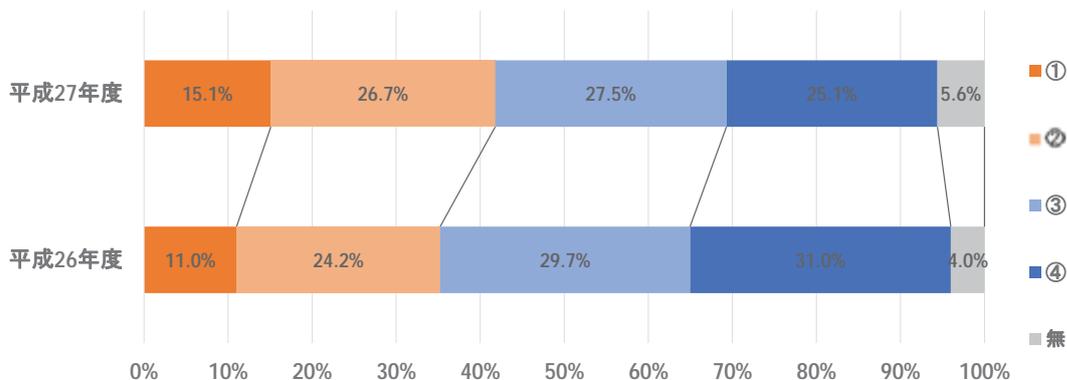


<生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識 「技能統合型：聞いたり読んだりして話すこと」>

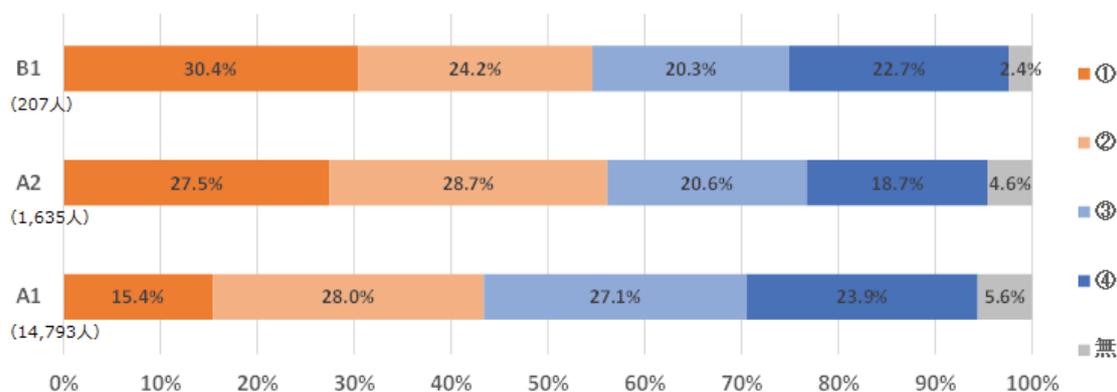
- 「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていた」と回答した生徒（選択肢①②）は41.8%で、平成26年度より6.6ポイント増加した。
- 「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）の割合は、「話すこと」についてA1レベル（43.4%）より、A2レベル以上（A2：56.2%、B1：54.6%）の方が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

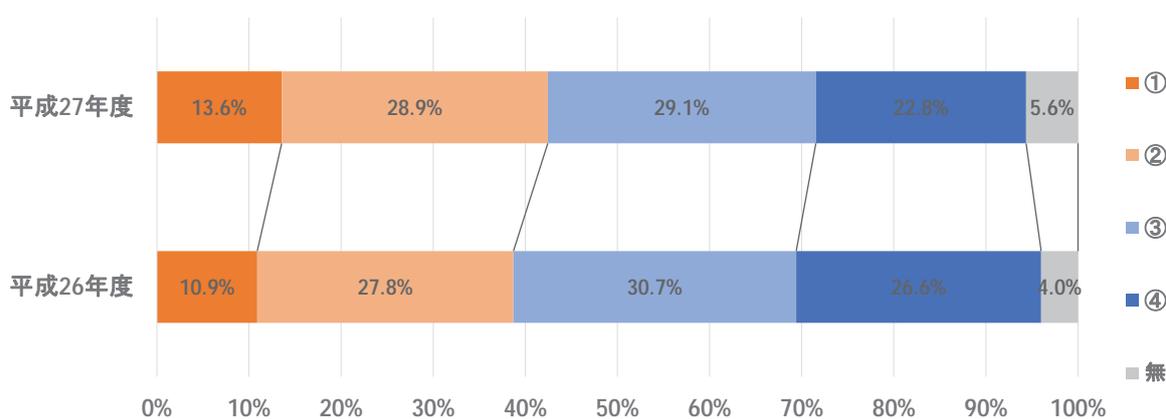


<生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識 「技能統合型：聞いたり読んだりして書くこと」>

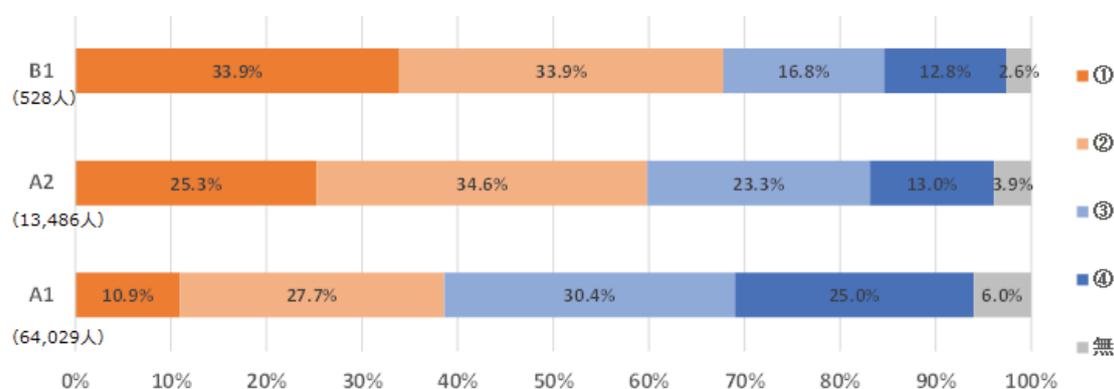
- 「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）は42.5%で、平成26年度より3.8ポイント増加。
- 「書くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■ 「書くこと」のテスト結果とのクロス



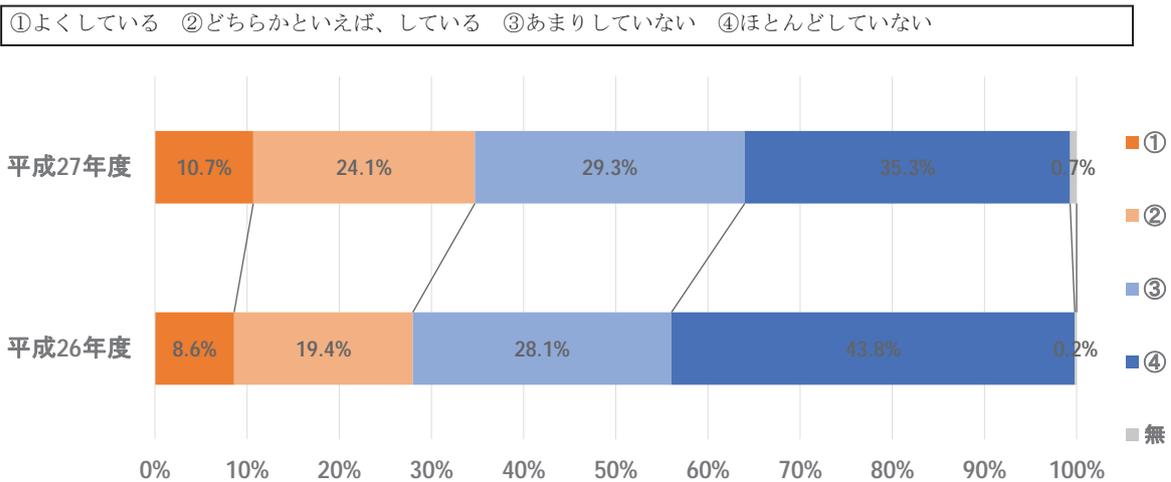
※ 「書くこと」 B2 レベル該当人数1名につき非表示

②教員質問紙調査結果の主な特徴

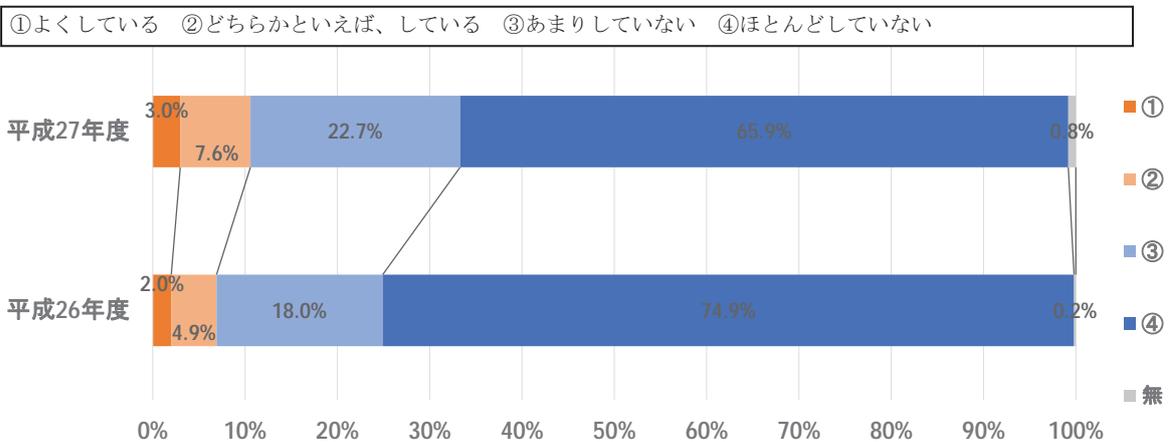
<教員の授業における言語活動の指導「スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション」>

- 「スピーチやプレゼンテーションを行っている」と回答した教員（選択肢①②合計）は、平成26年度より6.8ポイント増加したものの、依然として34.8%と少ない。
- 「ディベートやディスカッションを行っている」と回答した教員（選択肢①②合計）は、平成26年度より3.7ポイント増加したものの、依然として10.6%と非常に少ない。

問 スピーチやプレゼンテーションを行っていますか。



問 ディベートやディスカッションを行っていますか。

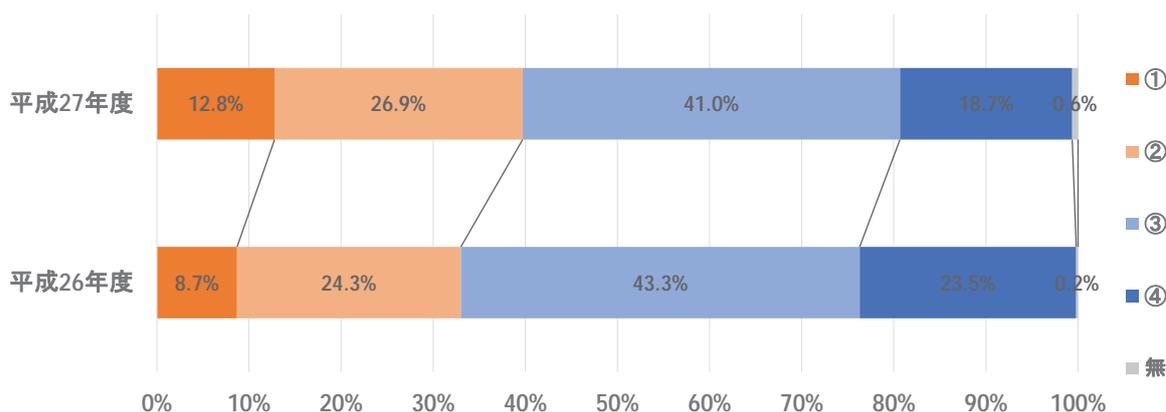


<教員の授業における言語活動の指導「技能統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく話し合いや意見交換・書く活動」>

○ 「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っている」と回答した教員（選択肢①②合計）は39.7%、「書く活動を行っている」と回答した教員（選択肢①②合計）は46.7%で、いずれの活動も平成26年度より増加（意見交換：6.7ポイント増加、書く活動：7.0ポイント増加）している。

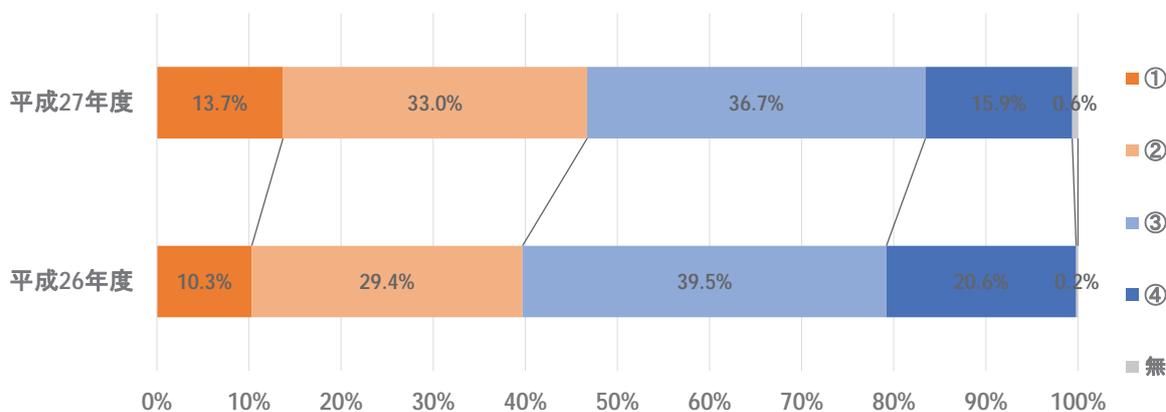
問 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



問 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



4. 国立学校の技能別調査結果及び課題と指導改善のポイント

- 平成26年度と比べ、全技能において、国立学校ではCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）B1レベル以上の割合が増えている。同時に、「読むこと」、「聞くこと」及び「話すこと」においてはA1レベルも増加しており、平成26年度の調査結果よりも分布が広がっている。
- 「読むこと」、「聞くこと」及び「書くこと」については、A2レベルの割合が最も多い。一方、「話すこと」については、A1レベルの割合が最も多い。

【国立学校のスコア分布】



5. 国立学校の質問紙調査結果

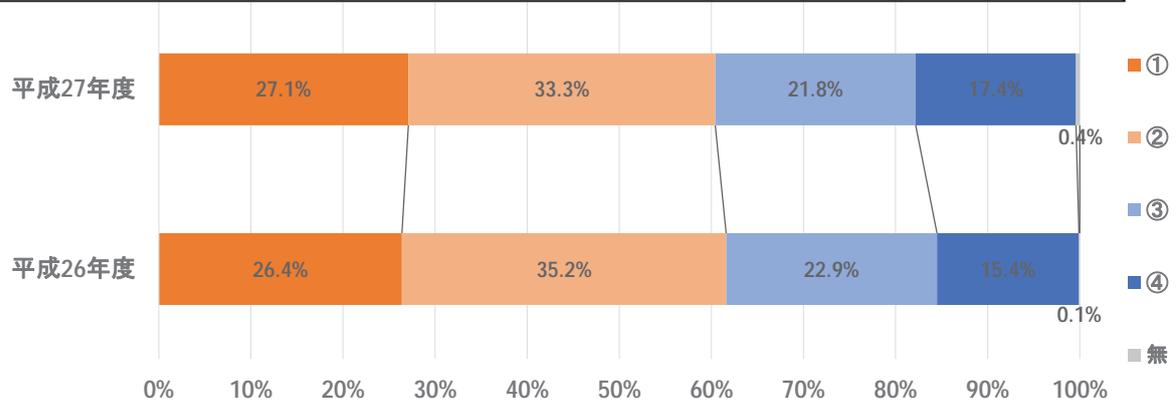
①生徒質問紙調査結果の主な特徴

【英語学習に対する意識】

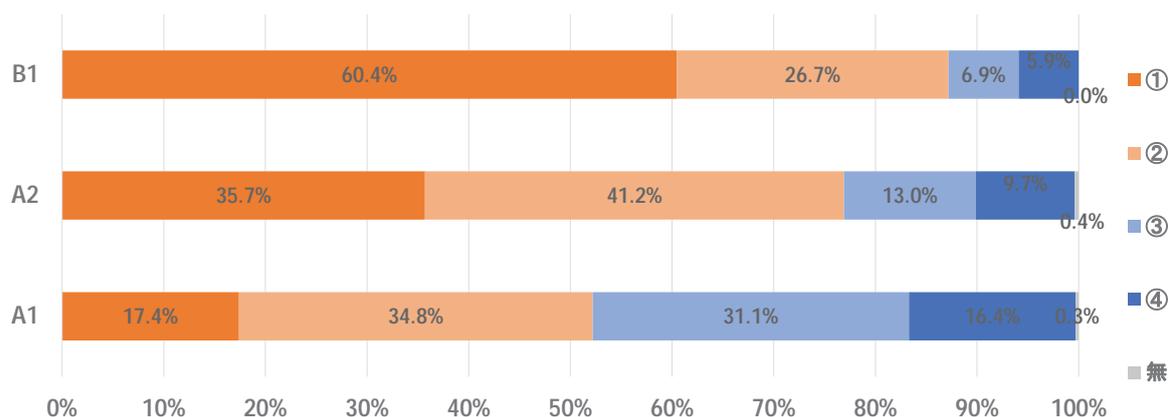
- 「英語の学習が好きだ」と回答した生徒（選択肢①②合計）は60.4%と平成26年度より1.2ポイント減少した。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語の学習が好きだ」と回答した生徒（選択肢①②合計）の割合が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 英語の学習は好きですか。最も当てはまるものを1つ選んでください。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■「話すこと」のテスト結果とのクロス

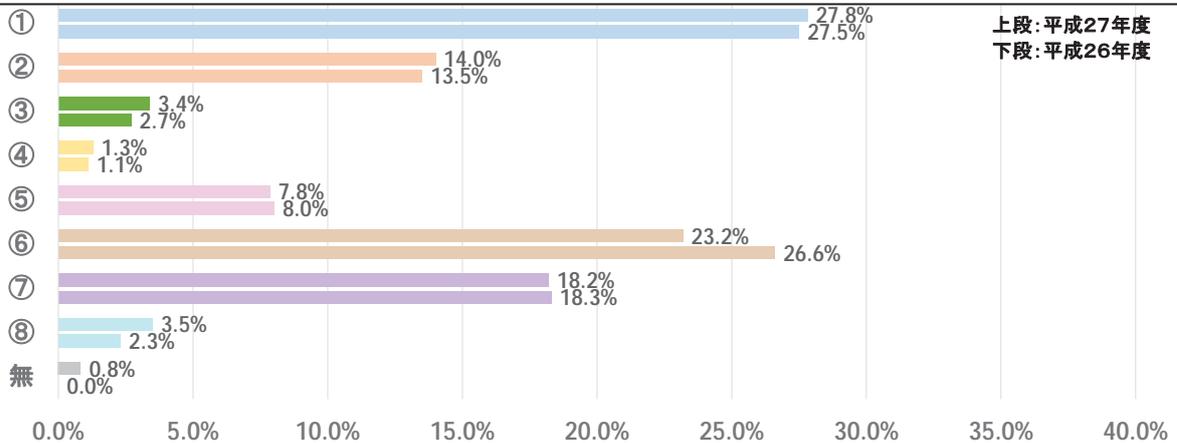


【将来の英語使用のイメージ】

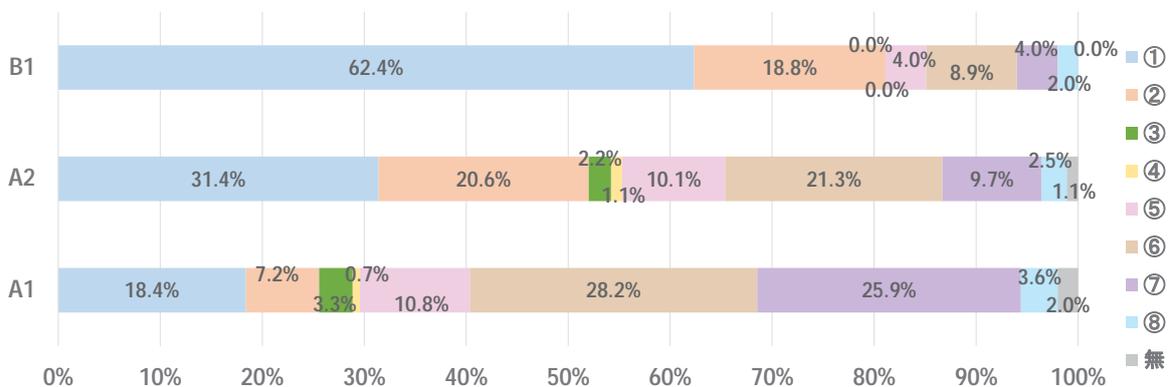
- 「①国際社会で活躍できるようになりたい」、「②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい」という回答が、平成26年度より増加（①：0.3ポイント増加、②：0.5ポイント増加）した。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、「①国際社会で活躍できるようになりたい」と回答した生徒の割合が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい ②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい
 ③高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい
 ④高校在学中に留学して、海外の高校の授業に参加できるようになりたい
 ⑤海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい
 ⑥海外旅行などをするとき、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい
 ⑦大学入試に対応できる力をつけたい ⑧特に学校の授業以外での利用を考えていない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



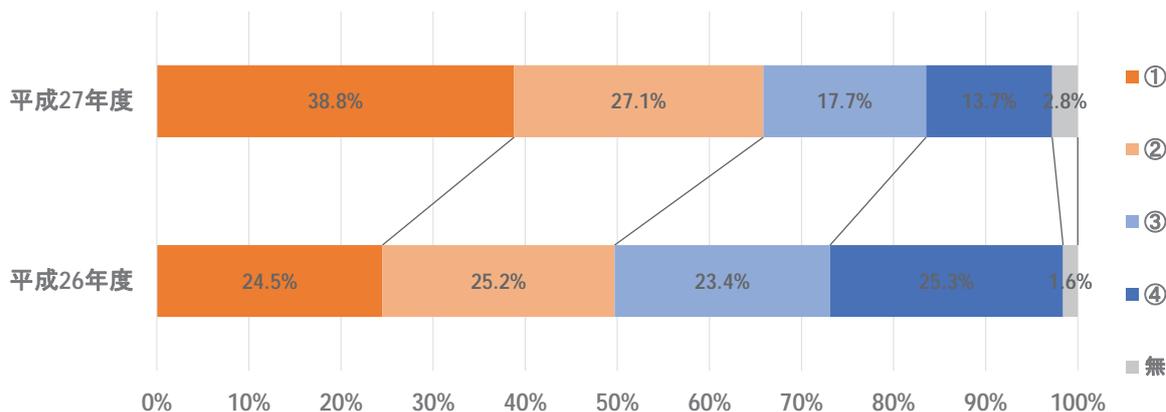
【授業（第2学年）における言語活動の経験】

<生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「話すこと」>

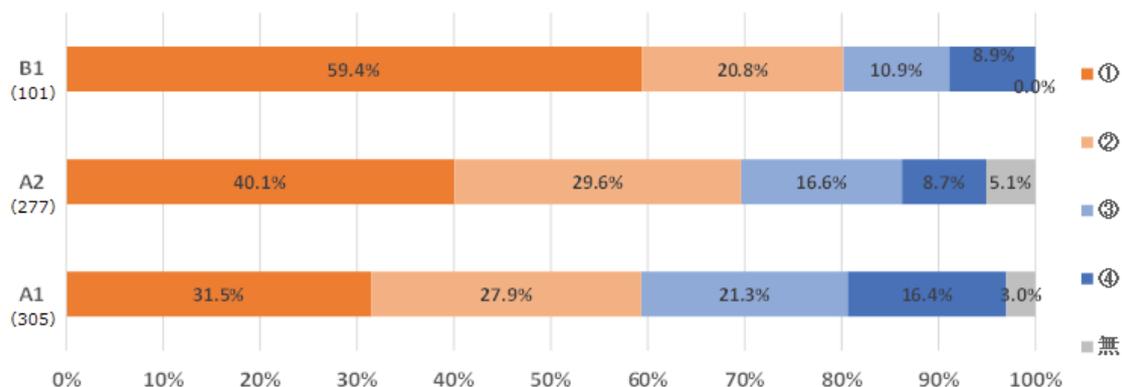
- 「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）は65.9%で、平成26年度より16.2ポイント増加し、改善が見られる。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）の割合が高い。（「書くこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



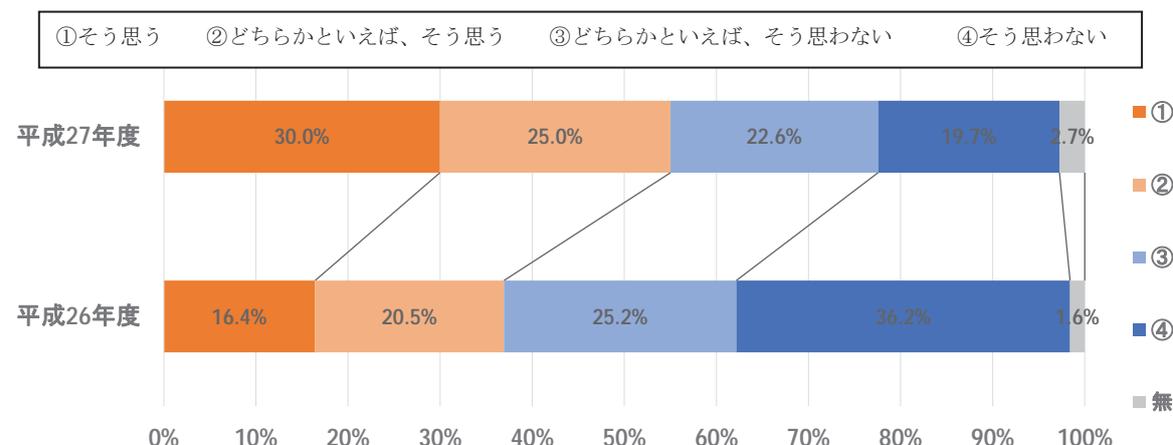
■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



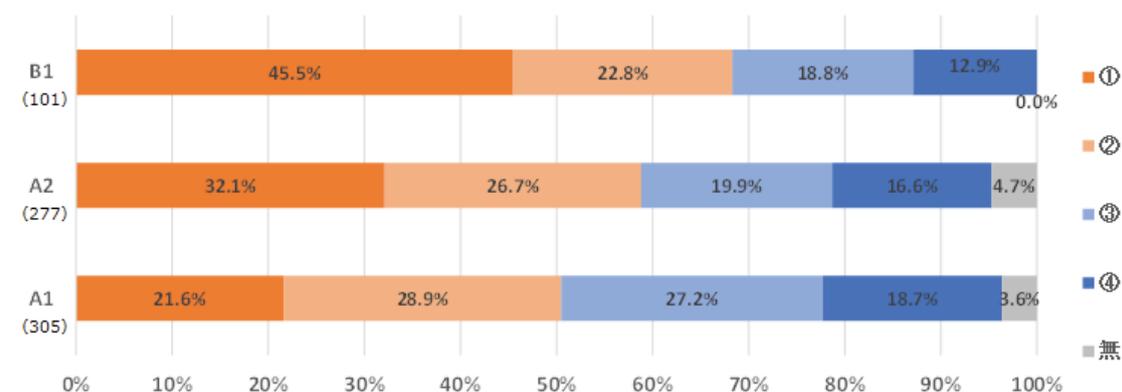
<生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「話すこと」>

- 「英語でディベートやディスカッションをしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）は55.0%で、平成26年度より18.1ポイント増加し、改善が見られる。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でディベートやディスカッションをしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）の割合が高い。（「書くこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、英語でディベートやディスカッションをしていましたか。



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

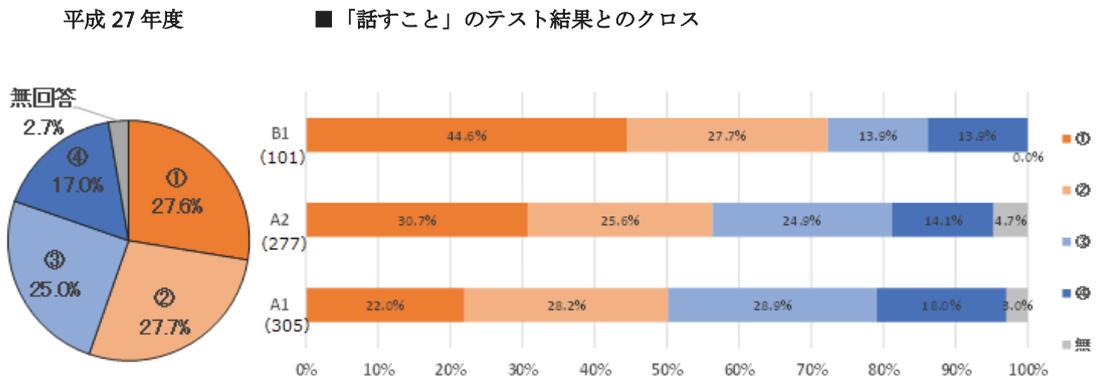


<生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「話すこと」>

- 「与えられた課題について、(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしてい
た」と回答した生徒(選択肢①②合計)の割合は55.3%であった。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「与えられた課題について、
(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていた」と回答した生徒(選択肢①
②合計)の割合が高い。(「読むこと」についても同様の傾向)

問 第2学年での英語の授業では、与えられた課題について、(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



＜生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「聞くこと」「読むこと」＞

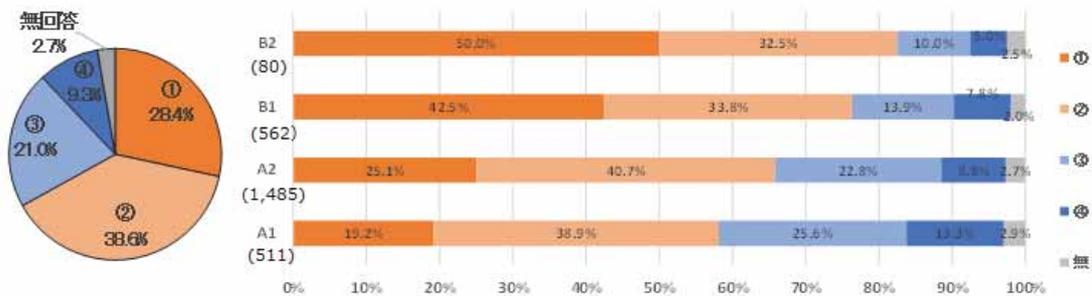
- 「英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）は、67.0%と半数を上回る。
- 「聞くこと」「読むこと」いずれについても A2 レベル以上では、選択肢①②合計の回答割合が、60%を超える。
- 「読むこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）の割合が高い。（「聞くこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていたと思いますか。

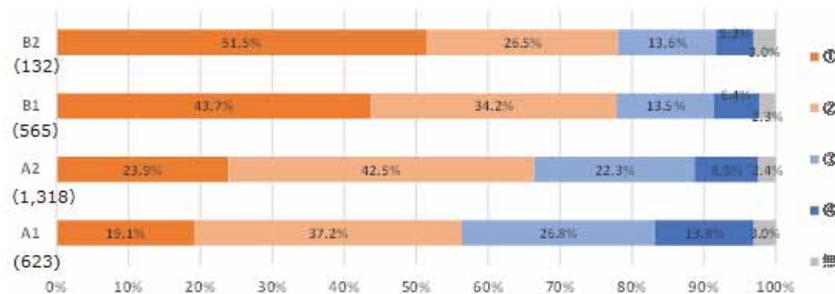
①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

平成 27 年度

■ 「読むこと」のテスト結果とのクロス



■ 「聞くこと」のテスト結果とのクロス

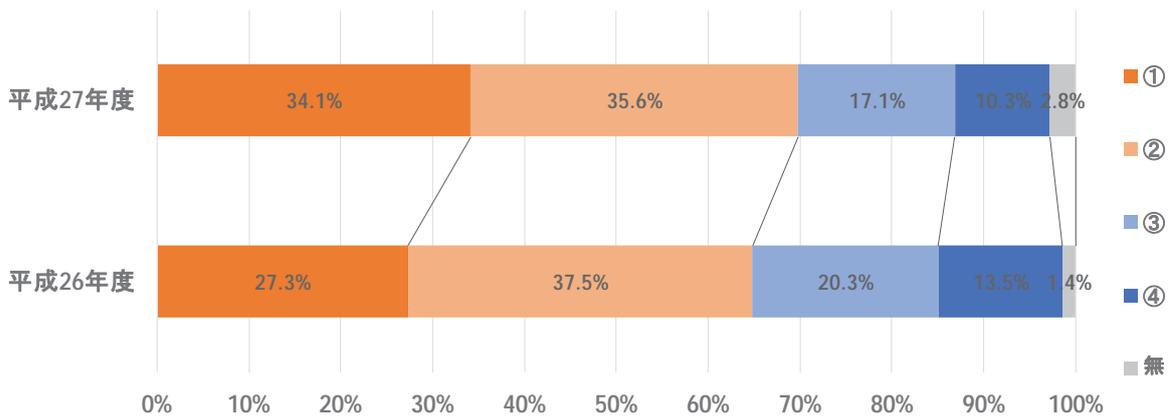


<生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「聞くこと」>

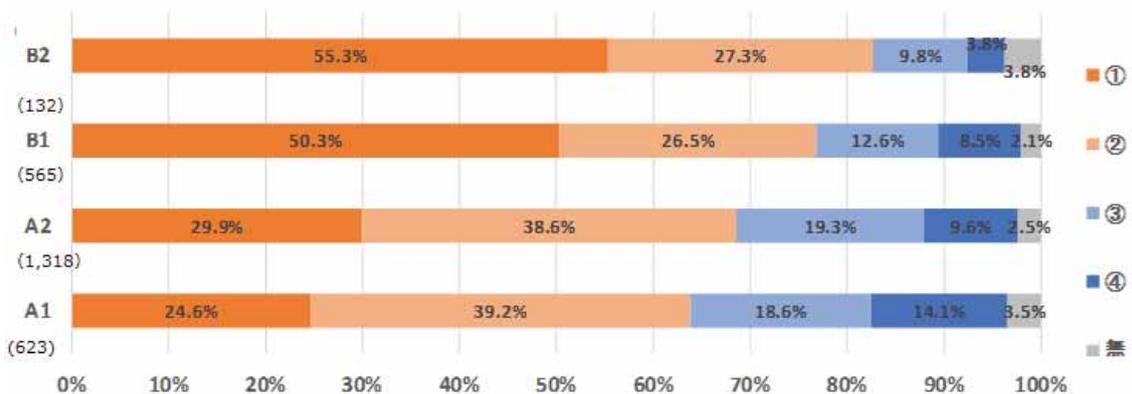
- 「英語を聞いて、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしている」と回答した生徒(選択肢①②合計)は69.7%で、平成26年度より4.9ポイント増加した。
- 「聞くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を聞いて、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていた」と回答した生徒(選択肢①②合計)の割合が高い。(「読むこと」についても同様の傾向)

問 第2学年での英語の授業では、英語を聞いて、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていましたか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■ 「聞くこと」のテスト結果とのクロス

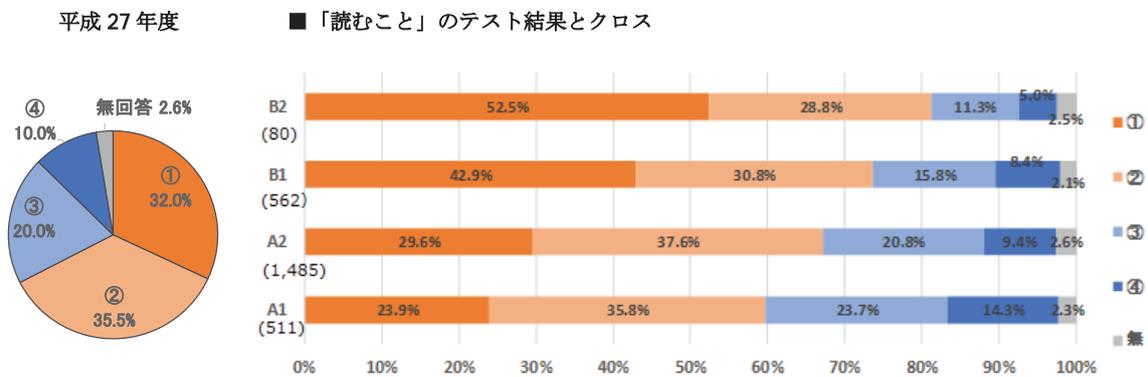


<生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「読むこと」>

- 「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていた」と回答した生徒（選択肢①② 合計）は67.5%であった。
- 「読むこと」のテストスコアが高いほど、授業において「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていましたか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

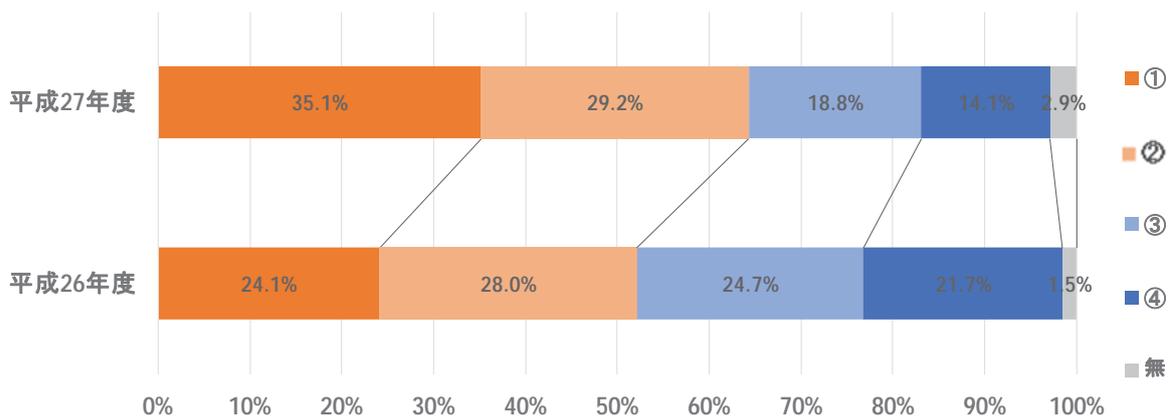


<生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識 「技能統合型：聞いたり読んだりして話すこと」>

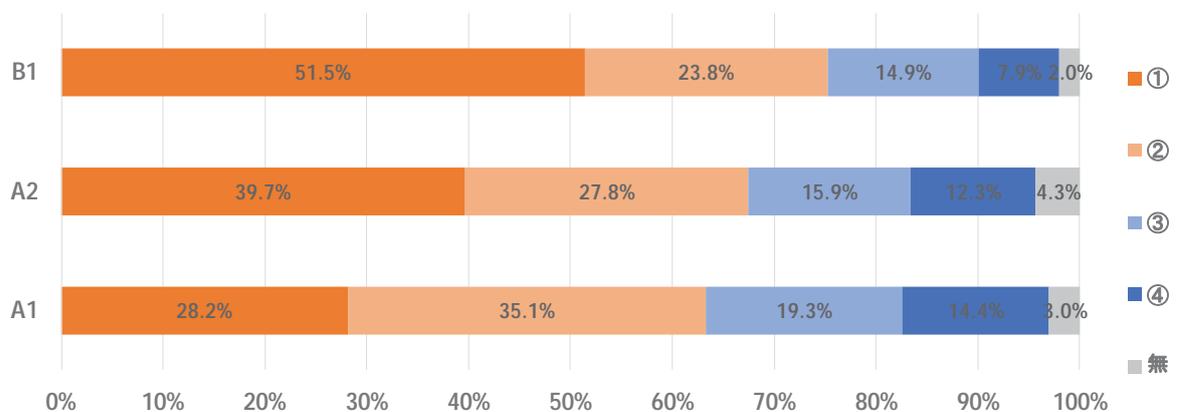
- 「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）は64.3%で、平成26年度より12.2ポイント増加した。
- 「話すこと」のスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）の割合が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

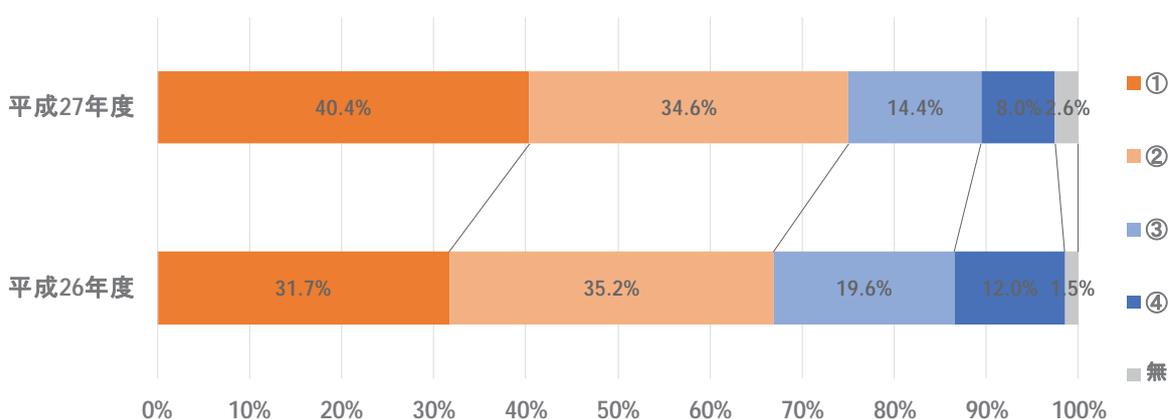


<生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識 「技能統合型：聞いたり読んだりして書くこと」>

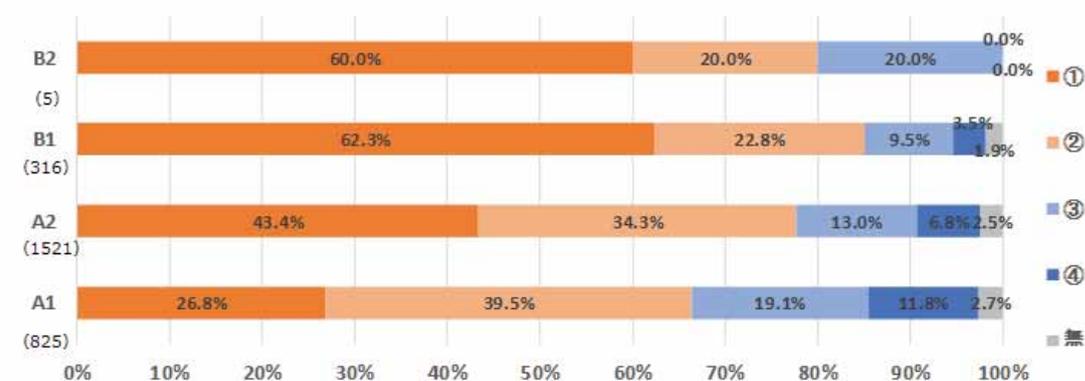
- 「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）は75.0%で、平成26年度より8.1ポイント増加。
- 「書くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた」と回答した生徒（選択肢①②合計）の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



■ 「書くこと」のテスト結果とのクロス



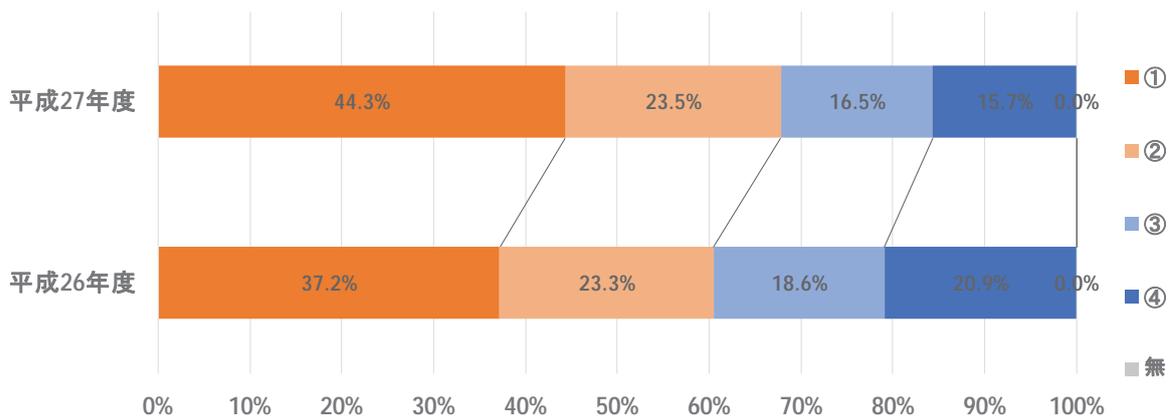
②教員質問紙調査結果の主な特徴

<教員の授業における言語活動の指導「スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション」>

- 「スピーチやプレゼンテーションを行っている」と回答した教員（選択肢①②合計）は、67.8%で、平成26年度より7.3ポイント増加した。
- 「ディベートやディスカッションを行っている」と回答した教員（選択肢①②合計）は、41.7%で、平成26年度より7.6ポイント増加した。

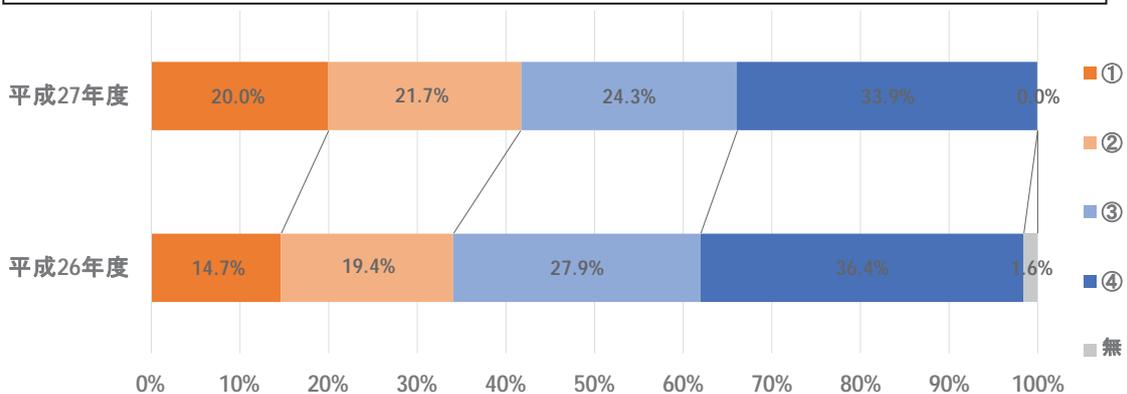
問 スピーチやプレゼンテーションを行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



問 ディベートやディスカッションを行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

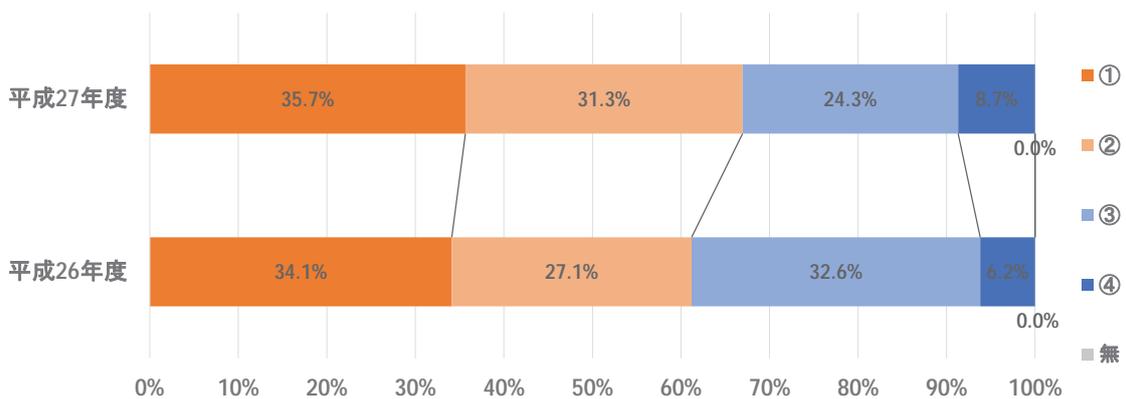


＜教員の授業における言語活動の指導「技能統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく話し合いや意見交換・書く活動」＞

○ 「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っている」と回答した教員（選択肢①②合計）は 67.0%、「書く活動を行っている」と回答した教員（選択肢①②合計）は 79.1% で、いずれの活動も平成 26 年度より増加（意見交換：5.8 ポイント増加、書く活動：3.8 ポイント減少）している。

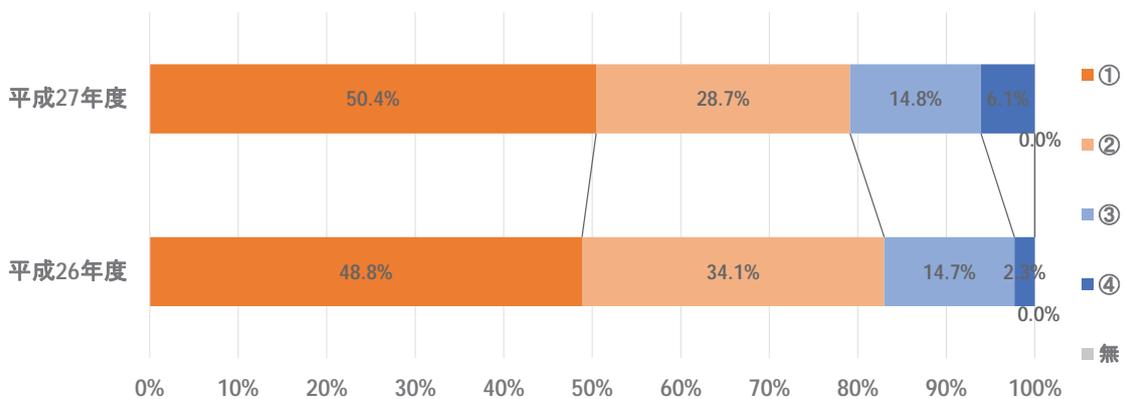
問 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



問 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



3章 技能ごとの調査結果の分析

(1) 読むこと ～ Reading ～ . . . 52

(2) 聞くこと ～ Listening ～ . . . 62

(3) 書くこと ～ Writing ～ . . . 73

(4) 話すこと ～ Speaking ～ . . . 82

※本章で扱うデータは、特に注記がない限り、公立学校の調査対象校のものとする。

(1) 読むこと ～ Reading ～

1. 学習指導要領における領域・内容

- ①説明や物語などを読んで、情報や考えなどの概要をとらえることができる。
- ②説明や物語などを読んで、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。

その際、内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読むことができる。また、事実と意見などを区別して読むことができる。

2. 本調査において当技能で問うている力

Part A...短文中の空所に適切な語を補う問題で、文脈を理解するとともに、文法的に最も適切な表現を判断する力を測定している。

Part B 「概要把握問題」...与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

Part B 「情報検索問題」...与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力（情報検索力）を測定する問題で、上記学習指導要領における②の力を見ている。

Part C ...まとまった量の英文について、その趣旨や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力を測定する問題で、上記学習指導要領における①及び②の力を見ている。

3. 経年比較結果

- ・本年度調査の A1 レベルは 68.0%（平成 26 年度調査から 7.3 ポイント減少）で、A2 レベルは 29.9%（同 6.4 ポイント増加）であった。
- ・平成 26 年度調査と平成 27 年度調査の共通問題を比較すると、Part A、Part B、Part C の全体を通じて正解率が伸びており、「読むこと」の能力において向上が見られた。

4. 課題など (◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点)

以下の内容は、主に、相当数の生徒が該当する A1 レベルの特徴である。

読むこと

◇短文レベルの語彙・語法問題の中には、正解率が 50%を超えるものもある。

- ◆A1 レベルの生徒は、1～2 文程度の内容を把握すること、英文から必要な情報を探し出すこと、複数の文を関連付けて文章全体の概要を理解すること、未知語の意味を推測しながら読み進めていくことに課題がある。
- ◆まとまった量の英文について、英文の趣旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取ることについては、A1・A2 レベルともに課題がある。
- ◆生徒質問紙及び教員質問紙の結果では、授業において概要や要点を読み取る活動、未知語の意味を推測しながら読み進める活動、速読や精読など目的に応じた読み方をする活動やその指導を行っているとなっている。一方、調査結果ではこのような力が身に付いていないことが明らかになっており、初見の英文に対しては力が発揮できていない可能性がある。

5. 指導改善のポイント

読むこと

○学習者のレベルに合った文章をたくさん読む活動

4 技能の中でも、「読むこと」の指導は時間をかけて行っているという認識を持っている教員は多いであろう。しかし、本調査の結果は、これまでの「読むこと」の指導を見直す必要があることを示唆している。例えば、一文単位での正確な理解を目指す指導を積み重ねるだけでは、段落や文章全体を理解する力が十分には身に付かないことに留意する必要がある。

「読むこと」の課題を解決するためには、まとまりのある文章（例えば、教科書の 1 レッスン全体など）を用意し、以下のような流れで読む。

- ① 段落間での内容理解（概要の把握）
- ② 段落内での内容理解（情報の整理・要点の理解）
- ③ 一文単位での意味理解（詳細情報の理解）

まずは全体の概要把握を目的として読む。それができたら、順を追って指導対象を狭

めていき、必要となる細部の理解を行うことが効果的である。

また、教科書の英文レベルが生徒の英語力と比べて高いために上記のような活動を行うことができないのであれば、そもそも生徒のレベルに合わせた教材を選定する、あるいは、読み進める上での補助資料などを用意する必要がある。

さらに、「読むこと」の能力を向上させるためには、教科書だけではなく、関連した話題について書かれている他の教材を豊富に与えるなどして、生徒の読む量を増やしていくことが重要になる。

○真の概要把握・要点理解のためのトレーニング

教員質問紙 No.1-(2)の「英語を読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする活動を行っていますか」という問いに対して、公立学校全体で 90.6%（選択肢①「よくしている」と②「どちらかといえば、している」の合計）がそうした活動を行っている」と回答しており、平成 26 年度より 1.4%増加している。このような回答にもかかわらず、概要把握や要点理解には課題があるという調査結果となっている。

この原因としては、授業においては教科書を用いて概要や要点をとらえるための活動を行っているものの、初見の英文に対しては生徒がその力を発揮できていないことが考えられる。

こうしたことから、教科書だけでなく様々な教材を活用して、英文全体としてどのようなことが書かれているかを図解して整理したり、書き手が一番伝えたい内容は何かをペアやグループで議論をしたりすることによって、教師・生徒間で理解度を確認し合う活動が求められるであろう。こうした活動は、課題の発見や解決に向けた生徒の主体的な学びにもつながると考えられる。

また、教員質問紙 No.1-(9)の「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をすすめる活動をしていますか」との問いに対しては、「している」と回答しているのは 63.7%（選択肢①「よくしている」と選択肢②「どちらかといえば、している」の合計）にとどまっている。こうしたことから、詳細理解ばかりではなく、英文の概要を把握する、要点を把握するといった目的を明確に設定し、それに応じて速読や精読をするような指導が必要である。

実際の指導としては、次のような方法が考えられよう。

- ① 教員：まとまった長さの英文について、概要を把握するために必要なポイントをできるだけ視覚的にわかりやすく示す。
- ② 生徒：英文を速読し、上記①で示されたポイントについてメモをとる。

- ③ 生徒：上記②をペアやグループで確認し、情報を補完し合う。
- ④ 教員：生徒とインタラクションを図りながら、クラス全体で概要を確認する。
- ⑤ 教員：特定の段落について、要点を理解するために必要なポイントを示す。
- ⑥ 生徒：当該段落を精読し、上記②～④と同様のプロセスで確認する。

6. 問題詳細分析

Part A Question 10

10. Michael had been taught to be honest in every situation. So, when he broke a window at school by accident, he told his teacher _____.
- [A] a joke
 - [B] a story
 - [C] the time
 - [D] the truth

※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

短文の中で、文脈に沿った最も適切な表現を判断する。

■解答類型と反応率

Q. 10

選択肢	A1 レベル反応率	A2 レベル反応率
A	20.4%	6.8%
B	24.7%	7.5%
C	19.0%	5.5%
D (正解)	22.6%	77.6%
無解答	13.2%	2.7%

■分析結果と課題

正解率は A1 レベルが 22.6%、A2 レベルが 77.6%で、A1 レベルと A2 レベルで差がついた問題である。

この設問では、1 文目の “Michael had been taught to be honest in every situation.” の文意と、接続詞 “So” による前後の因果関係を理解した上で、選択肢 [D] の “the truth” を選ぶ必要がある。

A1 レベルで最も多い 24.7%が選択した誤答選択肢 [B] の “a story” は、“he told his teacher” の told に引きずられて選択した可能性があり、文全体ではなく空所の直近の情報に気を取られて誤答を選んでいると考えられる。

A1 レベルでは、1～2 文程度の英文であっても、文のつながりを意識して内容を把握する力に乏しいということが言える。

■学習指導に当たって

1～2 文程度の英文の内容把握を行う際は、語彙の知識と文脈の理解の両方が求められる。

語彙やイディオムの指導を行う際は、意味だけでなく、それらが使われている文を豊富に示すとともに、当該表現のコロケーションについても指導を行うと効果的である。

文脈を理解する力を身に付けるためには、各文の前後関係に注目し、文と文との意味的なつながりや関連性に気付く指導が必要である。

Part B Question 18

Some people associate bats with frightening things, such as Halloween and scary movies. However, they are actually helpful creatures. Bats, in a similar way to bees, help flowers breed, so some people are happy to have them live near their homes. Also, the sounds of hunting bats can be heard by many insects that are harmful to gardens, which then avoid the area. Another reason people welcome bats into their gardens is that bats eat insects that carry diseases deadly to humans, like mosquitoes. In fact, research reveals a single bat can eat more than 600 mosquitoes in an hour!

18. What is this passage mainly about?

- [A] How bats help flowers to breed.
- [B] How insect populations are reduced by bats.
- [C] Why bats are so successful at hunting.
- [D] Why some people like having bats live near their homes.

※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

説明や物語などを読んで、短時間で全体の概要を理解する。

■解答類型と反応率

Q. 18

選択肢	A1 レベル反応率	A2 レベル反応率
A	23.2%	18.5%
B	26.3%	16.4%
C	24.6%	17.7%
D (正解)	23.9%	47.1%
無解答	1.9%	0.3%

■分析結果と課題

A2 レベルの正解率は 47.1%であったが、A1 レベルの正解率は 23.9%で、A2 レベルと A1 レベルで差がついた問題である。

誤答の選択肢 [A] “How bats help flowers to breed.” と [C] “Why bats are so successful at hunting.” は本文中に書かれている情報ではあるが、英文の主旨ではない。

また、選択肢 [B] “How insect populations are reduced by bats.” は本文中で直接的には書かれていない情報であるにもかかわらず、A1 レベルでは最も多い 26.3%が選択していた。

本文中の “a single bat can eat more than 600 mosquitoes in an hour” に気を取られて、選択肢 [B] を選んだ可能性が考えられる。正解の選択肢 [D] “Why some people like having bats live near their homes.” は、本文そのままの表現ではなく言い換えられているため、本文中の “some people are happy to have them live near their homes” や “people welcome bats” などから、英文全体の趣旨を的確に理解する必要がある。

A1 レベルでは情報の部分的な拾い読みになっており、表現の言い換えや主張とその補足説明との関連に気付く力に乏しいと思われる。

■学習指導に当たって

一文一文を理解しようとするのではなく、文章全体や段落全体として何を言っているのかを考えながら読み進める練習が必要である。

実際の指導としては、次のような方法が考えられる。

- ① 書き手の主張をイメージしながら初見の文章全体を通して読む。
- ② 書き手の主張として重要だと思われる英文に下線を引く。
- ③ 上記②で下線を引いた英文を再度読み、英文の主旨を端的に表すタイトルをつける。
- ④ どのタイトルが英文の主旨を最も適切に表しているかをグループで話し合い、必要に応じて英文の内容を確認する。

同時に、初見の英文を読み、特定の文の理解に困難が生じたとしても、英文の構成や当該文の前後関係から意味を推測するという指導も効果的である。知らない単語があればすぐに辞書を引いて調べてしまうような習慣をつけることは避けたい。

Part B Question 22

**Enjoy American Rail's
"See America" Fares!**

**Four journeys from your home
to one, two, or three other cities
in one month.**

**Travel all around
and keep your cost down!**

The United States has three zones: East, Central, and West.
You can choose one, two, or all three zones for your travel.

Cost per person for travel in:	<u>1 Zone</u>	<u>2 Zones</u>	<u>All 3 Zones</u>
Spring (March 24-June 19)	\$168	\$198	\$278
Summer (June 20-August 17)	\$218	\$248	\$328

22. How long can a person use one ticket?

- [A] For four days.
- [B] For three weeks.
- [C] For one month.
- [D] Until July 19.

※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

与えられた英文の題材から、短時間で必要な情報を引き出す。

■解答類型と反応率

Q. 22

選択肢	A1 レベル反応率	A2 レベル反応率
A	12.2%	4.1%
B	25.6%	17.7%
C (正解)	42.0%	68.7%
D	15.4%	6.3%
無解答	4.8%	3.2%

■分析結果と課題

A1 レベルの正解率は 42.0%で過半数に満たないが、A2 レベルの正解率は 68.7%で、A2 レベルと A1 レベルで差がついた問題である。

A1 レベルの正解率が低かった理由としては、設問文の “How long can a person use one ticket?” の疑問詞と助動詞を組み合わせた表現に馴染みがなく、意味を理解できなかったため、該当箇所以外の数字表現に惑わされたことが考えられる。

正解の選択肢は [C] “For one month.” であるが、その他の誤答を選んだ理由として、選択肢 [A] “For four days.” は本文中の “Four journeys”、選択肢 [B] “For three weeks.” は本文中の “to one, two, or three other cities”、選択肢 [D] “Until July 19.” は本文中の “June 19”に引きずられたことが考えられる。

■学習指導に当たって

特に掲示などにおいては、比較的平易な表現が用いられていても、生徒にとっては実際にそれがどのようなことを意味しているのかわからない場合が多い。題材中の表現を教師がパラフレーズしたり、生徒にパラフレーズを求めるような質問をしたりして、示された情報を理解できるようにしたい。

(Question 22 の掲示を使って行う Q-A の例)

Q : What is this notice about?

A : It's about railway tickets in America.

(2) 聞くこと ～ Listening ～

1. 学習指導要領における領域・内容

標準的な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話された場合、以下のことができる。

- ① 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。
- ② 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。
- ③ 事物と意見などを区別して聞くことができる。

2. 本調査において当技能で問うている力

Part A…日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報から、その場面で求められている課題（タスク）を解決する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①及び②の力を見ている。

Part B…一定以上の長さの英文を聞いて、事前に英語で与えられる質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導く力を測定する問題で、上記学習指導要領における①、②及び③の力を見ている。

3. 経年比較結果

- ・本年度調査の A1 レベルは 73.6%（平成 26 年度調査から 4.8 ポイント減少）で、A2 レベルは 24.2%（同 3.9 ポイント増加）であった。
- ・平成 26 年度調査と平成 27 年度調査の共通問題を比較すると、Part A、Part B の全体を通して正解率が伸びており、「聞くこと」の能力において向上が見られた。

4. 課題など (◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点)

以下の内容は、相当数の生徒が該当する A1 レベルの特徴である。

聞くこと

- ◇設問や選択肢の表現が聞き取る英文中でも同じ形で使われている場合は、それを認識して正しく理解することができる。
- ◆ある程度の長さの英文や複数の文における文脈から必要な情報を聞き取ることに課題がある。
- ◆談話の要点や全体の流れ（誰が、どの立場で、どのような意図で、何を話したか）をとらえる力が不足しているため、断片的な理解にとどまっている。
- ◆設問や選択肢の表現が聞き取る英文中の表現を言い換えたものになっている場合は、両者の関連付けに課題がある。
- ◆複雑な文構造を含む英文を聞き、情報処理する力に課題がある。

5. 指導改善のポイント

聞くこと

○聞く量とレベルにおける段階的な指導

最初は1段落程度の聞き取りから始め、徐々に聞く分量を増やしていくようにする。同時に、用いる題材のレベルにも十分な注意が必要である。例えば、読んでも理解に苦しむような英文を何度聞いても、リスニング力の向上には結び付きづらい。リスニングでは、1年以上前に学習したレベルの英文から始め、徐々にレベルを上げていくことが大切である。

○内容理解が済んでいる英文と初めて聞く英文の使い分け

内容を理解している英文→英語の音韻的特徴を理解する、初めて聞く英文→話されている内容を理解する、というように、目的に応じて使用する英文を使い分ける必要がある。

○概要把握から詳細理解へ

どのような題材を扱うにしても、基本的には（話題→概要→詳細）の順番で理解するような指導が求められる。また、概要や詳細の理解については、最初は聞き取るべきポ

イントを示し、例えば与えられた質問とその解答をつなぎ合わせていくと概要を説明できるような工夫をすることが考えられる。

○会話のやりとりに慣れさせる活動

特に会話では、話の展開を理解し、やりとりされている情報を整理しながら聞く必要がある。その際、一つの質問に対して同じ内容を答える場合でも、複数の伝え方や表現があることに気付かせることが大切である。また、生徒自身が応答のバリエーションを考えて発表し合うなどの活動も効果的であろう。

○聞いた情報を保持する力と整理する力を向上させる活動

リーディングと異なり、リスニングにおいてはすべての情報を一時的に記憶にとどめなくてはならない。このため、効率的な言語処理が行われなければ、直前に聞いたものだけが記憶に残る状態を起しやすい。これを防ぐためには、英文中のキーワードや要点を把握し、それらをつないで話の骨子を作るような練習を行うと効果的である。

6. 問題詳細分析

Part A Question 9

あなたの学校に、カナダから留学生のジェーンが来ています。今日、あなたは彼女のホストファミリーに手料理を振る舞うジェーンを手伝っています。まず、彼女からあなたに話しかけます。



<スクリプト> [F: Female, M: Male]

F: Please finish getting the table ready while I make some drinks.

M: OK. Do we need extra chairs?

F: I've already prepared them. Just put knives and forks

on the table.

M: Sure. What about flowers?

9. What should you do to help?

- [A] Ⓐ
- [B] Ⓑ
- [C] Ⓒ
- [D] Ⓓ

※Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

日本語で事物に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報（事物に関する紹介や対話など）から、その場で求められている課題（タスク）を解決する。

■解答類型と反応率

Q.9

選択肢	A1 レベル反応率	A2 レベル反応率
A	33.0%	25.0%
B	12.2%	7.5%
C(正解)	26.2%	55.8%
D	27.1%	11.7%
無解答	1.5%	0.0%

■分析結果と課題

本問は難易度が高く、正解の選択肢 [C] を選ぶ割合が 50%を超えるのは A2 レベル以上に限られる。A1 レベルは 33.0%が誤答の選択肢 [A]（飲み物を用意しているイラスト）を選択しており、“Please finish getting the table ready while I make some drinks.” の文意が理解できなかったか、あるいは“ I make some drinks”から単純に判断した可能性がある。また、A1 レベルは 27.1%が誤答の選択肢 [D]（花を用意しているイラスト）を選択しているが、“What about flowers?” に対する “They’re already on the table.” という暗示的に否定する言い方に慣れていないと考えられる。

このように、A1 レベルでは、比較的長めの英文を聞いて理解することや、質問に対して Yes/No 以外の暗示的な応答表現を理解することに課題があると言える。

■学習指導に当たって

長めの英文を聞き取ることには困難を感じる生徒が多い場合は、次のような指導から入ることもできる。

- ① 10 語程度の短い英文を聞き、理解できた情報をペアで共有する。
- ② 同じ英文をもう一度聞き、再度生徒同士で確認する。
- ③ クラス全体で聞き取れた情報を共有するとともに、聞き取れていない部分については教師がヒントとなる質問を与え、再度聞く。
- ④ 必要に応じてスクリプトを読み、内容を理解した後で再度聞く。

ある程度慣れてきたら、15 語から 20 語程度の長さでやや複雑な文構造を含んだ英文の聞き取りを上記と同じプロセスで行う。

生徒質問紙 No.10-(2)の「英語を聞いて、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていましたか」との問いに対して、「そう思う」(選択肢①)と回答した生徒は A1 レベルが 16.3%なのに対し、A2 レベルは 23.4%、B1 レベルは 35.3%、B2 レベルは 47.5%である。この結果から、活動経験と CEFR レベルが比例していることがわかる。

Part B Question 25

<スクリプト> [F: Female, M: Male]

F: Students, Saturday morning's soccer game has been moved to Sunday evening.

M: Why is that?

F: A big storm is expected to hit sometime Saturday evening. Practice has also been moved. It will be on Sunday morning.

M: Can the other team still travel here?

F: Yes, and their parents can come, too.

M: Great! I like it when we have a big audience.

25. When has the soccer game been moved to?

- [A] Saturday morning.
- [B] Saturday evening.
- [C] Sunday morning.
- [D] Sunday evening.

※Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

一定以上の長さの英文（事物に関する紹介や対話など）を聞いて、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする。

■解答類型と反応率

Q.25

選択肢	A1 レベル反応率	A2 レベル反応率
A	18.0%	8.0%
B	24.3%	11.3%
C	30.4%	26.7%
D(正解)	25.3%	53.8%
無解答	2.0%	0.2%

■分析結果と課題

A1 レベルでは、30.4%の生徒が誤答の選択肢 [C] “Sunday morning.”を選択している。これは、“It will be on Sunday morning.”という表現が一時記憶に残り、その直前の “Practice has also been moved.”との関連付けができなかったためと思われる。正解の選択肢 [D] “Sunday evening.”を選ぶためには、最初の “Saturday morning’s soccer game has been moved to Sunday evening.”を正確に聞き取る必要がある。この文はやや長い上に、主語も “Saturday morning’s soccer game”と比較的長いために音声処理ができず、情報を記憶に残すことができなかったと考えられる。

一方、A2 レベルの生徒は過半数の 53.8%が正解の選択肢を選択していることから、A2 レベルになると意味のかたまり（チャンク）単位で記憶に残すことができる生徒が増えていると言える。

■学習指導に当たって

対話文ではモノログに比べて話の流れが急に変わることもあるため、やりとりの中で使われている語彙や表現を、話の流れに沿って、整理する力が求められる。そのため次のような活動を行うことも大切である。

- ① Q&A 活動において、同じ質問に対する複数の解答表現を提示し、同じ内容を伝える場合でも、様々な表現があることを理解する。
- ② グループで、与えられた質問に対し、他の生徒とは異なる表現で解答する練習をする。
- ③ 生徒が質問自体も考え、上記②と同じ活動をする。

Part B Question 27

<スクリプト>

We hope you enjoyed the final showing of this week's movie, "Letter to the Forest Bears." Before leaving the Majestic Theater, buy something to remember it by! We regret that posters sold out on Monday. The book of the movie is very popular. We have T-shirts in four sizes. Today only, pens are available! And hold on to your ticket! Show it at Creamy's Restaurant next door, and get \$10 off today's main dish, down from \$30 to \$20! You can also get \$5 off any drinks you order.

27. What item can only be purchased today?

- [A] Posters.
- [B] Books.
- [C] T-shirts.
- [D] Pens.

※Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

一定以上の長さの英文（事物に関する紹介や対話など）を聞いて、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする。

■解答類型と反応率

Q.27

選択肢	A1 レベル反応率	A2 レベル反応率
A	24.5%	16.1%
B	19.2%	6.3%
C	30.4%	16.4%
D(正解)	23.9%	61.1%
無解答	2.0%	0.1%

■分析結果と課題

本設問は、A2 レベルの生徒と A1 レベルの生徒を識別する傾向が強い問題である。A1 レベルの生徒が最も多く選択したのは、選択肢 [C] “T-shirts.” である。設問文にも含まれる “only” や “today” が聞く際のポイントとなるが、音声は “We have T-shirts in four sizes. Today only, pens are available!” となっており、“Today only” が “T-shirts” のことを言っているのか “pens” のことを言っているのか理解できなかったことが考えられる。

また、正解の選択肢 [D] “Pens.” を選択するには、設問文中の “can (only) be purchased” と音声内の “(are) available” がほぼ同じ意味であることを理解する必要がある。A2 レベルでは、この2つの関連付けができていない生徒が多いと考えられるが、A1 レベルでは、聞き取る英文中の表現と設問中の表現が異なる場合に両者を関連付けることに課題があると言える。

■学習指導に当たって

リスニングでは聞いた情報を一時的に記憶にとどめなくてはならない。このため、効率的な言語処理が行われなければ、直前に聞いたものだけが記憶に残る状態を起こしやすい。これを防ぐためには、例えば、次のように情報を整理しながら聞くことができるワークシートを使うと効果的である。

〈Q.27 の場合の例〉

- ◇1st listening: Catch the items that are sold at the theater.
- ◇2nd listening: Can you buy each item today? If you can buy it, draw “○” . If not, draw “×” .
- ◇3rd listening: Try to catch some more information about each item.

上記のように、目的を分けて聞くことでリスニングの際の負荷を減らすとともに、聞き取った語句を整理しながら英文の論理展開を把握することが重要である。

【ワークシート及び記入例】

1st listening	2nd listening	3rd listening
Items	Can buy or cannot buy?	Additional information
<i>posters</i>	×	<i>sold out</i>
<i>books</i>	○	<i>popular</i>
<i>T-shirts</i>	○	<i>four sizes</i>
<i>pens</i>	○	<i>today only</i>

(3) 書くこと ～ Writing ～

1. 学習指導要領における領域・内容

- ① 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書くことができる。
- ② つながりを示す語句（文と文、段落と段落の意味的・文法的なつながりを示す語や表現）などを用いて、内容の要点を示す語句や文を含む文章を書くことができる。
- ③ 事実と意見などを区別して書くことができる。

2. 本調査において当技能で問うている力

設問1 … 与えられたテーマについて、限られた時間の中で自分の意見とその理由を表現する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①、②及び③の力を見ている。

設問2 … ある事柄についての説明文を音声で聞き、その要点を書いて文章にまとめる力を測定する問題で、上記学習指導要領における①及び②の力を見ている。

3. 経年比較結果

- ・A1 レベルは 82.1%で平成 26 年度調査から 7.0 ポイント減少し、A2 レベルは 17.2%で 6.5 ポイント増加した。
- ・平成 26 年度調査では得点者が 69.6%（0 点が 30.4%）だったが、本年度調査では得点者が 81.9%（0 点が 18.1%）と 10%以上増加し、改善が見られる。

4. 課題など（◇…相当数の生徒ができています点 ◆…課題のある点）

以下の内容は、相当数の生徒が該当する A1 レベルの特徴である。

書くこと

- ◇A2 レベル以上では、95%以上の生徒が自分の意見を書くことができています。
- ◇B1 レベルでは、まとまりのある英文を聞き、その内容を要約して書くという技能統合型の活動に対応することができ、大事な情報を漏らすことなく網羅して書くことができています。

- ◆A1 レベルでは、「意見」を書ける割合が約 25%で、与えられたテーマについて自分の意見や理由を適切に書くことに課題がある。
- ◆A1 及び A2 レベルでは、聞いた情報を処理して重要なポイントを書いてまとめることに課題がある。
- ◆A2 レベルでは、まとまりのある英文を聞いて全体の内容をとらえることが難しく、部分的な情報を表現できる程度にとどまっている。また、A1 レベルでは、聞いた内容の理解そのものに課題があると考えられ、部分的な情報さえも表現できていない。

5. 指導改善のポイント

書くこと

○求められている内容を的確に把握し、論理的な構成で英文を書く指導の工夫

与えられたテーマについて自分の意見や理由を書く力をつけるためには、問われていることを的確に理解し、そのことに対する自分自身の意見を論理的に説明できるようにすることが重要になる。例えば、

- ①賛成・反対の立場を明確に表明する
 - ②賛成（反対）する理由を柱立てする
 - ③それぞれの理由について、具体例を示すなどしてわかりやすく説明する
- といった構成で書く経験を豊富に積んでおくことが重要になる。

○聞いた情報を整理し、既習の表現を駆使して要約文を書く指導の工夫

聞いた内容の要点を書いてまとめることができるようになるためには、まずリスニングにおいて、

- ・話題は何か
- ・当該の話題について、最も重要な情報は何か

の2点に注意する必要がある。特に、最も重要な情報と、それに付随する情報（補足説明など）を聞き分けることが重要になる。これは、リスニングだけではなく、リーディングと併せて指導すると効果的である。

また、聞いた英文中の表現をすべて覚えておくことは不可能であるので、自分が知っている表現や文法知識を総動員して、適宜パラフレーズしながら要点を書くことに慣れている必要がある。

6. 問題詳細分析

設問 1

1.

- ・時間は20分です。残り時間が2分になると放送で知らせます。
- ・自分自身の考えや具体的な経験に基づいて、自由に書きなさい。
- ・制限時間内でできるだけたくさん書きなさい。
- ・イラストは、具体例を書くための参考です。イラストの内容を参考にして書いても、あなた自身の経験を書いてもかまいません。

あなたは授業中に、下記のテーマで英語のエッセーを提出することになりました。

エッセーのテーマ：

最近、偏った食生活を送ったり、1日に3食をきちんと食べなかったりする若者が増えていると言われています。このような若者の食生活について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えとそう考える理由を書きなさい。



※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

与えられたテーマについて、限られた時間の中で自分の意見とその理由を書いて表現する。

■得点と割合

設問 1

項目：「内容」

① 意見

得点	割合
0 点	63.4%
1 点	36.6%

各レベルにおける 1 点の割合	
B1 レベル	99.8%
A2 レベル	95.2%
A1 レベル	23.9%

② 理由

得点	割合
0 点	49.2%
1 点	50.8%

各レベルにおける 1 点の割合	
B1 レベル	100.0%
A2 レベル	99.7%
A1 レベル	40.1%

項目：「表現」

① 語彙

得点	割合
0 点	42.2%
1 点	40.3%
2 点	17.5%
3 点	0.0%
4 点	0.0%

② 文法

得点	割合
0 点	49.5%
1 点	40.1%
2 点	10.4%
3 点	0.0%
4 点	0.0%

項目：「構成」

得点	割合
0 点	54.7%
1 点	30.8%
2 点	14.4%
3 点	0.1%
4 点	0.0%

■分析結果と課題

与えられたテーマに関する自分の意見を適切に書いていない生徒が 63.4%、自分の意見をサポートする理由を適切に書いていない生徒が 49.2%であった。

レベルごとに見てみると、A2 レベルの 95.2%、B1 レベルの 99.8%が意見を書くことができている一方、A1 レベルでは 23.9%と大幅に減少する。この傾向は、理由を書くことについても同様である。

今回の設問について、A1 及び A2 レベルでは、次のような点が課題となっている。

〈A1 レベルの生徒の課題〉

- ・ 英文を書こうとする姿勢は読み取れるものの、読み手の理解を著しく阻害するようないわゆる “global error” によって英文の意味が伝わらない。
- ・ 日本語の影響を受けた不適切な語順が目立つ。
- ・ 与えられたテーマについて自分の意見を書くための表現が定着していない。
- ・ どのように書き始めたらよいかかわからず、自分の経験や具体例にとどまって意見を書けていない。
- ・ 単に文を羅列して書いているため、全体としてまとまりに欠ける。

〈A2 レベルの生徒の課題〉

- ・ 段落を意識した文章が書けるようになるものの、段落同士のつながりが不明瞭であったり、文章全体の一貫性に欠けたりする。
- ・ 意見をサポートする理由付けが、自分の経験や考えだけにとどまっていて客観性が低く、説得力に欠けた展開になっている。
- ・ 読み手の理解を阻害する文法の誤りなどが見られ、意図を正しく伝えられていない。

生徒質問紙 No.16-(2)「次の学年（第2学年）の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていませんか」に対し、「そう思う」（選択肢①）又は「どちらかといえば、そう思う」（選択肢②）と回答した生徒は 42.5%（平成 26 年度調査は 38.7%）であった。「書くこと」のスコアとのクロス集計によると、A1 レベルの生徒は 38.6%、A2 レベルの生徒は 59.9%、B1 レベルの生徒は 66.8%であり、ライティング力が低い生徒ほど授業においてこのような活動を経験していないことがわかる。

■学習指導に当たって

○普段から様々なテーマについて自分の考えなどを書く指導の工夫

書くことの力は、基本的には書くことを通してのみ培われる。そのため、教科書などの教材で学習した話題について、自分の意見とそう考える理由を書いて表現する機会をできるだけ多く与える必要がある。例えば、環境問題に関する内容を読んだ場合は、「日常生活において自分ができることは何か」や「問題解決のために最も有効な政策は何か」のように教科書で学習した内容にリンクした課題を与え、様々な話題に生徒が自分で考えた意見を生み出すことができるよう指導する工夫が必要である。その際、「書くこと」を大きなプロジェクトとせず、短い英文でもかまわないので日常的に書く習慣をつけることが大切になる。

○英語の文章構成を身に付けるための工夫

意見を書く際、英文の「意見→理由→結論」という基本的な文章構成に沿って書くことが重要である。その指導として、次のような方法が考えられる。

〈モデルの提示 ⇒ モデルに沿って書く〉

最初にモデルとなる文章を見せて、その構成を意識して文章を書く方法である。この活動は「読むこと」の指導とあわせて行うことができる。例えば、教科書の説明文などを題材とし、各段落の役割を生徒に問いかけながら、文章全体がどのような構成（流れ）で書かれているかを理解させ、それを書く活動に生かす指導である。

〈書く活動 ⇒ モデルの提示 ⇒再度書く活動〉

最初に文章を書いてからモデルとなる文章を見て、そのモデルを参考にして再度文章を書き直す方法である。ここでのポイントは、自分の書いた文章とモデルとを比較することにある。両者を比較することにより、生徒はその差がどこにあるのかを認識し、次に書くときにどう改善すればよいのかについて、具体的な方策を持つことができるようになる。

○内容につながりや一貫性がある文章を書くための工夫

文章の構成に注意し、書きだしから結論（終わり）まで一貫性のある文章を書けるようになることが大切である。そのためには、自分が生み出す各文の機能（意味、役割）を意識して書くことが求められる。例えば「意見→理由→結論」という構成に沿っていても、各段落の内容が自分の主張と矛盾していないか、段落間でアイディアの飛躍がないかなどの点に留意する必要がある。その際、文脈が明確な文章を書くために、つなぎ言葉を活用できるようにしたい。

設問 2

2.

これから読まれる英文を聞き、その内容を30語程度の英語で要約しなさい。英文は2回読まれます。問題の途中でメモを取ってもかまいません。時間は4分です。

<スクリプト>

Many farms just sell one thing. But have you ever heard of a pizza farm? A pizza farm is a farm that grows everything that is needed to make pizzas, such as tomatoes and onions. Pizza farms also make cheese. It is easy and useful to be able to quickly buy everything that you need to make a pizza in one place.

But do you know an interesting thing about pizza farms? Pizza farms are in the shape of a pizza! If you look down on a pizza farm from a plane, you will see that the farm does not have four straight sides like a box, but is round like a pizza. And each field on the farm has only three sides, almost like a triangle. Each field is like a piece of the pizza. Something different grows in each field. Yes, it's amazing! Pizza farms are in the form of a pizza!

※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

ある事柄についての説明文を音声で聞き、その要点を書いてまとめる。

■得点と割合

設問 2

項目：「内容」

要点 1（英文第 1 段落の要点）

得点	割合
0 点	74.5%
1 点	22.7%
2 点	2.8%

要点 2（英文第 2 段落の要点）

得点	割合
0 点	92.5%
1 点	3.0%
2 点	4.5%

項目：「表現」

得点	割合
0 点	68.3%
1 点	16.6%
2 点	12.9%
3 点	2.1%
4 点	0.1%

■分析結果と課題

「内容」の要点 1 は聞いた英文の 1 段落目、要点 2 は聞いた英文の 2 段落目の要点に関する得点である。要点を押さえられなかった生徒（0 点）はそれぞれ全体の 74.5%と 92.5%に上り、聞いた内容の要点を把握して書くことに課題がある。また、「表現」は、聞いた英文の要点が適切な表現で書かれているかに関する得点であるが、全体の 68.3%の生徒が適切な表現で英文を書くことができず、この点にも課題があると言える。

A1 レベル、A2 レベルごとでは、次のような課題がある。

〈A1 レベルの課題〉

1 つ目の要点を押さえられた割合（1～2 点）が約 5%、2 つ目の要点を押さえられた割合が 1%以下という結果であった。“pizza”に関する内容であることは理解できているようだが、“pizza”、“tomato”、“onion”、“cheese”などの限定的な単語単位の理解にとどまっており、英文全体の趣旨や各段落のポイントを押さえるまでには大きなハードルがある。

〈A2 レベルの課題〉

1 つ目の要点を押さえられた割合が約 50%、2 つ目の要点を押さえられた割合が約 30%であった。重要な情報のいくつかを聞き取ることができている状態で、要約としては不十

分な点が見受けられる。また、重要な情報を聞き取ることができていたとしても、それらを書いて表現する段階になると要点のまとめ方が不十分であることが多い。なお、2つ目の要点を押さえられているかどうかは、A2 レベルの生徒と B1 レベルの生徒でかなり差がついている。

生徒質問紙 No.10-(2)「以下の学年（第2学年）の英語の授業では、英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか」に対し、「そう思う」（選択肢①）又は「どちらかといえば、そう思う」（選択肢②）と回答した生徒は59.5%（平成26年度調査は58.2%）であった。ライティング・スコアとのクロス集計によると、A1 レベルの生徒が57.7%、A2 レベルの生徒が67.9%、B1 レベルの生徒が70.5%であった。聞いた内容の概要や要点をとらえる活動をしていないと、本設問のような「聞くこと」と「書くこと」を統合した設問に対応することは難しいと言える。

■学習指導に当たって

○技能統合型の言語活動の工夫

統合的なコミュニケーション能力を育成するためには、4つの技能を別々に指導することにとどまらず、聞いたり読んだりして得た内容をもとに書いたり話したりするなど、複数の技能を組み合わせた言語活動を授業の中で積極的に取り入れることが重要である。その際、例えば次のような指導をすることが考えられる。

- ・“What did you do last night?” などの話題で比較的簡単な会話をペアで行い、聞いた内容に基づいて相手の行動をモノログで書いてまとめる。
※行動が時系列で説明されない場合でも、時系列に沿って書くことを意識させる。
- ・英文を読み、重要な情報を残す形で原文を5割→3割というように段階的に短くしていき、最終的には要点だけを残した簡潔な要約を書く。

(4) 話すこと ～ Speaking ～

1. 学習指導要領における領域・内容

- ① 適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを英語で話すことができる。
- ② 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。
- ③ 事実と意見などを区別して話すことができる。

2. 本調査において当技能で問うている力

Part A …与えられた英文を 30 秒間黙読した後に音読し、単語を正しく発音できているか、意味のまとまりを理解して音読できているかを測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

Part B …試験官からの質問に対して、個人の経験や考えをもとに、即座にかつ適切に応答する力を測定する問題で、上記学習指導要領における②の力を見ている。

Part C …与えられた社会的な話題に対して、個人の考えや経験に基づいて意見を述べる力を測定する問題で、上記学習指導要領における③の力を見ている。

3. 経年比較分析

89.0%の生徒が CEFR の A1 レベル（平成 26 年度調査から 0.5 ポイント減少）、11.0%の生徒が A2 レベル以上（同 0.5 ポイント増加）である。平成 26 年度調査と比較して平均点は上がっているものの、0 点の生徒の割合は 18.5%で昨年度より 4.5%増加しており、話せる生徒と話せない生徒の差が広がる結果となっている。

4. 課題など（◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点）

以下の内容は、相当数の生徒が該当する A1 レベルの特徴である。

話すこと

◇与えられた話題に対し、1 分間の準備をした上で、ごく簡単にではあるが自分の意見と理由を述べるできている。

- ◆単語を正確に発音することや、文構造や意味のまとまりを意識しながら読むことに課題がある。
- ◆単語やフレーズ単位であれば、準備時間がなくてもアウトプットすることができるが、文を構成しながら話すことは、即興では難しい。
- ◆「話す内容を組み立てること」と「適切な文法や表現を使うこと」を同時に意識する力に課題がある。

5. 指導改善のポイント

話すこと

- ペア・ワークやグループ・ワークなどを効果的に導入し、個々の生徒が発話する機会を増やすことが重要である。
- 生徒にとってできるだけ興味・関心のある話題・内容を扱ったり、またロールプレイなど英語を発話しやすい場面設定を与えたりすることが大切である。
- 話す活動をした後に、教師がフィードバックを与えたり、生徒自身が振り返ったりする機会を設け、それらのことを踏まえてもう一度話す活動をするというサイクルが必要である。

6. 問題詳細分析

Part A

Some air pollution has natural causes, like windstorms and volcanoes, but most is the result of human activity. A blanket of dirty air covers most cities of the world. It mainly comes from cars and trucks and from factories that burn coal. The polluted air makes people sick, and it's especially bad for young children and aged people. Is this why countries are making rules to reduce air pollution?

※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

問題冊子に印刷された英文（69語）を30秒間で黙読した後、音読する。

■得点と割合

観点1：適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話することができる。

得点	割合
0点	25.5%
1点	52.5%
2点	22.0%

■分析結果と課題

約70語の英文を正確に、ある程度流ちょうに音読することを求めた設問である。A1レベルでは「話すこと」において最も得点率が高い観点ではあるが、それでも29%が0点（全体では25.5%が0点）であった。これは、正しく発音できない単語や、発音できずに読み飛ばしてしまう単語が多くあり、聞き手が内容を理解することが難しいことを意味している。また、全体の

52.5%、A1 レベルの 57.6%が 1 点であった。これは、最後まで読めてはいるが、正しく発音できない単語がいくつかあったり、イントネーションやリズムが適切ではなく棒読みになっていたりを意味している。具体的には、“natural”、“windstorms”、“volcanoes”、“children”、“aged”などの発音が不適切であったり、最後の一般疑問文を下降調で読んだりしていると考えられる。

一方、A2 レベルの 87.3%が 2 点、すなわち「明瞭で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで」音読ができています。A2 レベルの生徒は、単語の文字と音が一致していることに加え、30 秒の黙読時間で英文の最後まで目を通し、事前にある程度内容を理解することができたため、意味のまとまりを意識して音読することができたと考えられる。

■学習指導に当たって

相手に伝わる発音やリズム、イントネーションで発話することは話す力の土台となり、情報や考えなどを適切に伝える上で重要である。ネイティブ・スピーカーのように話す必要はないが、聞き手が内容を誤解しない程度の発音、リズム、イントネーションなどを身に付ける必要がある。その際、次のような方法を適宜組み合わせることで指導することが考えられる。

①英語の音韻的特徴に関する“気付き”を与える

聞き手が理解に困難を生じるような発音、リズム、イントネーションなどについては、それらについて教師が生徒に気付きを与える必要がある。例えば、生徒の発話を教師が拾い上げ、修正すべき点をやや強調した形で recast するといった方法が考えられる。

②明示的に説明した上で練習する

例えば、ターゲットとする音の出し方（口の中の動きなど）を教師が説明し、モデルをした上で、生徒が練習する方法である。ただし、この場合であっても、単語レベルでの発音にとどまらず、少なくとも文レベルで応用できるようにする必要がある。

③相手に伝えるための音読を行う

音読活動は授業において盛んに取り入れられているが、その目的が明確ではない場合が多い。音読であっても、相手に伝えることが最も重要であり、必ずしもすらすら読むことが最優先されるべきではない。その点において、次のような活動は効果的であろう。

- 1) 教科書以外の教材を 2 種類用意し、ペアで異なる英文を指定時間で黙読する。
- 2) 内容上のキーワード、発音上注意すべき語をチェックする。
- 3) 自分が持っている英文をパートナーに対して音読する。
- 4) 音読の後、あらかじめ教師が用意しておいた英文内容に関する質問（英文カードに記載しておく）をパートナーにし、どれくらい内容が伝わっているかを確認するとともに、相手が理解できていない事項については、当該文を再度音読する。

※上記③の留意点

〔英文の内容〕教科書で学習した内容と関連しているものが好ましい。

〔英文のレベル〕当該学年よりも1学年下で学習した英文レベルで、読んだ場合には容易に理解できる程度のもとする。

Part B

Now, I'm going to ask you some questions. Are you ready? OK, let's begin.

Question No.1: According to the passage in Part A, what causes most air pollution?

Question No.2: What do you like to do in places with clean air, (pause) in the countryside, for example?

Question No.3: What is the most interesting city you have ever visited or heard of? Tell me about the city.

Question No.4: Which city do you want to visit in the future, and why?

Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

試験官からの質問（音読した英文に関する質問及び英文とは直接関係のない質問）に対して、生徒自身の経験や考えを述べる。

■得点と割合

観点2：相手の発話に対応した適切な内容のやりとりとなっている。

得点	割合
0点	46.8%
1点	31.4%
2点	17.0%
3点	4.8%

観点3：適切な文法や表現を用いて話せている。

得点	割合
0点	50.7%
1点	28.2%
2点	16.3%
3点	4.8%

■分析結果と課題

質問に対して準備をする時間は与えられず、即興で応答する能力が求められるが、音読した英文の内容に関する Question No.1 を除き、各質問は自分が訪ねたことのある都市など生徒にとって身近な内容になっている。

A2 レベルの生徒はほぼ全員が、観点2（適切な内容）、観点3（適切な文法や表現）の両方において2点以上を取っており、Question No.1～No.4 のほぼすべてについて適切に応答できて

いる。一方、A1 レベルの生徒の半数以上が、観点2、観点3において0点であり、特に観点3では平均得点率が18%で、全5観点の中で最も低い結果となっている。A1 レベルの生徒について、具体的には次のような課題が見られる。

〈Question No.1 について〉

Part A で音読した英文の内容に関する質問だが、一度黙読や音読しただけでは内容を把握しきれず、解答できなかつたと考えられる。

〈Question No.3、Question No.4 について〉

Question No.3 の “What is the most interesting city you have ever visited or heard of? Tell me about the city.” や、Question No.4 の “Which city do you want to visit in the future, and why?” では、訪れた場所や訪れたい場所は言えても、それについて詳しく説明したり、訪れたい理由を即興で述べたりすることができなかつたと考えられる。

〈文法・表現について〉

「内容の評価」よりも「文法・表現の評価」の得点率が低いことから、伝えたい内容が思い浮かんでいても、それを適切な文法や表現を用いて説明することができていない可能性がある。A1 レベルでは、適切な語彙の選択、S+V などの基本的な語順、be 動詞と一般動詞の使い分けなどに課題が見られる。

さらに質問紙調査の結果を見ると、生徒質問紙 No.15 「与えられた話題について、(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていましたか」について、A1 レベルの生徒は学年が上がるにつれて「活動していた」と回答する生徒の割合が微増はしているが、それでも第3学年で35%程度であり、3分の2程度の生徒は高校3年間を通して、学校の授業ではこのような活動を経験していないという結果となっている。

■学習指導に当たって

実際のコミュニケーション場面では、準備をしないでやりとりをする力が求められる。しかし、「話すこと」の指導では、準備して書いたものを発表させる活動が比較的多く、即興でやりとりをする活動はあまり行われていない。授業で行われていないことは生徒もできるようにはならないことを、今一度認識する必要がある。

即興で話す力を育成する指導の一つとして、例えば、次のようなメモ式スピーチが考えられる。

- ①聞いたり読んだりしたアイディアや表現などを活用して、自分が伝えようとする内容を整理する。
- ②上記①に関するキーワードをメモ書きする。この際、書くことができる語数を指定することで、メモが“原稿化”することを防ぐこともできる。いずれにしても、メモにはフルセンテンスを

書かないようにする。

③メモを参考に、頭の中で英文を構成しながら話す。

④上記③でうまく伝えられなかったことを中心に、文法や表現に注意して書いて表す。

⑤上記④について、ポイント（例えば、主語、時制、語彙選択など）を絞って生徒同士でチェックし合う。

⑥上記④において、ある程度共通に見られる誤りについて教師がフィードバックを与える。

※即興で話す活動は、どこでつまづいたかを振り返らないと表現力などが向上しない。そのため、上記④～⑥において、実際にどう表現すべきであったかを学び、それを次の活動に生かすようにすることが大切である。

（参考）即興でやりとりする活動例（ロールプレイ）

1. ペアを組み、生徒役と教師役に分かれる。

2. それぞれに異なるカードが与えられ、自分が置かれている状況やタスクを理解する。

※生徒役、教師役ともに相手のカードの内容は知らない状態である。

生徒	教師
自分が入っているテニス部の練習日です。今まで遅刻したことはありませんでしたが、今日は5分遅れてしまいました。顧問の先生（ペアの相手）はいつも穏やかで、前回遅れてきた先輩は特に注意されませんでした。どうしようか迷いますが、B先生に遅れたことを謝ります。	今日は新しい練習内容を取り入れるため、時間通りに部活動を始めたいと思っています。5分程度の遅刻は普段は大目にみっていますが、今日は時間に余裕がありません。遅刻した生徒（ペアの相手）が謝ってきますが、注意を与え、遅れた理由を聞きます。理由を聞いたら、それについて応答します。

3. 生徒役の発話で始め、与えられた状況に応じて会話をする。

4. ペアや役割を変えて、何度か同じ活動を行う。

5. 発話における表現などについて、教師がフィードバックを与える。

〔留意点〕

この活動では生徒役と教師役の情報にギャップがあり、実際のコミュニケーションに近い即興でのやりとりを経験することができる。上記の例では、生徒役は「遅刻したことを謝る」「遅れた理由を即興で考えて伝える」というタスク、教師役は「遅れた生徒を注意し、理由を聞く」「理由を聞いて、即興で応答する」というタスクだが、生徒の状況に応じ、状況設定をより簡単にしたり、タスクのレベルや数を変えたりすることができる。

Part C

Here is a statement: Teachers should speak only English in English class.
Do you agree or disagree with this statement?
Give one or more reasons why you think so.
You will have one minute to prepare. Then, you will have two minutes to speak.

※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■ 出題の趣旨・形式

事実と自分の意見とを区別して、論理的に話して説明する。

■ 得点と割合

観点4：与えられた質問に対応した適切な内容となっており、論理展開がわかりやすい構成になっている。 観点5：適切な文法や表現を用いて話せている。

得点	割合
0点	39.0%
1点	35.5%
2点	19.5%
3点	6.0%

得点	割合
0点	46.6%
1点	32.4%
2点	16.7%
3点	4.4%

■分析結果と課題

社会的な話題について、事実と個人の考えや意見とを区別しながら論理的に述べることができるかどうかを測定する設問である。テーマは“Teachers should speak only English in English class.”で、生徒にとって比較的身近な内容である。

Part C は A2 上位レベルから B1 レベルを測るタスクであり、多くの生徒にとっては難易度の高い設問であったにもかかわらず、意見と理由を簡単に述べることができていた。実際、A1 レベルの生徒は観点 4 の得点率が 24%で、音読の観点 1 を除く他の観点と比較して、最も高い結果となっている。

一方、レベルごとで見ると、次のような課題がある。

〈A1 レベルの生徒の課題〉

ごく簡単に自分の意見と理由を述べることはできているが、“I agree because I like speaking English.”のように意見と理由の関連付けが弱く、論理的な説得力に欠けているケースが目立つ。また、観点 5 「適切な文法や表現を用いて話せている」に関しては、発話量が 10 数語にとどまったり、使える文法や表現が限定的であったりすることを示す 0 点が半数以上となっている。

〈A2 レベルの生徒の課題〉

ほぼ全員が、観点 4、5 とともに 2 点以上であり、与えられた話題について、文法上の誤りはあるものの、自分の意見と理由を伝えることができていた。ただし、論理展開がわかりやすい構成になっていない、又は一貫性に欠けている生徒が半数以上おり、ここが B1 レベルの生徒との差となっている。1 分間の準備時間では、思いついたアイデアを英語にすることに精一杯で、全体の構成を整理することまではできなかつたと考えられる。

■学習指導に当たって

本設問に対応できる力を育成するための指導において、次のような点に注意したい。

- ・趣味や休日の過ごし方など、身近で自分が話したいと思うテーマから始める。
- ・完璧な英語を話そうとするあまり生徒が委縮してしまわないように注意し、間違いを恐れず話すことができる雰囲気を作るようにする。同時に、発話内容や表現方法について、教師や他の生徒からフィードバック（教師による生徒の発話のリキャストなど）を受けることで改善のための機会を与えることが大切である。
- ・話した後に同じ内容を書く活動を入れるなどして、産出する英語を質的に向上させるためのステップを踏む。
- ・話の要点や自分の意見を先に伝え、その後に理由や補足情報を加えるという構成で話すことに慣れる。
- ・事実と意見を区別して話す。

(参考) 意見展開の活動例

1. テーマ設定

生徒が容易に意見を展開できる身近で馴染みのあるトピックを使う。

2. リーディングによる情報等の取得

テーマに関連した英文を読み、単語や表現、背景知識をインプットする。

3. グループでのブレインストーミング

各自のアイデアを自由に出し合う。考えが何も思い浮かばない生徒や英語に対して苦手意識が強い生徒には、グループで出されたアイデアを利用させてもよい。

4. 表現の scaffolding (足場作り)

意見を述べる際に活用できる表現を指導する。

例) 意見を述べるとき：

I believe that.../I think that.../In my opinion, ~ is a good idea.

理由を述べるとき

There are two reasons to support my opinion./I have two reasons for it./Here are my reasons.

5. 発表メモの作成と発表

自分の意見とその展開方法を考えた上で、キーワードのみによるメモを作成し、それに基づいて発表する。

6. 生徒及び教員からのフィードバック

生徒にはあらかじめ、主に内容と表現においてどのような観点でフィードバックするかを伝えておく。

7. フィードバック内容を反映させたライティング

口頭で発表した内容とそれに対して受けたフィードバックをもとに、同じテーマで自分の意見などを書く。

4章 質問紙調査結果の分析

※本章で扱うデータは、特に注記がない限り、公立学校の調査対象校のものとする。

1. はじめに

本章では、生徒・学校・教員に対して実施された質問紙調査のうち、公立学校の調査データをもとに、特徴のある項目について分析を行った。また、昨年度（平成 26 年度）も調査していた質問紙項目については今年度と昨年度の結果を比較し、経年比較の観点で分析を行った。

なお、生徒データの「クロス集計」結果に関しては、各技能で 68%～89%の対象者が CEFR の A1 レベルに集中しているため、レベル別の分析はあくまでも参考程度という前提で行われている。

2. 主な特徴

2.1 生徒質問紙調査から

(1) 「英語の学習が好きだ」と回答した生徒は昨年度よりやや増加したものの、依然として「英語の学習が好きではない」との回答が半数を上回る。

(2) 生徒の自主的な英語学習時間は昨年度より伸びているが、依然として少ない。

以下の項目については、昨年度と同様の傾向がみられる。

(3) 資格・検定試験を受験した経験がない生徒は、半数を超えている。

(4) 将来の英語使用のイメージが、現在の英語力のレベルによって異なる。

(5) 授業以外で英語を使った各種活動を経験している生徒が非常に少ない。

(6) 概要や要点をとらえる活動はある程度経験しているが、それをもとにして英語で議論したり書いたりする活動はあまり経験していない。また、昨年度同様、スピーチやディベートなどの「話す活動」については経験している割合が少ない。

2.2 学校・教員質問紙調査から

(1) CAN-DO リスト形式での学習到達目標の設定は、昨年度より進んでいる。

(2) 言語活動に重点を置いた指導計画を作成している割合は、昨年度より増加している。

以下の項目については、昨年度と同様の傾向がみられる。

(3) 技能の統合を意識した言語活動への取組に関して、改善の余地がある。

(4) 話す活動の取組に関して、改善の余地がある。

(5) 教員研修の成果を日々の教育活動へ生かす工夫がより一層必要である。

(6) 教員自身が英語力を向上させるための支援をしていく必要がある。

3. 質問項目ごとの分析

3.1 生徒質問紙調査から

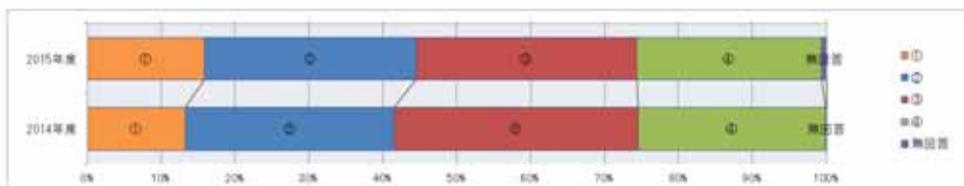
(1) 昨年度同様、英語の学習が好きではないとの回答が半数を上回る。

・No. 1 「英語学習への意識」

No.1 英語の学習は好きですか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ ほとんどそう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	12,551	22,568	23,842	19,719	504	78,984
	選択率	15.8%	28.6%	29.9%	25.0%	0.6%	100%
2014年度	回答数	8,779	16,675	21,803	16,741	69	66,067
	選択率	13.3%	25.1%	33.0%	28.6%	0.1%	100%

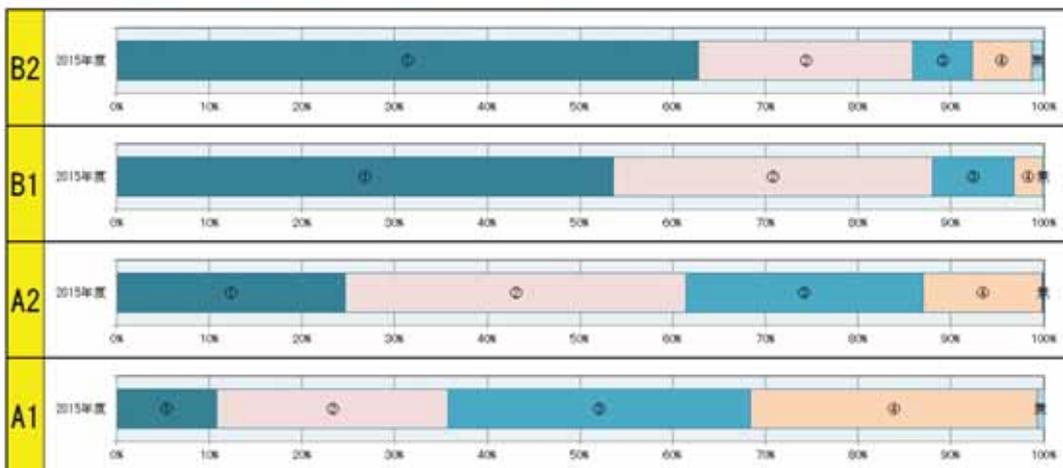


・No. 1 「英語学習への意識」クロス集計(生徒質問紙×「読むこと」)

No.1 英語の学習は好きですか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ ほとんどそう思わない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	2015年度	回答数	49	18	5	5	1	78
		選択率	62.8%	23.1%	6.4%	6.4%	1.3%	100%
B1	2015年度	回答数	831	595	137	48	2	1,553
		選択率	53.5%	38.4%	8.8%	3.1%	0.1%	100%
A2	2015年度	回答数	5,759	8,580	5,968	2,991	45	23,323
		選択率	24.7%	36.7%	25.6%	12.6%	0.2%	100%
A1	2015年度	回答数	5,706	13,167	17,231	16,349	390	52,843
		選択率	10.8%	24.9%	32.6%	30.9%	0.7%	100%



※クロス集計については、4技能のうち「読むこと」を取り上げているが、他の技能についても同様の傾向が見られる。

生徒質問紙 No. 1「英語の学習は好きですか」との問いに対し、「どちらかといえば、そう思わない」(選択肢③)と「ほとんどそう思わない」(選択肢④)の合計が 54.9%となっており、昨年度の 58.3%からは減少したものの、依然半数を超えている。一方、「そう思う」(選択肢①)と「どちらかといえば、そう思う」(選択肢②)の合計は 44.5%で、昨年度の 41.6%から 2.9 ポイント増加した。

各技能とのクロス集計結果を見ると、上記に掲載した「読むこと」のみならず全技能において、A1 レベル(最も多くの生徒が含まれるレベル)では「英語の学習が好きではない」が顕著である。この傾向は昨年度も同様で、生徒の英語学習に対する意識は英語力自体と大きく関連しているとわかる。

(2) 高校入学後に資格・検定試験を受験した経験を持つ生徒は少ない。

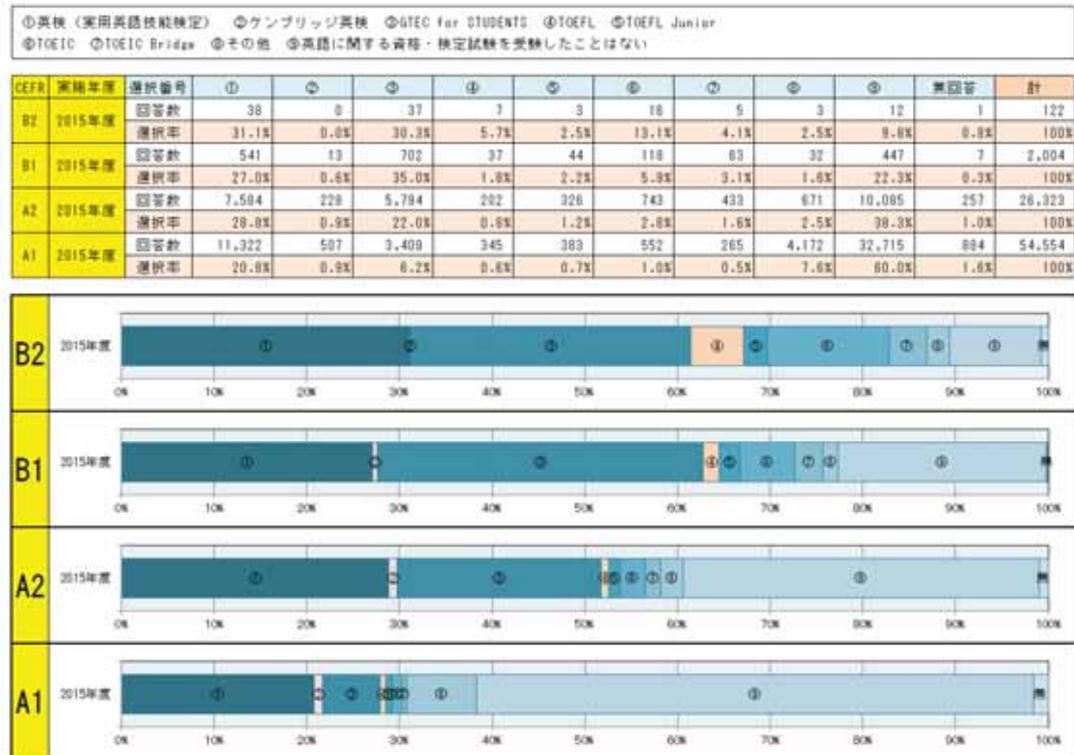
・No. 5 「英語に関する資格・検定試験の受験経験」

No.5 高校生になってから、今回の試験以外に、英語に関する資格・検定試験を受験したことがありますか。受験したことがあるものをすべて選んで下さい。受験したことがなければ⑩を選んで下さい（複数回答可）。



・No. 5 「英語に関する資格・検定試験の受験経験」 クロス集計(生徒質問紙×「読むこと」)

No.5 高校生になってから、今回の試験以外に、英語に関する資格・検定試験を受験したことがありますか。受験したことがあるものをすべて選んで下さい。受験したことがなければ⑩を選んで下さい（複数回答可）。



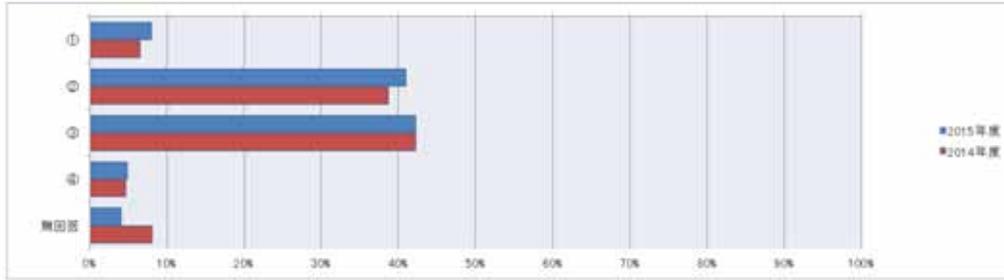
※クロス集計については、4技能のうち「読むこと」を取り上げているが、他の技能についても同様の傾向が見られる。

・No. 6 「英語に関する資格・検定試験を受験したことがない理由」

No.6 (No.5で④と回答した方のみ) 受験したことがない理由は何ですか。当てはまるものをすべて選んで下さい(複数回答可)。

①受験しなかったが、その機会がなかった ②受験したいとは思わなかった(受験する必要性を感じなかった)
③自分の英語力に自信がない ④その他

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	3,731	19,114	19,892	2,229	1,924	48,880
	選択率	8.0%	40.5%	42.2%	4.6%	4.1%	100%
2014年度	回答数	2,959	17,651	19,224	2,078	3,673	45,585
	選択率	6.5%	39.7%	42.2%	4.6%	8.1%	100%



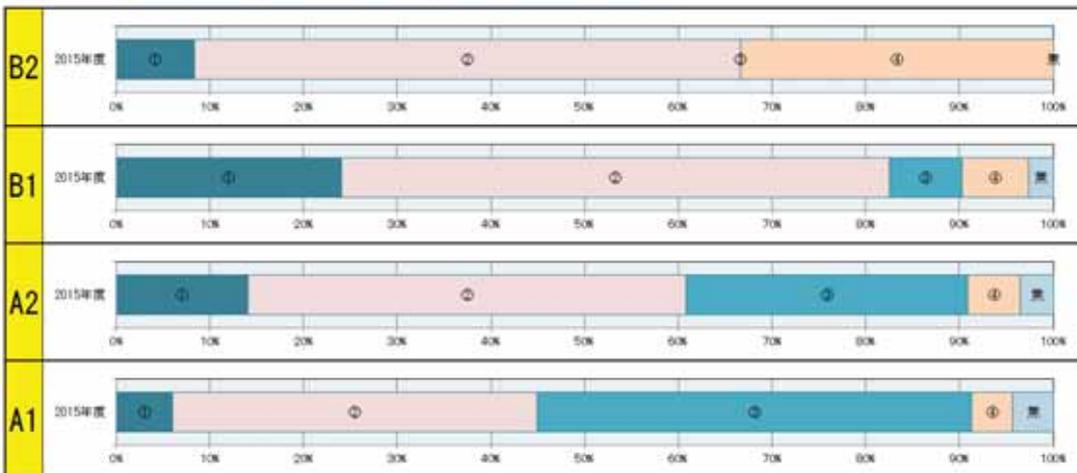
・No. 6 「英語に関する資格・検定試験を受験したことがない理由」

クロス集計(生徒質問紙×「読むこと」)

No.6 (No.5で④と回答した方のみ) 受験したことがない理由は何ですか。当てはまるものをすべて選んで下さい(複数回答可)。

①受験しなかったが、その機会がなかった ②受験したいとは思わなかった(受験する必要性を感じなかった)
③自分の英語力に自信がない ④その他

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	2015年度	回答数	1	7	0	4	0	12
		選択率	8.3%	58.3%	0.0%	33.3%	0.0%	100%
B1	2015年度	回答数	111	270	36	33	12	462
		選択率	24.0%	58.4%	7.8%	7.1%	2.6%	100%
A2	2015年度	回答数	1,502	4,991	3,210	598	370	10,671
		選択率	14.1%	46.8%	30.1%	5.6%	3.5%	100%
A1	2015年度	回答数	2,078	13,514	16,155	1,537	1,508	34,784
		選択率	6.0%	39.9%	46.4%	4.4%	4.3%	100%



※クロス集計については、4技能のうち「読むこと」を取り上げているが、他の技能についても同様の傾向が見られる。

生徒質問紙 No. 5「高校生になってから、今回の試験以外に、英語に関する資格・検定試験を受験したことがありますか」との問いに対し、「英語に関する資格・検定試験を受験したことはない」（選択肢⑨）と回答した生徒は 52.2%で、昨年度の 53.5%と同様に半数以上である。「読むこと」とのクロス集計の結果を見ると、テストスコアが高いほど英語に関する試験の受験経験が多いことがわかる。また、大多数の生徒が該当する A1 レベルでは、「英語に関する資格・検定試験を受験したことはない」（選択肢⑨）と回答した生徒が 60.0%となっている。

生徒質問紙 No. 6 で「受験したことがない理由」を尋ねているが、「受験したいとは思わなかった（受験する必要性を感じなかった）」（選択肢②）が 40.9%、「自分の英語力に自信がない」（選択肢③）が 42.2%で、昨年度（選択肢②が 38.7%、選択肢③が 42.2%）と同様の傾向である。

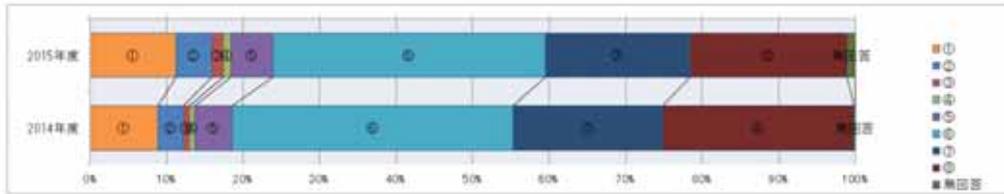
(3) 将来の英語使用のイメージが、現在の英語力のレベルによって異なる。

・No. 2 「将来の英語使用のイメージ」

No.2 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ①英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい ②大学での自分が専攻する学問を英語で学ぶことができるようになる
 ③高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい ④高校在学中に留学して、海外の高校の授業に参加できるようになりたい
 ⑤海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになる ⑥海外旅行などをすると、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになる
 ⑦大学入試に対応できる力をつけたい ⑧特に学校の授業以外での利用を考えていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	無回答	計
2015年度	回答数	8,988	3,721	1,145	785	4,389	29,135	14,854	16,263	824	78,984
	選択率	11.2%	4.7%	1.4%	1.0%	5.6%	36.6%	18.8%	20.6%	1.0%	100%
2014年度	回答数	5,848	2,188	575	415	3,289	24,231	12,924	16,490	107	66,067
	選択率	8.9%	3.3%	0.9%	0.6%	5.0%	36.7%	19.6%	25.0%	0.2%	100%

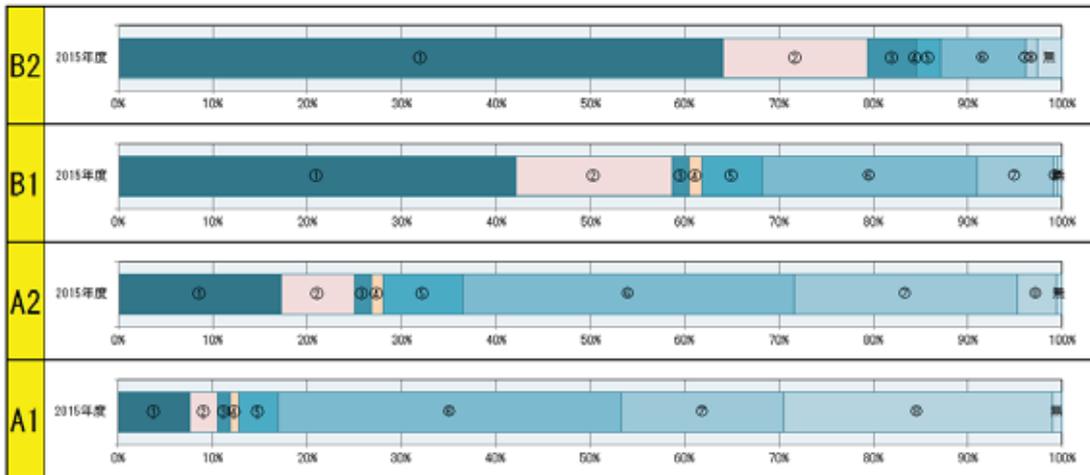


・No. 2 「将来の英語使用のイメージ」クロス集計(生徒質問紙×「読むこと」)

No.2 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ①英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい ②大学での自分が専攻する学問を英語で学ぶことができるようになる
 ③高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい ④高校在学中に留学して、海外の高校の授業に参加できるようになりたい
 ⑤海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになる ⑥海外旅行などをすると、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになる
 ⑦大学入試に対応できる力をつけたい ⑧特に学校の授業以外での利用を考えていない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	無回答	計
B2	2015年度	回答数	50	12	4	0	2	7	0	1	2	78
		選択率	64.1%	15.4%	5.1%	0.0%	2.6%	9.0%	0.0%	1.3%	2.6%	100%
B1	2015年度	回答数	654	258	28	20	99	354	126	6	8	1,553
		選択率	42.1%	16.6%	1.8%	1.3%	6.4%	22.8%	8.1%	0.4%	0.5%	100%
A2	2015年度	回答数	4,011	1,818	413	284	1,888	8,182	5,509	989	129	23,323
		選択率	17.2%	7.8%	1.8%	1.2%	8.5%	35.1%	23.8%	4.2%	0.6%	100%
A1	2015年度	回答数	4,005	1,571	665	457	2,245	19,203	9,094	14,997	606	52,843
		選択率	7.6%	3.0%	1.3%	0.9%	4.2%	36.3%	17.2%	28.4%	1.1%	100%



※クロス集計については、4技能のうち「読むこと」を取り上げているが、他の技能についても同様の傾向がみられる。

生徒質問紙 No. 2「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか」との問いに対し、「英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい」(選択肢①)が 11.2%(昨年度 8.9%)、「大学での自分が専攻する学問を英語で学ぶことができるようになりたい」(選択肢②)が 4.7%(昨年度 3.3%)で、昨年度に比べて選択肢①は 2.3 ポイント、選択肢②は 1.4 ポイント増加している。また、「特に学校の授業以外での利用を考えていない」(選択肢⑧)が 20.6%(昨年度 25.0%)で、昨年度に比べて 4.4 ポイント減少している。

クロス集計結果を見ると、昨年度と同様、英語力が高い生徒ほど「英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい」(選択肢①)や、「大学での自分が専攻する学問を英語で学ぶことができるようになりたい」(選択肢②)といった回答の割合が高い。これは、英語力が高い生徒ほど、自分が英語を使ってしたいことの理想像がより明確であることを示しているものと考えられる。また、英語力が比較的高い生徒は、英語を職業や学問と直結して認識していることが推測される。

一方、大多数の生徒が属する A1 レベルでは、「海外旅行などをするとき、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい」(選択肢⑥)と回答した生徒が最も多く 36.3%、次いで「特に学校の授業以外での利用を考えていない」(選択肢⑧)が 28.4%、「大学入試に対応できる力をつけたい」(選択肢⑦)が 17.2%であった。この結果から、A1 レベルでは英語の使用場面として「日常かつ長期間使用するイメージ」を描けていないことがわかり、英語使用の必然性を感じられない状況に置かれていることがわかる。

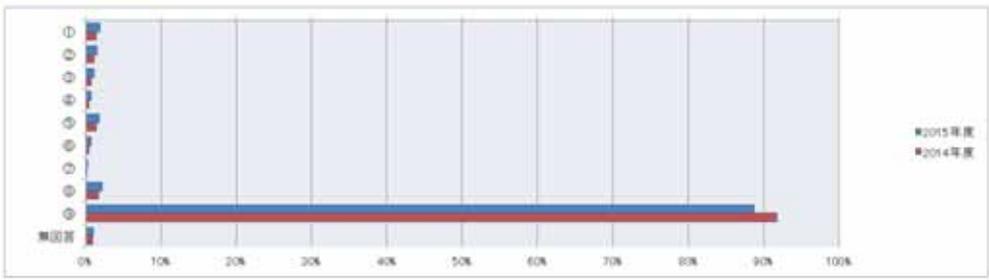
(4) 授業以外で英語を使った各種活動を経験している生徒が非常に少ない。

・No. 3 「授業以外で英語を使った各種活動の経験」

No.3 高校生になってから経験したことがあることは何ですか。当てはまるものをすべて選んで下さい（複数回答可）。

- ① イングリッシュキャンプ ② 英語のスピーチ大会（校内での予選などは除く）
- ③ 英語のプレゼンテーション大会（校内での予選などは除く） ④ 英語のディベート大会（校内での予選などは除く）
- ⑤ 留学（学校主催のプログラムを含む）（2週間未満） ⑥ 留学（学校主催のプログラムを含む）（2週間以上3か月未満）
- ⑦ 留学（学校主催のプログラムを含む）（3か月以上） ⑧ ホームステイ（現地の教育機関などで学習した場合を除く）
- ⑨ 当てはまるものはない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答	計
2015年度	回答数	1,563	1,222	905	554	1,472	566	182	1,808	71,697	920	80,795
	選択率	1.9%	1.5%	1.1%	0.7%	1.8%	0.7%	0.2%	2.2%	88.7%	1.0%	100%
2014年度	回答数	951	764	480	303	921	298	98	1,185	62,253	825	67,848
	選択率	1.4%	1.1%	0.7%	0.4%	1.4%	0.4%	0.1%	1.7%	91.8%	0.9%	100%

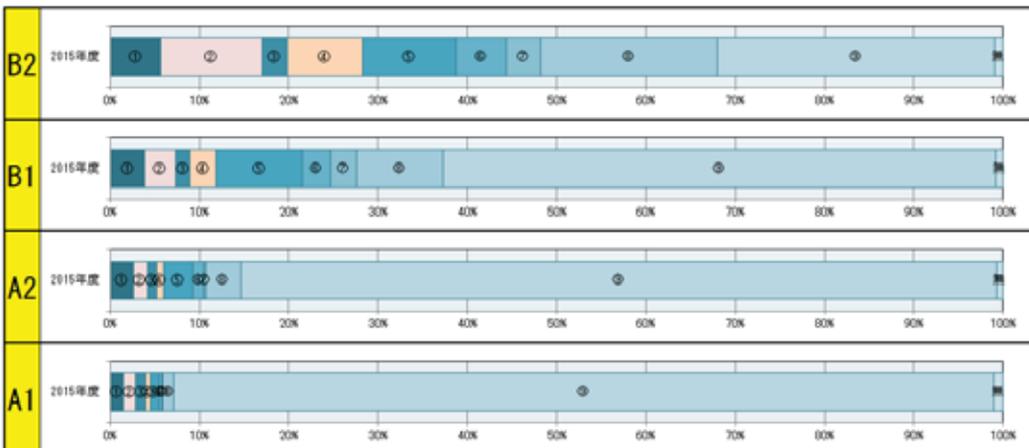


・No. 3 「授業以外で英語を使った各種活動の経験」 クロス集計(生徒質問紙×「読むこと」)

No.3 高校生になってから経験したことがあることは何ですか。当てはまるものをすべて選んで下さい（複数回答可）。

- ① イングリッシュキャンプ ② 英語のスピーチ大会（校内での予選などは除く）
- ③ 英語のプレゼンテーション大会（校内での予選などは除く） ④ 英語のディベート大会（校内での予選などは除く）
- ⑤ 留学（学校主催のプログラムを含む）（2週間未満） ⑥ 留学（学校主催のプログラムを含む）（2週間以上3か月未満）
- ⑦ 留学（学校主催のプログラムを含む）（3か月以上） ⑧ ホームステイ（現地の教育機関などで学習した場合を除く）
- ⑨ 当てはまるものはない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答	計
B2	2015年度	回答数	6	12	3	9	11	6	4	21	33	1	106
		選択率	5.7%	11.3%	2.8%	8.5%	10.4%	5.7%	3.6%	19.8%	31.1%	0.9%	100%
B1	2015年度	回答数	69	82	27	54	172	58	51	174	1,107	14	1,788
		選択率	3.9%	3.5%	1.5%	3.0%	9.6%	3.2%	2.9%	9.7%	61.9%	0.8%	100%
A2	2015年度	回答数	844	990	254	185	805	286	58	954	20,566	173	24,315
		選択率	2.6%	1.6%	1.0%	0.6%	3.3%	1.2%	0.2%	3.9%	84.6%	0.7%	100%
A1	2015年度	回答数	811	731	586	290	456	201	63	633	49,029	585	53,365
		選択率	1.5%	1.4%	1.1%	0.5%	0.9%	0.4%	0.1%	1.2%	91.9%	1.1%	100%



※クロス集計については、4技能のうち「読むこと」を取り上げているが、他の技能についても同様の傾向が見られる。

生徒質問紙 No. 3「高校生になってから経験したことがあることは何ですか」との問いに対し、イングリッシュキャンプ、スピーチ大会、プレゼンテーション大会、ディベート大会、留学などの体験型の学習を経験したことがない（選択肢⑨）と回答した生徒は 88.7% だった。昨年度の 91.8% より 3.1 ポイント減少したものの、大部分の生徒が選択肢に挙げられている活動を経験したことがないと回答している。このことから、授業以外の場面で実際に英語を使って学ぶ機会は、依然として非常に少ないことがわかる。

クロス集計結果を見ると、英語力が低い生徒ほど「当てはまるものはない」（選択肢⑨）と回答した割合が高く、授業以外の場面で英語を使用する機会が少ないことがわかる。

(5) 平日・休日とも生徒の自主的な英語学習時間が少ない

・No. 7 「平日の予習・復習以外の英語学習時間」

No.7 学校の授業や予習・復習以外に、普段（月～土曜日）、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか（英語を聞く、読む、話す、書くのいずれも含む）。当てはまるものを1つ選んで下さい。



・No. 7 「平日の予習・復習以外の英語学習時間」 クロス集計（生徒質問紙×「読むこと」）

No.7 学校の授業や予習・復習以外に、普段（月～土曜日）、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか（英語を聞く、読む、話す、書くのいずれも含む）。当てはまるものを1つ選んで下さい。



※クロス集計については、4技能のうち「読むこと」を取り上げているが、他の技能についても同様の傾向が見られる。

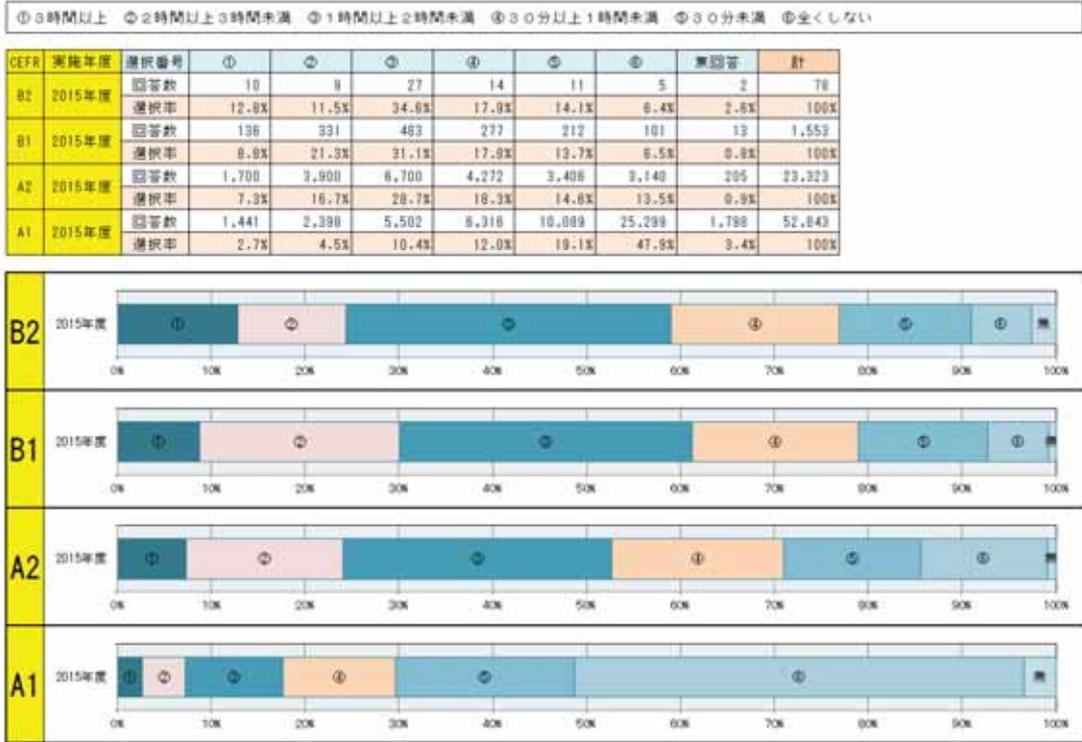
・No. 8 「休日の予習・復習以外の英語学習時間」

No.8 土曜日・日曜日、祝日など学校が休みの日に、学校の授業の予習・復習以外に、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか（英語を聞く、読む、話す、書くのいずれも含む）。当てはまるものを1つ選んで下さい。



・No. 8 「休日の予習・復習以外の英語学習時間」 クロス集計(生徒質問紙×「読むこと」)

No.8 土曜日・日曜日、祝日など学校が休みの日に、学校の授業の予習・復習以外に、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか（英語を聞く、読む、話す、書くのいずれも含む）。当てはまるものを1つ選んで下さい。



※クロス集計については、4技能のうち「読むこと」を取り上げているが、他の技能についても同様の傾向が見られる。

生徒質問紙 No. 7「学校の授業や予習・復習以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか」との問いに対し、「全くしない」（選択肢⑥）が35.7%（昨年度の41.9%より6.2ポイント減少）、「30分未満」（選択肢⑤）と合わせると55.8%（昨年度の63.6%より7.8ポイント減少）と昨年度より改善が見られるものの、依然として半数以上の生徒が予習・復習以外では30分未満しか英語に接していない状況である。この傾向は、昨年度と同様、A1レベルにおいてより顕著（特に選択肢⑥）になる。

また、No. 8「土曜日・日曜日、祝日など学校が休みの日に、学校の授業の予習・復習以外に、1日当たりどれくらいの時間、英語に接していますか」との問いに対し、「全くしない」（選択肢⑥）は36.8%で、昨年度の43.2%より6.4ポイント減少し、全体としては改善傾向にある。しかし、「読むこと」がA1レベルの生徒では、同回答が47.9%である（昨年度52.6%）。A2、B1レベルの同回答がそれぞれ13.5%（昨年度13.8%）、6.5%（昨年度9.5%）であることから考えると、「全くしない」という回答はA1レベルに顕著な傾向であると言える。

以上のことから、大多数の生徒が属するA1レベルでは、平日・休日を問わず、授業の予習・復習以外では十分な学習時間を取っていないことがわかる。これは同時に、A1レベルの生徒は、授業やその予習・復習が唯一英語に触れる時間になっているということである。そのため、授業でどのような言語活動を経験するか、予習・復習として何をどれだけ行うのかが、A1レベルの生徒の英語力を上げる1つのポイントになると考えられる。

(6) 英語を聞いたり読んだりして概要や要点をとらえる活動はある程度経験している。

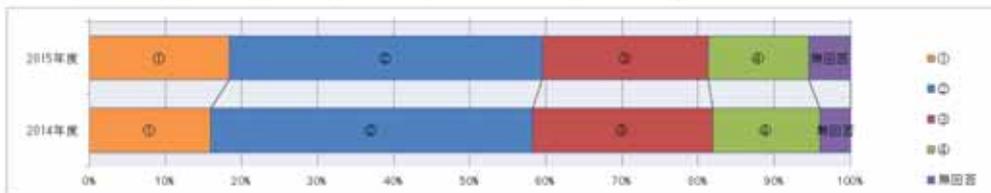
・No. 10-(2) 「リスニングでの概要把握や要点理解」 第2学年

No.10 以下の学年の英語の授業では、英語を聞いて
(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていましたか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	14,572	32,446	17,220	10,429	4,317	78,984
	選択率	18.4%	41.1%	21.8%	13.2%	5.5%	100%
2014年度	回答数	10,508	27,952	15,644	9,902	2,661	66,667
	選択率	15.9%	42.3%	23.7%	14.1%	4.0%	100%



・No. 10-(2) 「リスニングでの概要把握や要点理解」

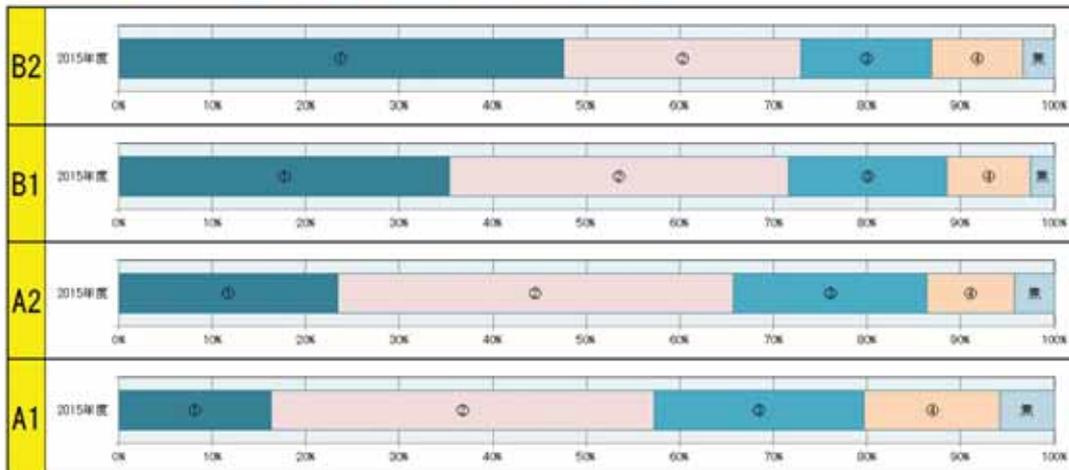
クロス集計(生徒質問紙×「聞くこと」) 第2学年

No.10 以下の学年の英語の授業では、英語を聞いて
(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていましたか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	2015年度	回答数	58	31	17	12	4	122
		選択率	47.5%	25.4%	13.9%	9.8%	3.3%	100%
B1	2015年度	回答数	570	587	272	145	41	1,615
		選択率	35.3%	36.3%	16.8%	9.0%	2.5%	100%
A2	2015年度	回答数	4,422	7,979	3,896	1,784	891	18,882
		選択率	23.4%	42.3%	20.7%	9.4%	4.2%	100%
A1	2015年度	回答数	9,329	23,459	12,794	8,291	3,326	57,199
		選択率	16.3%	41.0%	22.4%	14.5%	5.8%	100%



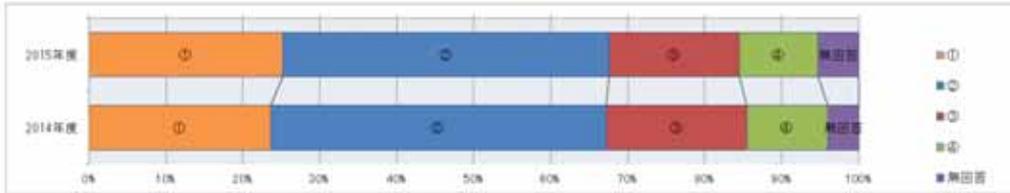
・No. 11-(2) 「リーディングでの概要把握や要点理解」 第2学年

No.11 次の学年の英語の授業では、英語を読んで、
 (一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていただきたいと思いますか。

(2) 第2学年

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	19,910	33,480	13,384	8,005	4,205	78,984
	選択率	25.2%	42.4%	16.9%	10.1%	5.3%	100%
2014年度	回答数	15,599	28,793	12,065	6,965	2,655	66,077
	選択率	23.6%	43.6%	18.3%	10.5%	4.0%	100%



・No. 11-(2) 「リーディングでの概要把握や要点理解」

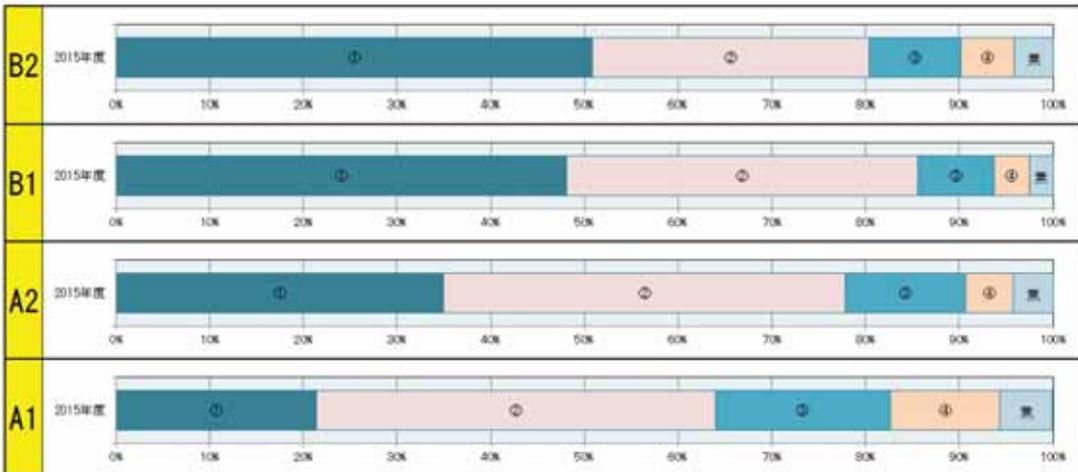
クロス集計(生徒質問紙×「読むこと」) 第2学年

No.11 次の学年の英語の授業では、英語を読んで、
 (一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていただきたいと思いますか。

(2) 第2学年

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	2015年度	回答数	62	36	12	7	5	122
		選択率	50.8%	29.5%	9.8%	5.7%	4.1%	100%
B1	2015年度	回答数	778	605	131	62	41	1,615
		選択率	48.0%	37.5%	8.1%	3.8%	2.5%	100%
A2	2015年度	回答数	6,585	8,099	2,418	987	793	18,882
		選択率	34.9%	42.9%	12.8%	5.1%	4.2%	100%
A1	2015年度	回答数	12,238	24,337	18,824	6,770	3,229	57,198
		選択率	21.4%	42.5%	18.8%	11.8%	5.8%	100%



生徒質問紙 No. 10「英語を聞いて、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか」及び No. 11「英語を読んで、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか」との問いに対し、「そう思う」(選択肢①)と「どちらかといえば、そう思う」(選択肢②)の合計が「聞くこと」で59.5%(昨年度の58.2%より1.3ポイント増加)、「読むこと」で67.6%(昨年度の67.2%より0.4ポイント増加)で、昨年度とほぼ同じ回答状況であった。クロス集計の結果を見ると、昨年度同様、A1からB1レベルでは、英語力が上がるにつれて概要や要点をとらえる活動をしていた割合が高くなる傾向が認められる。

(7) 英語を聞いたり読んだりする際、未知語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりして理解することは、一定程度行われている。

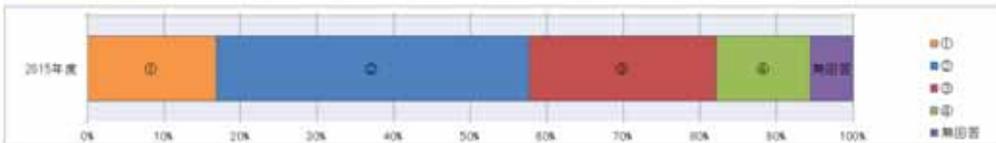
・No. 13-(2) 「リスニング及びリーディングでの未知語の推測・背景知識の活用」 第2学年

№.13 次の学年の英語の授業では、英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	13,287	32,237	19,373	9,660	4,427	79,984
	選択率	16.6%	40.8%	24.5%	12.2%	5.6%	100%



・No. 13-(2) 「リスニング及びリーディングでの未知語の推測・背景知識の活用」

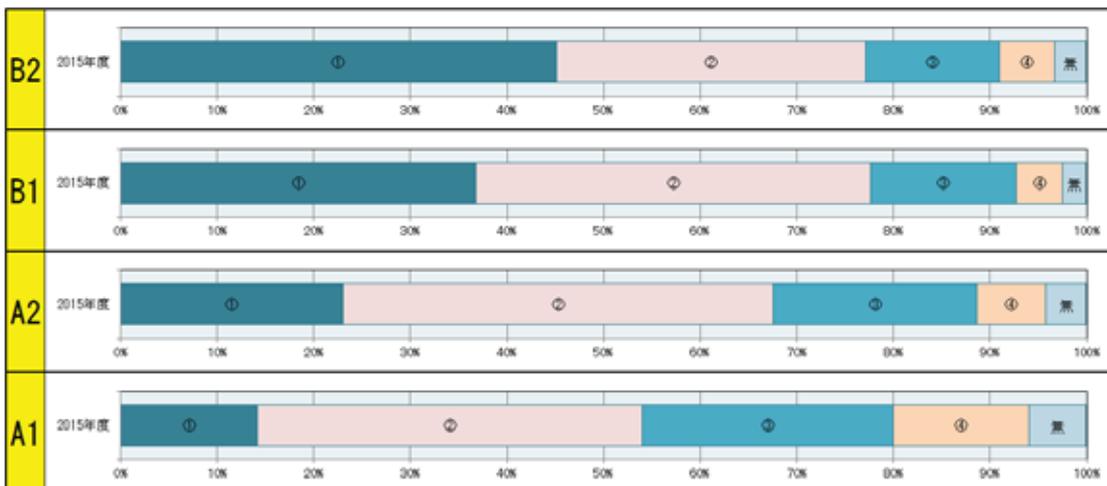
クロス集計(生徒質問紙×「聞くこと」) 第2学年

№.13 次の学年の英語の授業では、英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	2015年度	回答数	55	39	17	7	4	122
		選択率	45.1%	32.0%	13.9%	5.7%	3.3%	100%
B1	2015年度	回答数	594	659	244	77	41	1,615
		選択率	36.8%	40.8%	15.1%	4.8%	2.5%	100%
A2	2015年度	回答数	4,332	8,408	3,953	1,367	801	18,862
		選択率	23.0%	44.6%	21.0%	7.2%	4.2%	100%
A1	2015年度	回答数	8,127	22,747	14,888	7,988	3,438	57,198
		選択率	14.2%	39.8%	26.0%	14.0%	6.0%	100%



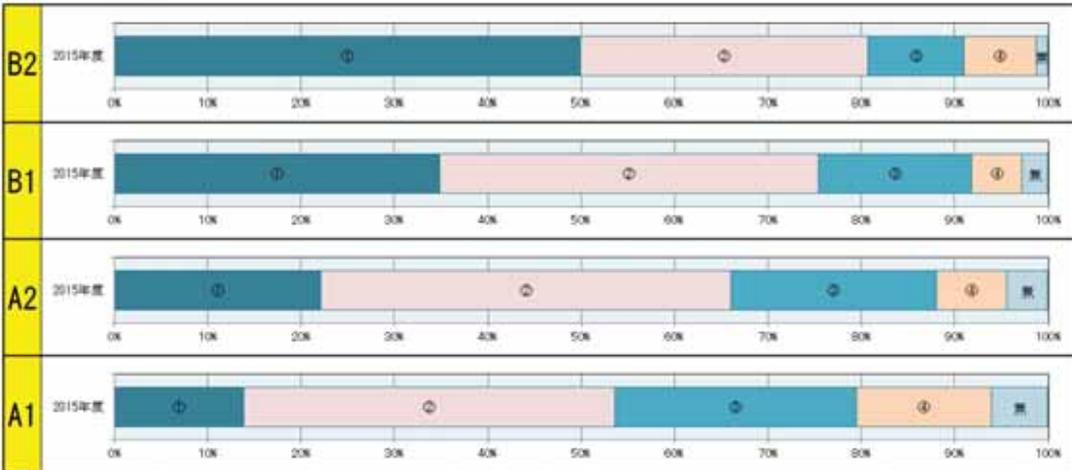
・No. 13-(2) 「リスニング及びリーディングでの未知語の推測・背景知識の活用」
 クロス集計(生徒質問紙×「読むこと」) 第2学年

No.13 次の学年の英語の授業では、英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	2015年度	回答数	39	24	9	6	1	79
		選択率	50.0%	30.9%	10.3%	7.7%	1.3%	100%
B1	2015年度	回答数	540	830	255	84	44	1,553
		選択率	34.8%	40.8%	16.4%	5.4%	2.8%	100%
A2	2015年度	回答数	5,188	10,244	5,120	1,765	1,020	23,327
		選択率	22.1%	43.9%	22.0%	7.6%	4.4%	100%
A1	2015年度	回答数	7,363	20,956	13,719	7,594	3,211	52,843
		選択率	13.9%	39.7%	26.0%	14.4%	6.1%	100%



今年度新たに調査した質問項目である No.13「英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていたと思いますか」との問いに対し、「そう思う」（選択肢①）と「どちらかといえば、そう思う」（選択肢②）と合計が 57.6%で、リスニングやリーディングにおいて未知語の推測や背景知識の活用が一定程度行われていることがわかる。クロス集計の結果をしてみると、「聞くこと」と「読むこと」いずれにおいても、前述の No.10 及び No.11 と同様、英語力が上がるにつれてその割合が高くなっている。

(8) 聞いたり読んだりしたことをもとにして英語で話し合ったり書いたりする活動はあまり経験していない。特にA1レベルにおいて、この傾向が顕著である。

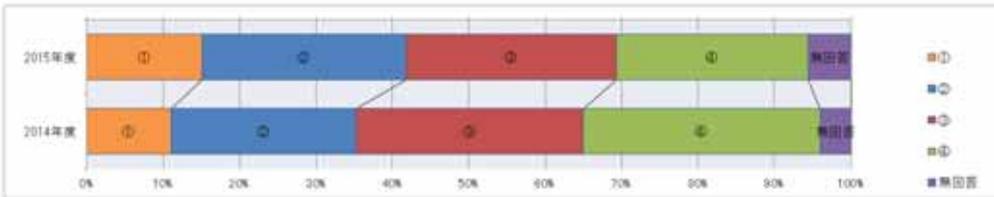
・No. 14-(2)「英語での話し合いや意見交換」 第2学年

No.14 次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	11,911	21,090	21,724	19,831	4,428	78,984
	選択率	15.1%	26.7%	27.5%	25.1%	5.6%	100%
2014年度	回答数	7,290	15,999	19,634	20,482	2,659	66,067
	選択率	11.0%	24.2%	29.7%	31.0%	4.0%	100%



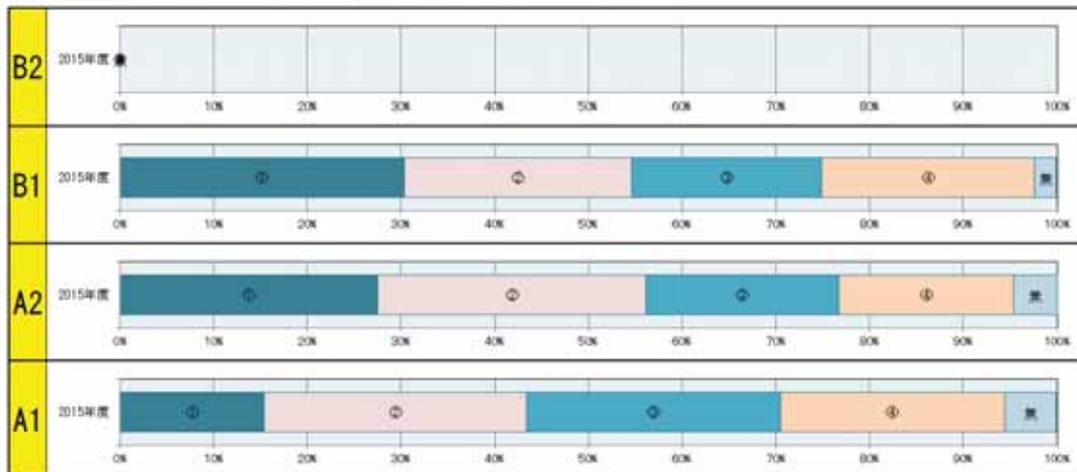
・No. 14-(2)「英語での話し合いや意見交換」 クロス集計(生徒質問紙×「話すこと」) 第2学年

No.14 次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	2015年度	回答数	0	0	0	0	0	0
		選択率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
B1	2015年度	回答数	63	50	42	47	5	207
		選択率	30.4%	24.2%	20.3%	22.7%	2.4%	100%
A2	2015年度	回答数	449	469	336	306	75	1,635
		選択率	27.5%	28.7%	20.6%	18.7%	4.6%	100%
A1	2015年度	回答数	2,285	4,137	4,016	3,532	823	14,793
		選択率	15.4%	28.0%	27.1%	23.9%	5.6%	100%



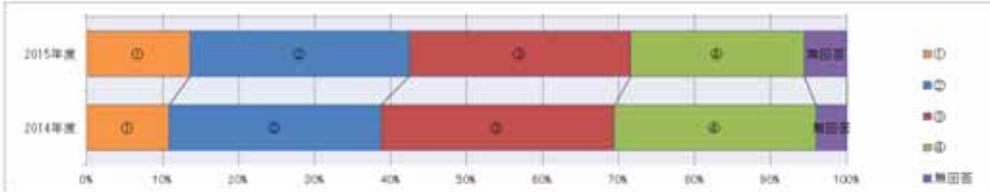
・No. 16-(2)「英語で書いてまとめる、自分の考えを英語で書く」 第2学年

No.16 次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いていたりしていませんか。

(2) 第2学年

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	10,708	22,818	22,981	18,032	4,445	78,984
	選択率	13.6%	28.9%	29.1%	22.8%	5.6%	100%
2014年度	回答数	7,175	18,382	20,311	17,554	2,665	66,087
	選択率	10.9%	27.8%	30.7%	26.6%	4.0%	100%



・No. 16-(2)「英語で書いてまとめる、自分の考えを英語で書く」

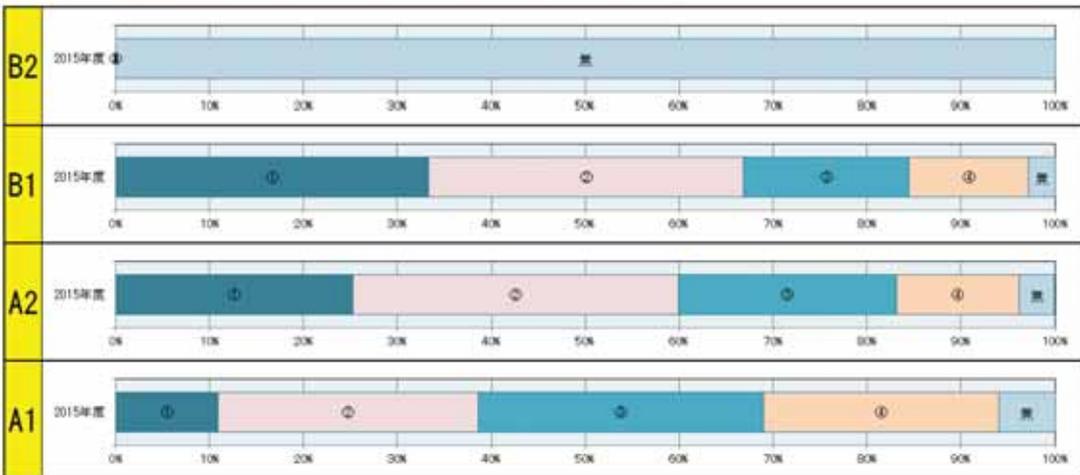
クロス集計(生徒質問紙×「書くこと」) 第2学年

No.16 次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いていたりしていませんか。

(2) 第2学年

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	2015年度	回答数	0	0	0	0	1	1
		選択率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100%
B1	2015年度	回答数	176	177	93	67	15	528
		選択率	33.3%	33.5%	17.6%	12.7%	2.9%	100%
A2	2015年度	回答数	3,412	4,687	3,129	1,780	518	13,486
		選択率	25.3%	34.6%	23.2%	13.1%	3.8%	100%
A1	2015年度	回答数	6,998	17,705	19,496	16,000	3,830	64,029
		選択率	10.9%	27.7%	30.4%	25.0%	6.0%	100%



生徒質問紙 No.14「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか」及び No. 16「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか」との問いに対し、「そう思う」（選択肢①）と「どちらかといえば、そう思う」（選択肢②）の合計が No.14（話すこと）は 41.8%（昨年度の 35.2%より 6.6 ポイント増加）、No.16（書くこと）は 42.5%（昨年度の 38.7%より 3.8 ポイント増加）で、昨年度と比べて改善傾向にある。しかし、依然として半数には届いておらず、聞いたり読んだりしたことを活用して英語で意見交換をしたり自分の考えを書いたりする活動が十分ではない状況である。昨年度同様、特に A1 レベルでは「どちらかといえば、そう思わない」（選択肢③）や「そう思わない」（選択肢④）と回答した割合が高い（No.14 の選択肢③と④の合計 51.0%、No.16 の同合計 55.4%）。

(9)スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの活動や、即興で話す活動を経験している割合がかなり少ない。一方、これらの活動を経験しているほどスピーキング力が高い。

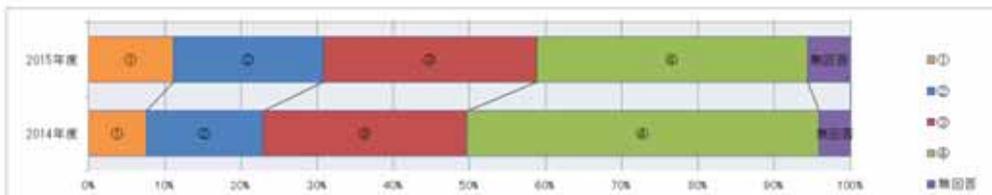
・No. 17-(2)「スピーチやプレゼンテーション」第2学年

No.17 次の学年の英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	8,893	15,517	22,171	28,051	4,442	79,984
	選択率	11.1%	19.6%	28.1%	35.5%	5.6%	100%
2014年度	回答数	5,028	10,121	17,852	30,579	2,697	66,067
	選択率	7.6%	15.3%	26.7%	46.3%	4.1%	100%



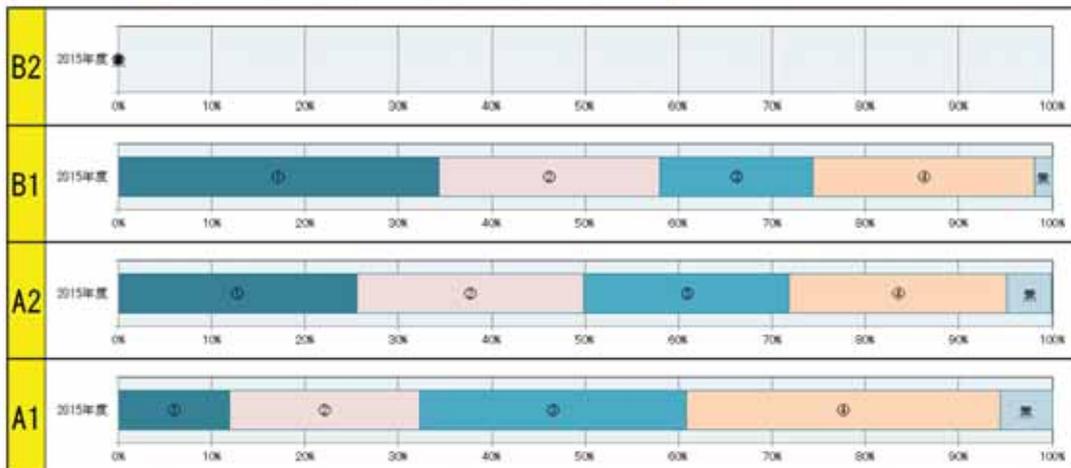
・No. 17-(2)「スピーチやプレゼンテーション」クロス集計(生徒質問紙×「話すこと」)第2学年

No.17 次の学年の英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

(2) 第2学年

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	2015年度	回答数	0	0	0	0	0	0
		選択率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
B1	2015年度	回答数	71	49	34	49	4	207
		選択率	34.3%	23.7%	16.4%	23.7%	1.9%	100%
A2	2015年度	回答数	417	398	360	381	79	1,635
		選択率	25.5%	24.3%	22.0%	23.3%	4.8%	100%
A1	2015年度	回答数	1,754	3,024	4,216	4,971	828	14,793
		選択率	11.9%	20.4%	28.5%	33.6%	5.6%	100%



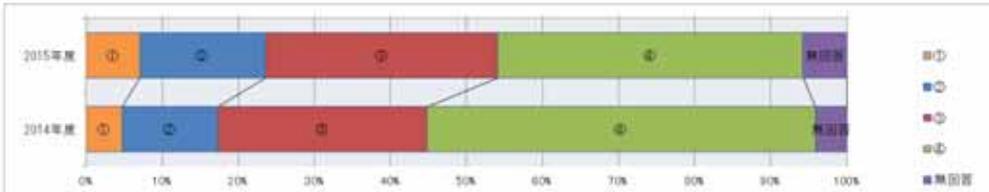
・No. 18-(2) 「ディベートやディスカッション」 第2学年

No.16 次の学年の英語の授業では、英語でディベートやディスカッションをしていたと思いますか。

(2) 第2学年

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	5,500	13,040	24,127	31,697	4,534	78,994
	選択率	7.1%	16.5%	30.5%	40.1%	5.7%	100%
2014年度	回答数	3,126	8,388	18,173	33,730	2,731	66,067
	選択率	4.7%	12.6%	27.5%	51.1%	4.1%	100%



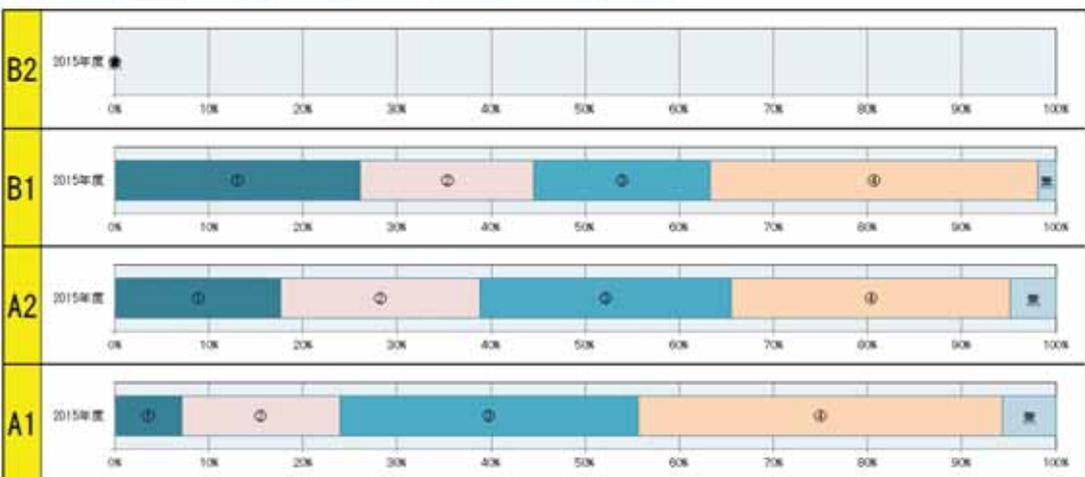
・No. 18-(2) 「ディベートやディスカッション」 クロス集計(生徒質問紙×「話すこと」)第2学年

No.18 次の学年の英語の授業では、英語でディベートやディスカッションをしていたと思いますか。

(2) 第2学年

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

CEFR	実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
B2	2015年度	回答数	0	0	0	0	0	0
		選択率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
B1	2015年度	回答数	54	38	38	72	4	207
		選択率	26.1%	18.4%	18.8%	34.8%	1.9%	100%
A2	2015年度	回答数	287	347	437	486	78	1,635
		選択率	17.6%	21.2%	26.7%	29.7%	4.8%	100%
A1	2015年度	回答数	1,055	2,470	4,887	5,729	844	14,793
		選択率	7.1%	16.8%	31.7%	38.7%	5.7%	100%



・No. 15-(2) 「与えられた話題について、即興で話す活動」 第2学年

No.15 次の学年の英語の授業では、与えられた話題について、
(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていましたか。

(2) 第2学年



・No. 15-(2) 「与えられた話題について、即興で話す活動」

クロス集計(生徒質問紙×「話すこと」) 第2学年

No.15 次の学年の英語の授業では、与えられた話題について、
(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていましたか。

(2) 第2学年



生徒質問紙 No. 17「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか」及び No. 18「英語でディベートやディスカッションをしていたと思いますか」との問いに対し、「そう思う」（選択肢①）と「どちらかといえば、そう思う」（選択肢②）の合計が、スピーチやプレゼンテーションは 30.7%（昨年度の 22.9%より 7.8 ポイント増加）、ディベートやディスカッションは 23.6%（昨年度の 17.3%より 6.3 ポイント増加）と、いずれも昨年度より増加している。しかし、スピーチやプレゼンテーションとは異なり、相手と即興でやり取りすることが求められるディベートやディスカッションを経験した割合は依然として低い。

今年度新たに調査した質問項目である No. 15「与えられた話題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていたと思いますか」についても、「そう思う」（選択肢①）と「どちらかといえば、そう思う」（選択肢②）と回答した生徒の割合は 30.4%にとどまり、活動が十分ではないことがわかる。

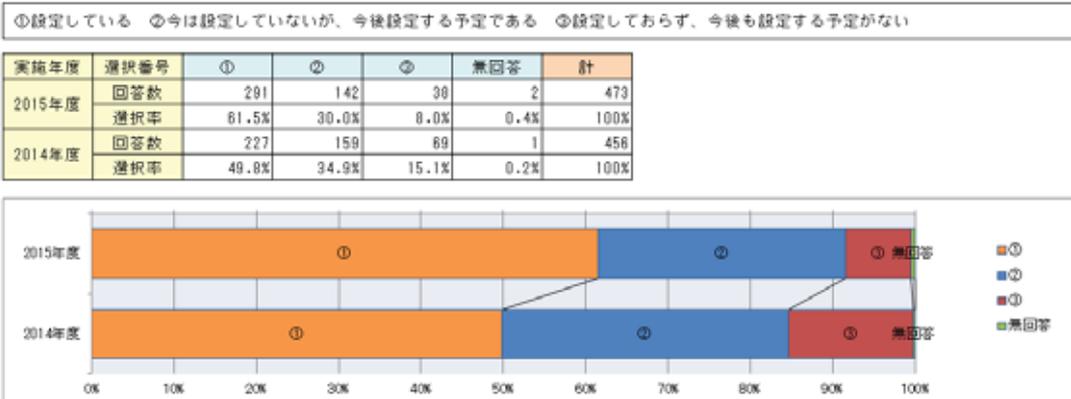
「話すこと」のスコアとのクロス集計の結果を見ると、No.17・No.18 は昨年度同様、スコアが上がるにつれて活動をしている割合が高くなる傾向が認められる。今年度新たに調査した No.15 についても「話すこと」のスコアが高いほど、即興で話す活動している割合が高くなっている。

3.2 学校・教員質問紙調査から

(1)学習到達目標に関する記述文(CAN-DO statements)の設定は進んでいる。

・No.8 「CAN-DO リスト形式での学習到達目標の整備」

No.8 生徒の英語力に関する学習到達目標について、CAN-DO リストの形で技能別に設定していますか。



学校質問紙 No. 8 「生徒の英語力に関する学習到達目標について、CAN-DO リストの形で技能別に設定していますか」との問いに対し、「設定している」（選択肢①）と回答した学校は 61.5%であり、昨年度の同回答 49.8%より 11.7 ポイント増加している。また、30.0%の学校では今後設定する計画を持っている（選択肢②）と回答しており、CAN-DO リスト形式で技能別に学習到達目標を設定することについては整備が進んでいると言える。

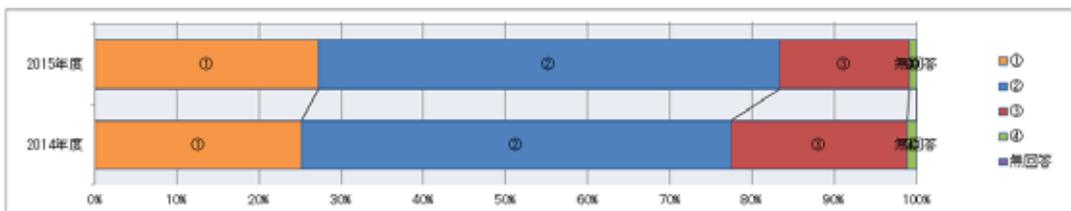
(2)言語活動に重点を置いた指導計画の作成はより一層浸透してきている。

・No.3「言語活動に重点を置いた指導計画」

No.3 英語教育に関して、言語活動に重点を置いた指導計画を作成していますか。

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	129	265	75	4	0	473
	選択率	27.3%	56.0%	15.9%	0.8%	0.0%	100%
2014年度	回答数	115	238	98	5	0	456
	選択率	25.2%	52.2%	21.5%	1.1%	0.0%	100%



学校質問紙 No. 3「言語活動に重点を置いた指導計画を作成していますか」との質問に対し、「当てはまる」(選択肢①)と「どちらかといえば当てはまる」(選択肢②)の合計は83.3%で、昨年度の77.4%より5.9ポイント増加している。言語活動を中心に据えて指導計画を作成することについては、相当数の学校で行われていることがわかる。

(3) 複数の技能を統合した言語活動への取組に関して改善の余地がある。

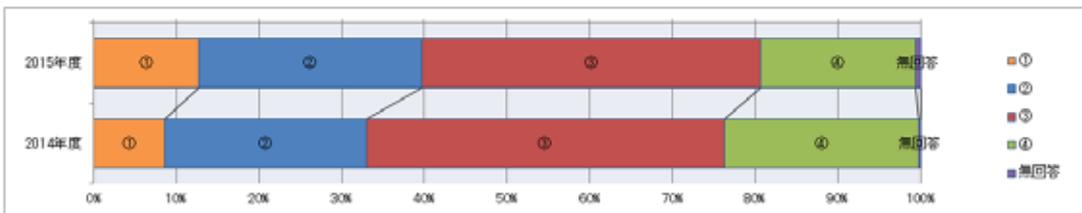
・No. 1-(4) 「聞いたり読んだりしたことに基づき、英語で話合いや意見交換をする」

No.1 番段の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答して下さい。

(4) 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	361	761	1,158	528	18	2,826
	選択率	12.8%	26.9%	41.0%	18.7%	0.6%	100%
2014年度	回答数	216	606	1,080	587	4	2,493
	選択率	8.7%	24.3%	43.3%	23.5%	0.2%	100%



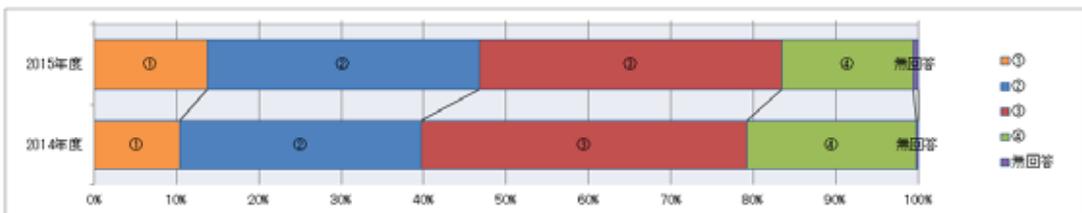
・No. 1-(5) 「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて書く」

No.1 番段の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答して下さい。

(5) 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	387	933	1,038	450	18	2,826
	選択率	13.7%	33.0%	36.7%	15.9%	0.6%	100%
2014年度	回答数	258	732	985	514	4	2,493
	選択率	10.3%	29.4%	39.5%	20.6%	0.2%	100%



教員質問紙 No. 1-(4)「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか」との問いに対し、「よくしている」(選択肢①)と「どちらかといえば、している」(選択肢②)の合計は 39.7%で、昨年度の 33.0%より 6.7 ポイント増加している。

また、No. 1-(5)「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか」との問いに対し、「よくしている」(選択肢①)と「どちらかといえば、している」(選択肢②)の合計は 46.7%で、昨年度の 39.7%より 7.0 ポイント増加している。

いずれの質問についても昨年度と比べて改善が見られるが、聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりする技能統合型の活動に取り組んでいる教員は依然として 50%以下であり、更なる改善が必要である。

(4)スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの取組に関しては依然として改善の余地がある。

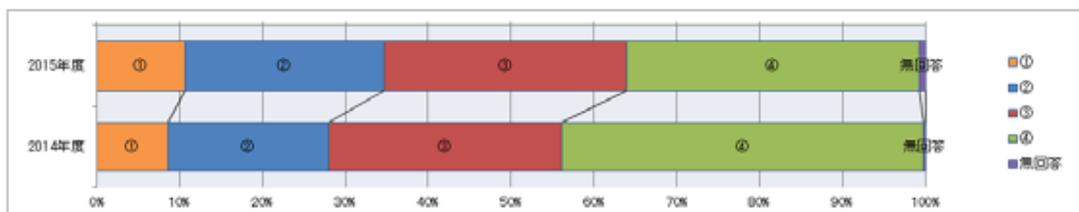
・No. 1-(14)「スピーチやプレゼンテーション」

No.1 番段の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答して下さい。

(14) スピーチやプレゼンテーションを行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	301	600	827	990	20	2,826
	選択率	10.7%	24.1%	29.3%	35.3%	0.7%	100%
2014年度	回答数	215	493	700	1,091	4	2,493
	選択率	8.6%	19.4%	28.1%	43.8%	0.2%	100%



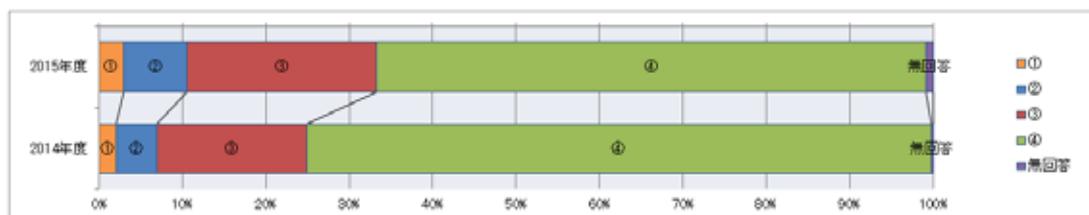
・No. 1-(15)「ディベートやディスカッション」

No.1 番段の英語の授業において、以下の言語活動や指導を行っているかについて、最も当てはまる選択肢を回答して下さい。

(15) ディベートやディスカッションを行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	84	215	642	1,862	23	2,826
	選択率	3.0%	7.6%	22.7%	65.9%	0.8%	100%
2014年度	回答数	51	122	448	1,867	5	2,493
	選択率	2.0%	4.9%	18.0%	74.9%	0.2%	100%



教員質問紙 No. 1-(14)「スピーチやプレゼンテーションを行っていますか」との問いに対し、「よくしている」(選択肢①)と「どちらかといえば、している」(選択肢②)の合計は34.8%で、昨年度の28.0%より6.8ポイント増加している。

また、No. 1-(15)「ディベートやディスカッションを行っていますか」との問いに対し、「よくしている」(選択肢①)と「どちらかといえば、している」(選択肢②)の合計は10.6%で、昨年度の6.9%より3.7ポイント増加している。

いずれの質問についても昨年度より改善の傾向が見られるが、次の点で、依然として課題が大きい。

- ・他の言語活動と比べると、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動に取り組む教員は圧倒的に少ない。
- ・特に、実際のコミュニケーション場面で必要なやり取りをする力を効果的に育成することができるディベートやディスカッションに取り組んでいる教員はわずか1割で、極端に少ない。

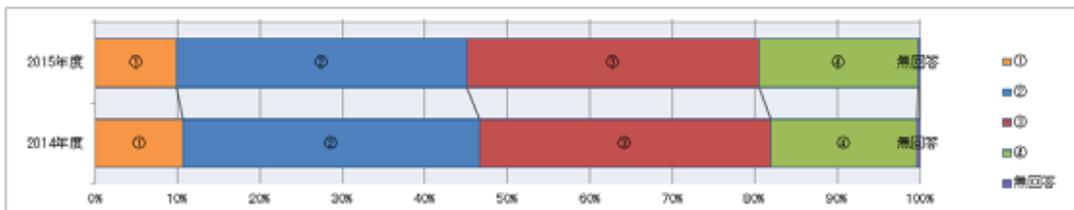
(5) 教員研修の成果を日々の教育活動へ生かす工夫がより一層必要である。

・No.5 「教員の校内外の研修や研究会への参加」

No.5 校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

実施年度	選択番号	①	②	③	④	無回答	計
2015年度	回答数	281	984	1,002	542	7	2,826
	選択率	9.9%	35.2%	35.5%	19.2%	0.2%	100%
2014年度	回答数	267	895	880	442	9	2,493
	選択率	10.7%	35.9%	35.3%	17.7%	0.4%	100%



教員質問紙 No. 5 「校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか」との問いに対し、「あまりしていない」（選択肢③）と「ほとんどしていない」（選択肢④）の合計が 54.7% となっており、昨年度の 53.0% から 1.7 ポイント増加している。昨年度に続いて今年度も半数以上の教員が研修などへ参加した成果を日々の教育活動に生かしていないと回答しているが、これには、次の 2 つの可能性が考えられる。

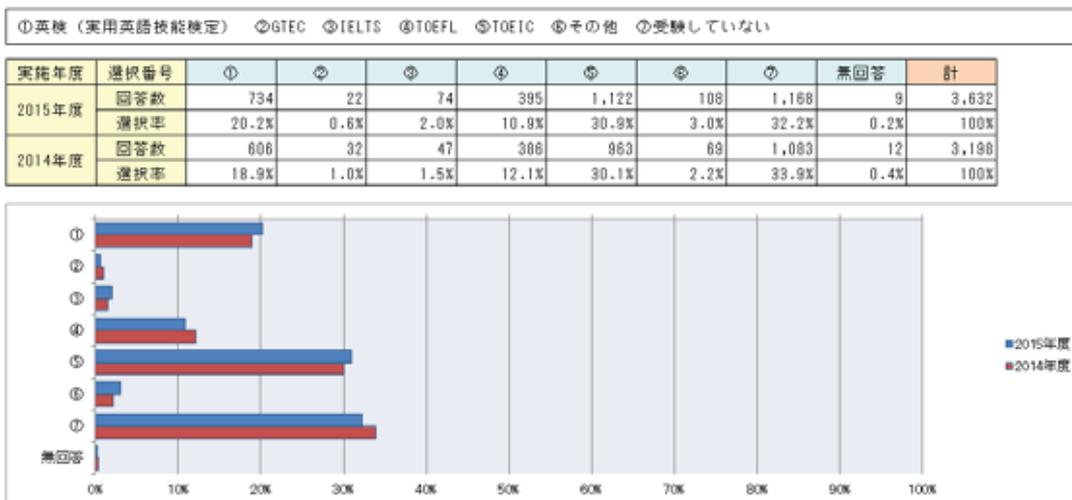
- ・研修などへの参加自体が十分にできていない。
- ・研修の成果を実際の教育活動に生かしていない。

上記のどちらの要因が強いのか解釈が難しいが、引き続き、教員の研修制度に何らかの改善やサポートが必要であると言えるだろう。

(6) 教員自身が英語力を向上させるための努力を支援していく必要がある。

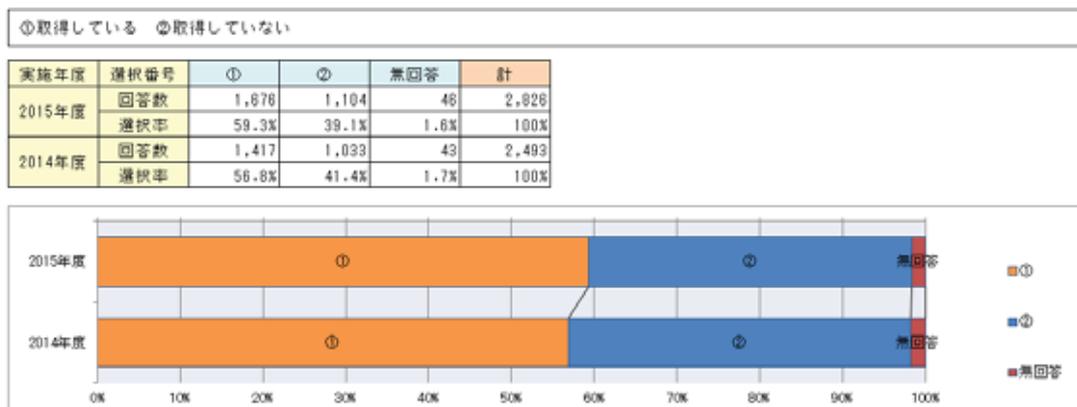
・No.6 「資格・検定試験の受験経験」

No.6 教員になってから、英語に関する外部検定試験を受験しましたか（複数回答可）。



・No.7 「教員の英検準1級、TOEFL iBT 80点、TOEIC 730点以上の取得状況」

No.7 外部検定試験を受験し、英検準1級、TOEFL iBT 80点、TOEIC 730点以上のいずれかを取得していますか。



教員質問紙 No. 6 「教員になってから、英語に関する外部検定試験を受験しましたか」との問いに対し、「受験していない」（選択肢⑦）が 32.2%となっている。昨年度の 33.9%から 1.7 ポイント減少してはいるが、依然として 3 割程度の教員は外部検定試験を受けていないことがわかる。

また、No. 7 「外部検定試験を受験し、英検準 1 級、TOEFL iBT 80 点、TOEIC 730 点以上のいずれかを取得していますか」との問いに対し、「取得していない」（選択肢②）が 39.1%（昨年度の 41.4%より 2.3 ポイント減少）となっており、こちらも依然として約 4 割の教員が取得していないことがわかる。

4. 改善のポイント

4.1 生徒質問紙調査から

○「英語の学習が好きではない」との回答が半数を上回る。

☞ 英語力が低い A1 レベルほど「英語学習が嫌い」と回答していることから、英語への苦手意識を軽減することと同時に、英語が使えると実感できる体験を増やすことで前向きに英語学習に取り組むようにすることが必要である。そのためには、授業において、生徒の状況に応じて段階的にタスクレベルを上げていくなど、生徒が「できる」と体感する場面を増やす工夫が求められる。同時に、知識の蓄積や技能の習得にとどめず、生徒が思考・判断・表現をして主体的に課題解決するような活動中心の授業形態にしていくことも必要である。

○将来の英語使用のイメージが、現在の英語力のレベルによって異なる。

○英語を使った各種活動を経験している生徒が非常に少ない。

☞ 英語力が高い生徒ほど将来の自分が英語を使ってしたいことが明確であることがわかったが、A1 レベルの生徒であっても、授業内外で実際に英語を使う体験を積んだり、実際に英語を使って活躍している人々について見聞きしたりすることで、将来の英語使用のイメージを作り上げていくことが可能になると考えられる。その際、できないことにフォーカスするのではなく、英語を用いてできるようになったことを評価し、更なる学習意欲を引き出すようにしたい。

また、グローバル化が進展する社会における英語の必要性に気づかせたり、実際に英語が使われている日常的な場面を紹介したりして、より具体的に英語使用のイメージを持たせることも必要である。

○資格・検定試験を受験した経験がない生徒が半数を超えている。

☞ 資格・検定試験については4技能の測定ができるテストも多い上、実際に多くの大学における入学者選抜での活用が始まっており、この傾向は今後ますます強まっていくことが予想される。

資格・検定試験を受験していない理由として、「受験する必要性を感じていない」、「自分の英語力に自信がない」という回答が多い。逆に考えれば、授業などを通じて自信をつけ、英語使用の将来イメージを膨らませることができれば、資格・検定

試験に挑戦しようとする意欲も出てくる可能性があると考えられる。また、試験結果から有益な情報を得て学習方法を改善していくなど、資格・検定試験の診断的側面を伝えて生徒の受験を促すことも一案として考えられる。

○聞いたり読んだりしたことを活用して英語で議論したり書いたりする活動をあまり経験していない。

○スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの活動を経験している割合が少ない。

☞ 受容技能である「聞くこと」や「読むこと」と比べ、産出技能である「話すこと」、「書くこと」の活動が少ないことが質問紙調査結果から明らかになっている。各技能をバランスよく指導することが大切であるが、各技能を個別に扱うのではなく、次のような複数の技能を統合した活動を通して総合的なコミュニケーション能力を育成することが求められる。

<「聞くこと」「読むこと」(インプット)と「話すこと」「書くこと」(アウトプット)の連携>

(活動例) 聞いた内容を第三者に口頭で伝える。

読んだ情報をもとに自分の意見を書く。

<「話すこと」と「書くこと」(アウトプット同士)の連携>

(活動例) ペアで出し合った意見を書いてまとめる。

自分が話したことを文法や表現に注意しながら書く。

上記のような活動を行う際、実際の英語使用場面を想定し、

- ・初めて聞いたり読んだりする素材を扱う
- ・自分の意見など相手が知らない情報を話したり書いたりする

ということに留意する必要がある。

なお、生徒の英語力に関わらず技能統合型の活動は重要であるが、例えば A1 レベルの生徒に対しては、タスクレベルを段階的に上げていったり、理解を促進するための視覚的な補助資料を用いたりするといった手立ても有効である。

4.2 学校・教員質問紙調査から

○CAN-DO リスト形式での学習到達目標の設定は多くの学校に浸透している。

○言語活動に重点を置いた指導計画を作成している割合が増加している。

○技能の統合を意識した言語活動への取組に関して改善の余地がある。

○話す活動の取組に関しては依然として改善の余地がある。

☞ CAN-DO リスト形式での学習到達目標の設定や言語活動に重点を置いた指導計画の作成など、指導の全体設計・デザインについては促進されている。しかしながら、実際の授業内での活動には改善の余地があるという結果が出ている。そこで、次の点について再度チェックする必要があるだろう。

- ・学習到達目標が4技能をバランスよく育成するものになっているか。
- ・設定した学習到達目標と年間・単元計画などの関係が明確になっているか。
- ・学習到達目標における各能力記述文について、その達成に向けて行うべき言語活動（技能統合型の言語活動を含む）、実施時期、使用教材、評価方法が明確になっているか。

○教員研修の成果を日々の教育活動へ生かす工夫がより一層必要である。

○教員自身が英語力を向上させるための努力を支援していく必要がある。

☞ 校内外の研修や研究会の成果を日頃の教育活動に積極的に反映させている教員が半数に満たない。教員が研修や研究会に参加自体できていない場合は、教育委員会、学校の管理職、教員の各レベルにおいて、研修に積極的に参加できる体制整備と、その成果を共有する仕組み作りが大切である。研修などに参加はできているがその成果を反映できていないという場合は、日々の教育活動に生かせる実践的なテーマに基づく研修・研究会の企画・実施が必要である。

各教育委員会では、英語教員の英語力や指導力を向上させるための研修を企画・運営することに加え、教員がその専門性を維持・向上させるためにも、英語に関する資格・検定試験の定期的な受験を推奨するなどの施策も検討する必要があるだろう。

5章 学校の取組紹介

A 高等学校	『『考えて、伝える』活動を増やし、コミュニケーション力を育成する』	134
B 高等学校	「学校の特性に合わせた細やかな工夫と、豊富なアウトプット活動で英語力を鍛える」	142
C 高等学校	「豊富なスピーキング活動と話したことについて書くことで、生徒のアウトプット力を高める」	148
D 高等学校	「スピーキングを軸としたアウトプット活動の充実で4技能と学ぶ意欲を育む」	156
E 高等学校	「英語を学ぶ主体性を育てるとともに、即興活動や要約で4技能をバランスよく育む」	164
F 高等学校	「目標設定とそれを見直す生徒把握の仕組み化により、生徒の実態に即した指導を実現」	170

取組紹介① A 高等学校

「考えて、伝える」活動を増やし、コミュニケーション力を育成する

◎学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成 27 年 10 月調査日時点）

設立・形態	明治 28（1895）年設立、全日制／共学
学級数・生徒数	第 1 学年・・・6 学級（240 人）、第 2 学年・・・6 学級（227 人）、第 3 学年・・・6 学級（236 人）
ALT 活用状況	常勤の ALT が 2 人。第 1 学年と第 2 学年の授業を中心に、それぞれ各クラスに週 1 時間入る。
取組の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・「初見」を重視した英文理解のステップ ・英語でのコミュニケーション活動を活性化させる 3 つの工夫 ・「考えて、伝える」活動を繰り返すことによる思考力と表現力の育成

◎試験結果、質問紙における学校の特徴

・第 3 学年の平均スコア（点）

	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
A 高等学校	166.0	172.9	78.4	9.9
全国平均（公立学校）	131.9 / 320	120.7 / 320	37.5 / 144	4.3 / 14

・生徒質問紙結果

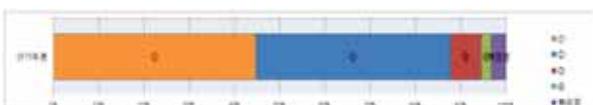
No.14 次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

①そう思う	②どちらかといえば、そう思う	③どちらかといえば、そう思わない	④そう思わない	無回答
60.2%	31.2%	4.5%	1.4%	2.7%



No.16 次の学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

①そう思う	②どちらかといえば、そう思う	③どちらかといえば、そう思わない	④そう思わない	無回答
44.8%	43.0%	6.8%	2.3%	3.2%



アウトプット活動の充実により、4 技能を順調に伸ばす

4 技能すべてにおいて、全国平均点を上回っている。

生徒質問紙 No.14 の「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか」に対し、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計が 91.4%で、全国平均の 41.8%を大きく上回っている。また、同 No.16 の「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか」に対し、肯定する回答が 87.8%で、全国平均の 42.5%より高い水準である。

◎調査結果に寄与したと考えられる授業内の取組

1. 「初見」を重視した英文理解のステップ

同校では、4～5年ほど前から、授業で初見の英文を読むことを重視している。予習として教科書を読んでくることを禁じているので、生徒は教科書の英文を授業で初めて読むことになる。また、各単元（レッスン）の学習においてセクションごとに細かく切ることをせず、単元全体を通読する。その際、熟語や構文についてはいくつかピックアップしてわかりやすくまとめたプリントを配付しているが、単語は未知語を類推しながら読むことになる。これは、通常のコミュニケーション場面を想定した指導であると同時に、結果的に、大学入試の長文読解にもつながる学力を育成することにつながっている。

授業はすべて英語で展開することを方針としているため、英文和訳をすることはしない。また、「読むこと」については、生徒が類推しながら概要や要点を把握することが重要だと考えている。そのため、未知語の意味を生徒が文脈から推測して説明したりジェスチャーで表現したりするとともに、教員は必要に応じてヒントを与えている。

また、多量の英文に触れることを重視しているため、教科書に加えて副教材や教員が準備した英文などを初見で読ませる指導も併せて行っている。1年次は生徒にとって身近な題材が多いが、2、3年次は社会的な問題を扱う英文も増え、リーディングを通して社会への考察を深めることにも寄与している。

2. 英語でのコミュニケーション活動を活性化させる3つの工夫

授業での生徒同士によるコミュニケーションを大切にしている同校では、活動を活性化させるために、次の3つの工夫をしている。

① 第1学年の初期指導の充実

中学校における学習の確実な定着と高等学校における学習への橋渡しとするため、「コミュニケーション英語基礎」を履修させている。1年次の半年間をかけ、アウトプット型の英語指導や日本語を使用しない英語の授業に生徒が慣れていくように配慮している。当初はクラスメートの目を気にしていたり、中学校とは指導方法が大きく変わって戸惑っていたりする生徒でも、基礎的なコミュニケーションを通じて徐々に慣れていき、「間違えても大丈夫」、「堂々と英語を楽しもう」という姿勢を持つようになる。このように高等学校での学びにソフトランディングしていく期間を設けることで、コミュニケーション英語指導が抵抗感なく浸透していくと考えられる。

② アウトプットするテーマ設定の工夫

単元の内容と生徒自身との距離を縮めるようなテーマを設定し、グループでのやりとりを経て、自分の意見作成につなげていく。例えば、著名なバイオリニストの生涯を扱った単元では、「偉大なことを成し遂げるには才能と努力のどちらがより大切か」について話し合った。

アウトプット活動におけるテーマを設定する際、基本的に次のような点に留意している。

- ・単元との関連性に配慮しつつ生徒が意見を持ちやすいようなテーマとする。
- ・当該テーマを自分のこととしてとらえられるような発問をする。
- ・様々な考え方が可能な（意見が分かれる）ものとする。

③ コミュニケーション活動を通じた教科書理解

授業では日本語で解説することはない。そのため、英語でのコミュニケーションを通して十分理解させていく必要がある。そのため、英文の難易度が低い教科書を使用することになっている。以前は、難易度が最も高いと思われる教科書を採択していたが、目的に合った教材選択をすることが教員の重要な役割だと考え、教材観の転換を図った。

上記①～③の指導に共通しているのは、生徒のどのような発話も教員がいったん受け止めることだ。その上で、修正すべき点があれば訂正を加えたり、言い直しを促したりする。「間違えていても内容が乏しくても、否定はしない」ということを、全教員が意識して授業を行っている。